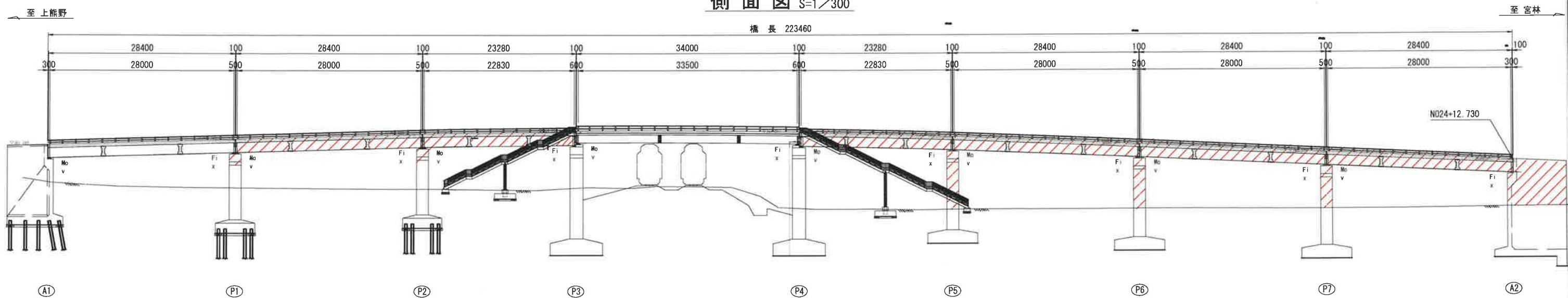


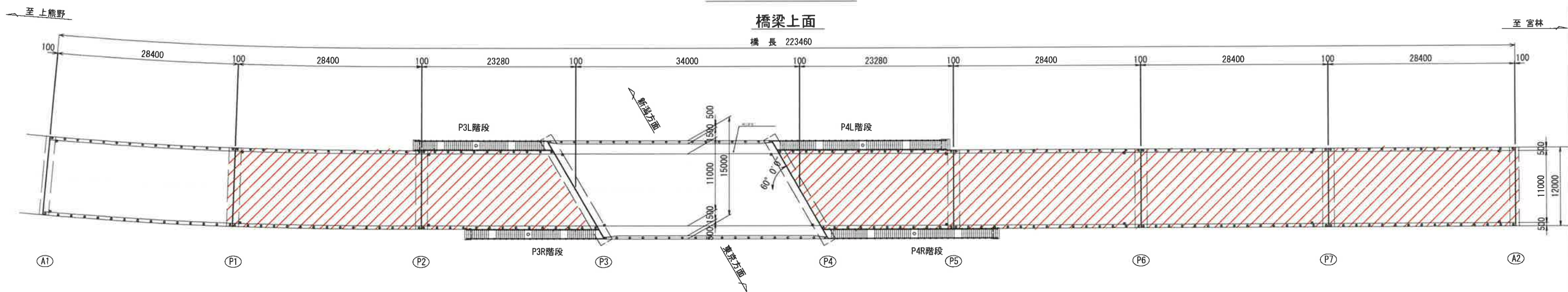
工事施工範囲

城平跨線橋 全体一般図(復元図その1)

側面図 S=1/300



平面図 S=1/300

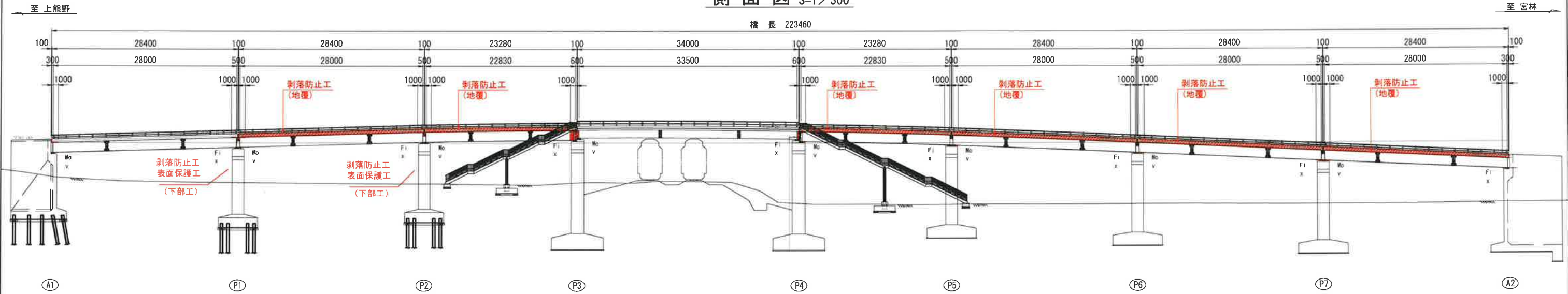


- 注記)
1. 本一般図は、既存資料を基に一部推定を加えて復元したものである。
 2. 補修箇所は、必ず現地確認の上で施工を行うこと。
 3. 施工に際しては、必ず現地に補修箇所及び数量を確認の上で行うこと。
 4. 桁下に支障となりうる建物があるため、移設や撤去ができない場合には、可能な範囲で補修を行うものとする。

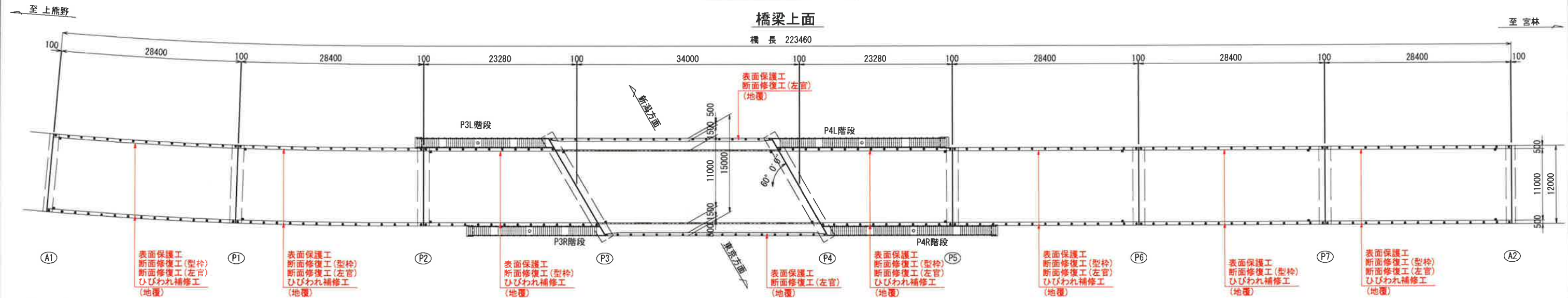
工事名	
図面名	城平跨線橋 全体一般図(復元図その1)
作成年月日	令和 2年 1月 日
縮尺	図示 図面番号 1 / 85
会社名	
事業者名	湯沢町地域整備部建設課

城平跨線橋 補修一般図(その1)

側面図 S=1/300



平面图 S=1/300



橋梁下面



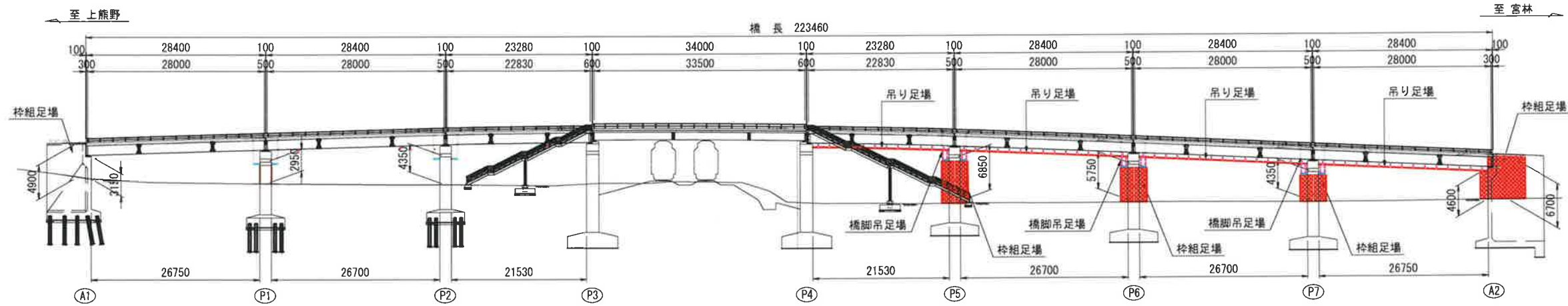
注記)

1. 補修箇所は、必ず現地確認の上で施工を行うこと。
2. 施工に際しては、必ず現地にて補修箇所及び数量を確認の上で行うこと。
3. 桁下に支障となりうる建物があるため、移設や撤去ができない場合には、可能な範囲で補修を行うものとする。

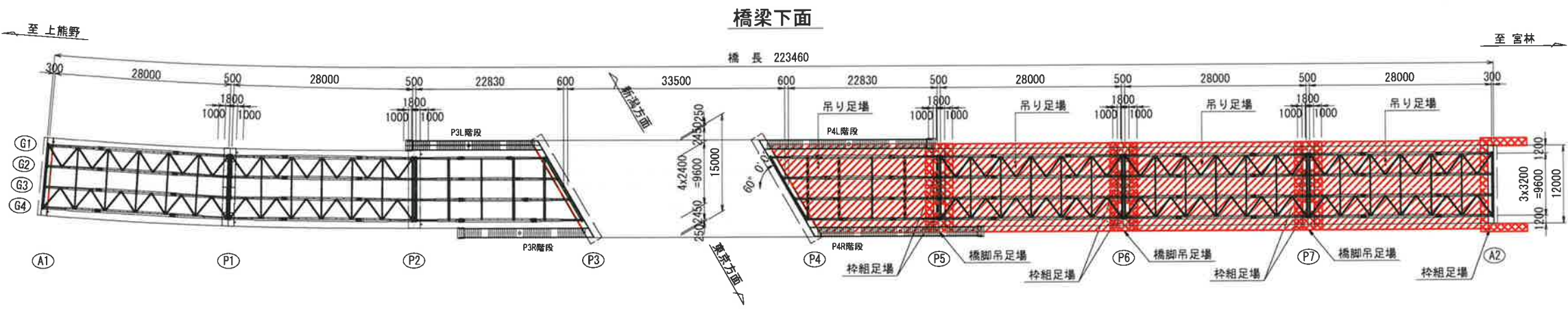
工 事 名			
図 面 名	城平線緑橋 補修一般図(その1)		
作成年月日	令和 2年 4月 日		
縮 尺	図 示	図面番号	3 / 85
会 社 名			
事業者名	湯沢町地域整備部建設課		

城平跨線橋 足場工参考図

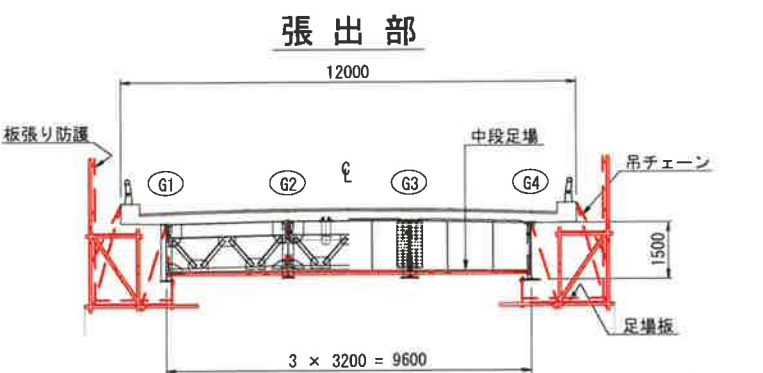
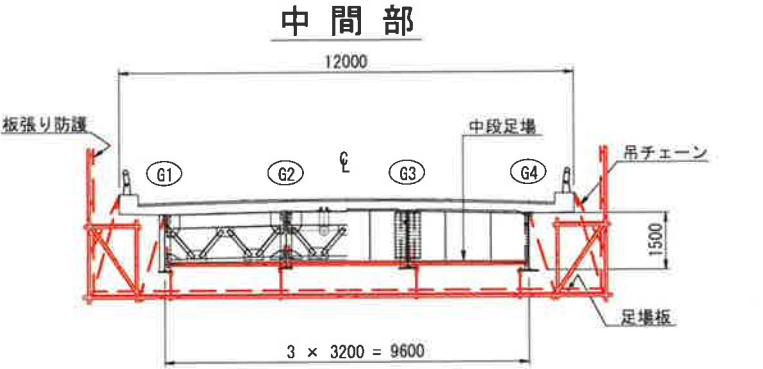
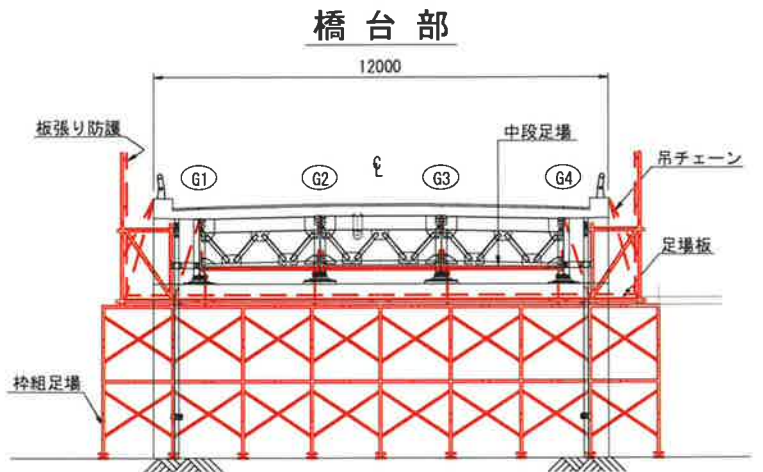
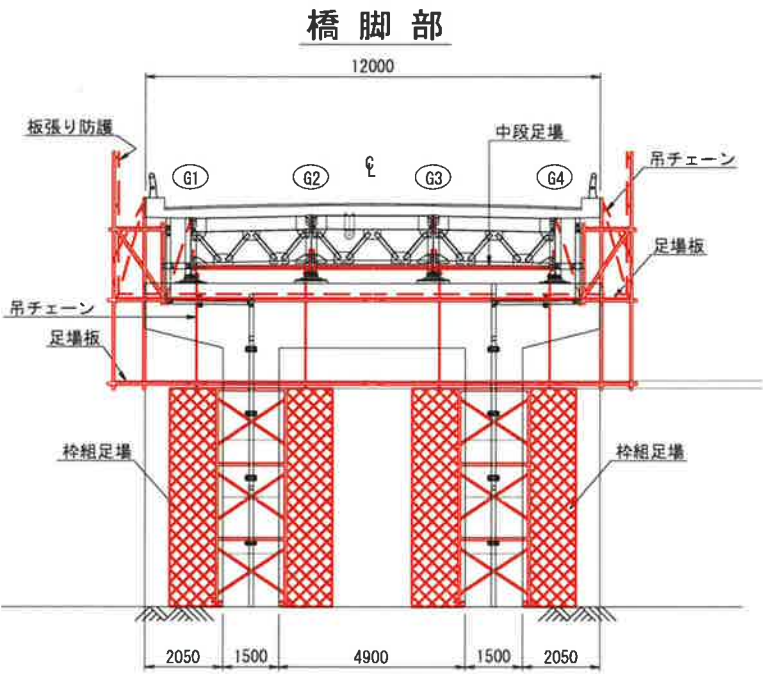
側面図 S=1/400



平面図 S=1/400



断面図 S=1/100

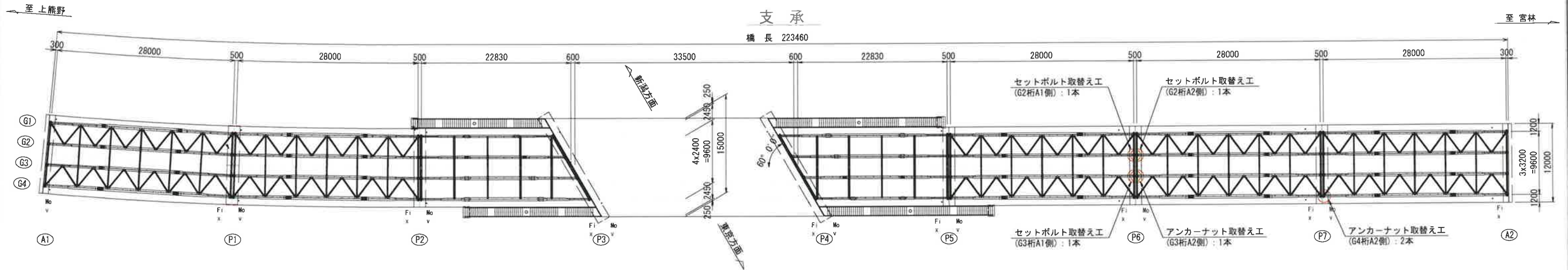


- 注記)
- 足場架設の際は、必要に応じて積載荷重を検討し、安全であることを確認のうえで施工にあたること。
 - 足場架設の際は、現地状況及び寸法を確認の上行うこと。
 - 足場には安全ネット及び養生シートなどの措置を行うこと。
 - 桁下に支障となりうる建物があるため、移設や撤去ができない場合には、可能な範囲で補修を行うものとする。

工事名	城平跨線橋 足場工参考図
図面名	城平跨線橋 足場工参考図
作成年月日	平成30年12月 日
縮尺	図示 図面番号 86 / 85
会社名	株式会社 構造技研新潟
事業者名	湯沢町地域整備部建設課

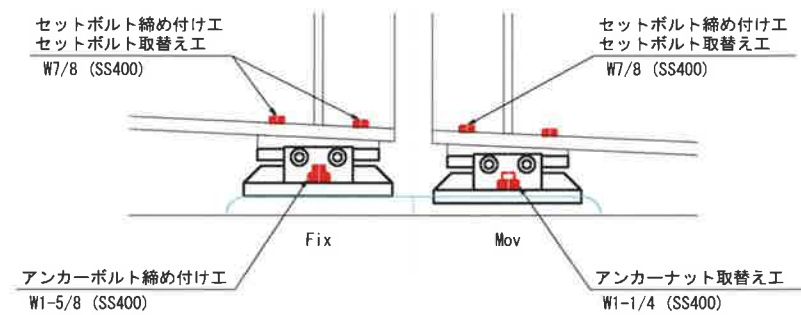
城平跨線橋 支承補修工

位置図 S=1/300

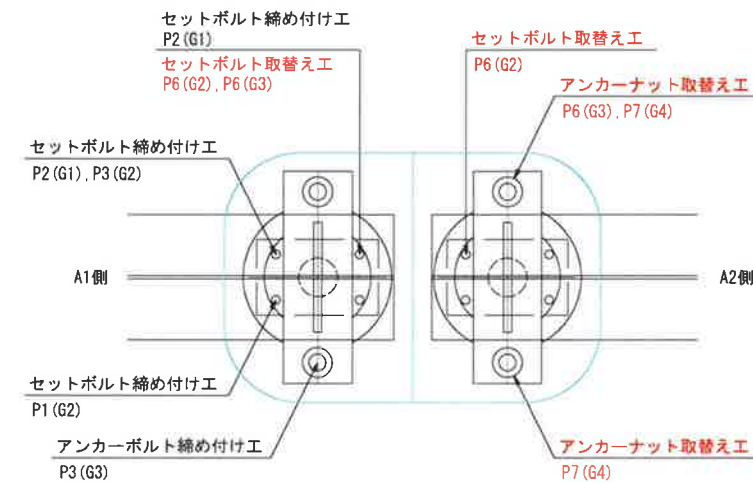


支 承 補 修 概 要 図 S=1/10

側面図



平面图

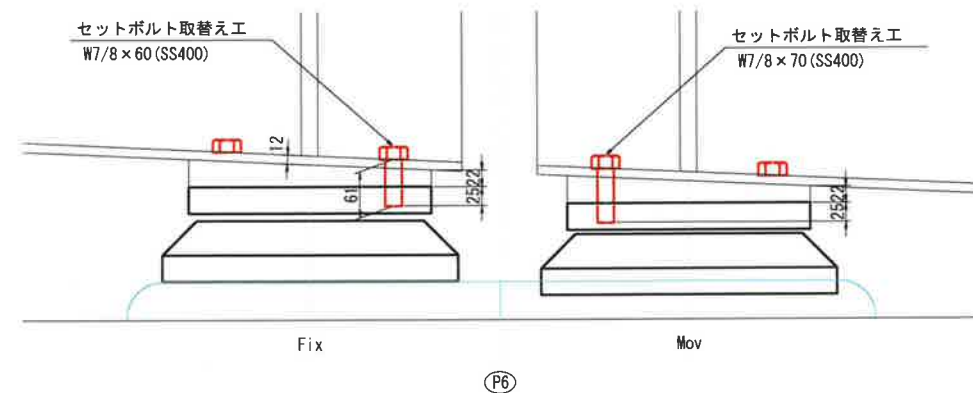


セットボルト詳細図 S=1/5

側面図

G2, G3桁 (A1側)

G2桁 (A2側)



支 承 補 修 数 量

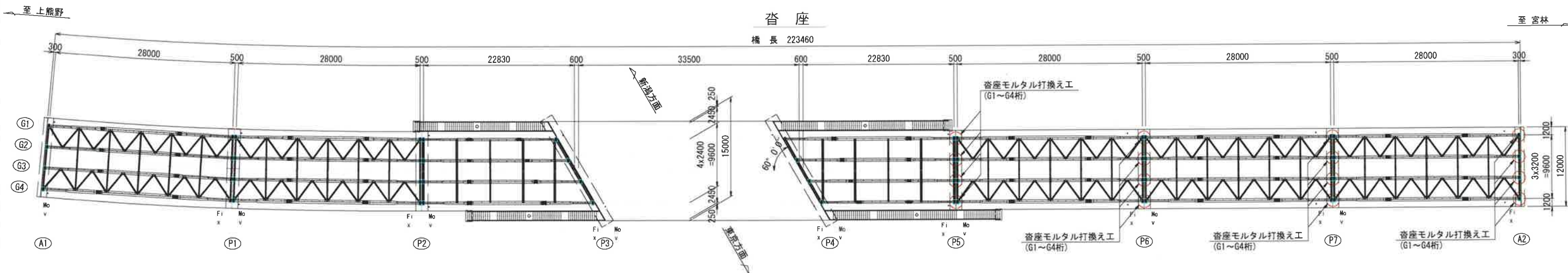
アンカーナット取替え工： W1-1/4ナット(SS400) 4個
アンカーボルト締め付け工： W1-5/8(SS400) 1本
セットボルト締め付け工： W7/8(SS400) 4本
セットボルト取替え工： 2-W7/8×60(SS400)
1-W7/8×70(SS400)

- (注記)
1. 補修箇所は、必ず現地確認の上で施工を行うこと。
 2. 施工に際しては、必ず現地にて補修箇所及び数量を確認の上で行うこと。
 3. 朽下に支障となりうる建物があるため、移設や撤去ができない場合には、可能な範囲で補修を行うものとする。

工 事 名			
図 面 名	城平跨線橋 支床補修工		
作成年月日	平成30年12月 日		
縮 尺	図 示	図面番号	46 / 85
会 社 名	株式会社 構造技研新潟		
事業者名	湯沢町地域整備部建設課		

城平跨線橋 沓座補修工

位置図 S=1/300

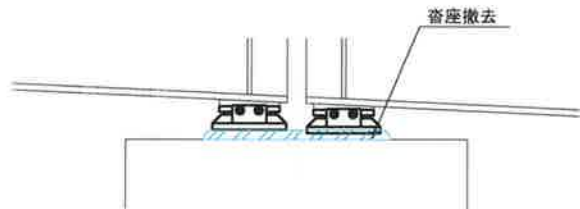


沓座補修概要図 S=1/20

現 況

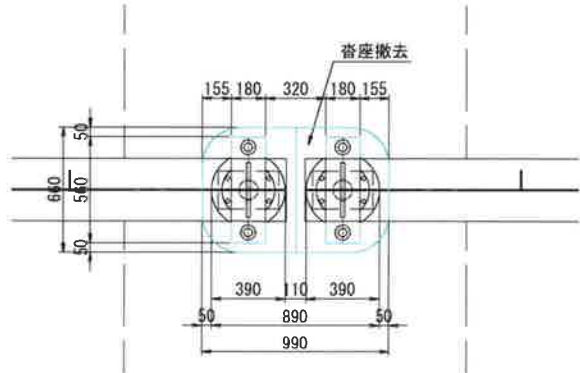
P5, P6, P7
(12箇所)

側 面 図



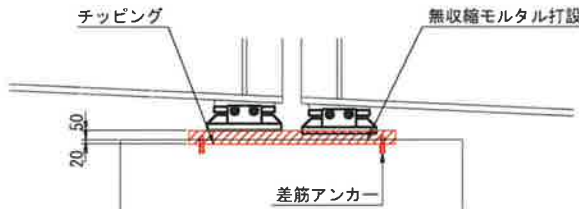
※支承周囲のモルタルを撤去し、支承下面モルタルは存置する。

平 面 図



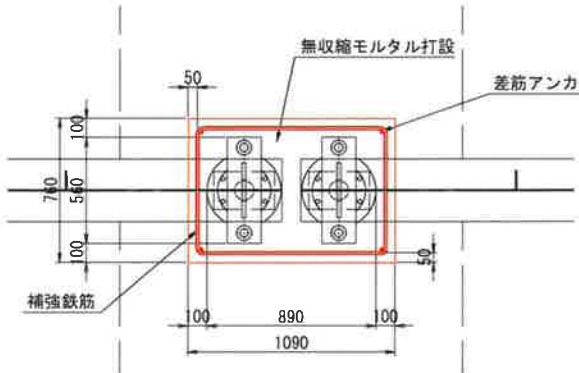
打換え後

側 面 図



※沓座撤去時に支承に傾斜等が見受けられた場合は、仮受けを行い、支承下面の打換えを検討する。
※下部工との打ち継ぎ目はチッピングを施す。

平 面 図

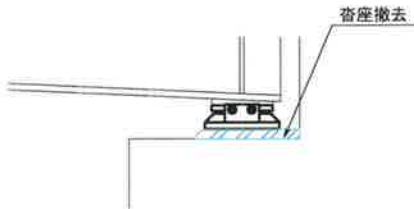


※差筋アンカー位置は、現地状況に合わせ必要に応じ、調整すること。

現 況

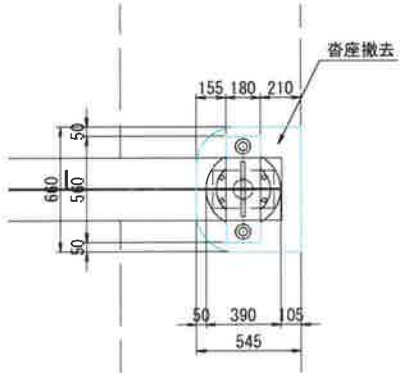
A2
(4箇所)

側 面 図



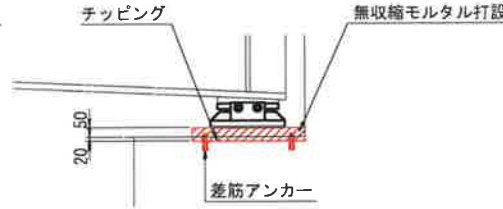
※支承周囲のモルタルを撤去し、支承下面モルタルは存置する。

平 面 図



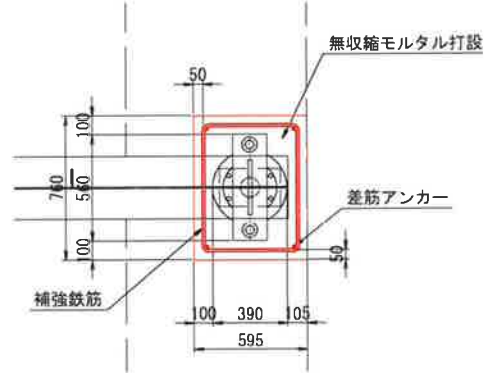
打換え後

側 面 図



※沓座撤去時に支承に傾斜等が見受けられた場合は、仮受けを行い、支承下面の打換えを検討する。
※下部工との打ち継ぎ目はチッピングを施す。

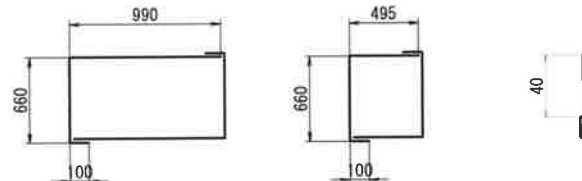
平 面 図



※差筋アンカー位置は、現地状況に合わせ必要に応じ、調整すること。

鉄筋詳細図 S=1/20

① 2-D10×1750 (1組あたり材料) 計12箇所
② 2-D10×1255 (1組あたり材料) 計4箇所
4-差筋アンカー-D10 (1組あたり材料) 計16箇所



鉄筋表

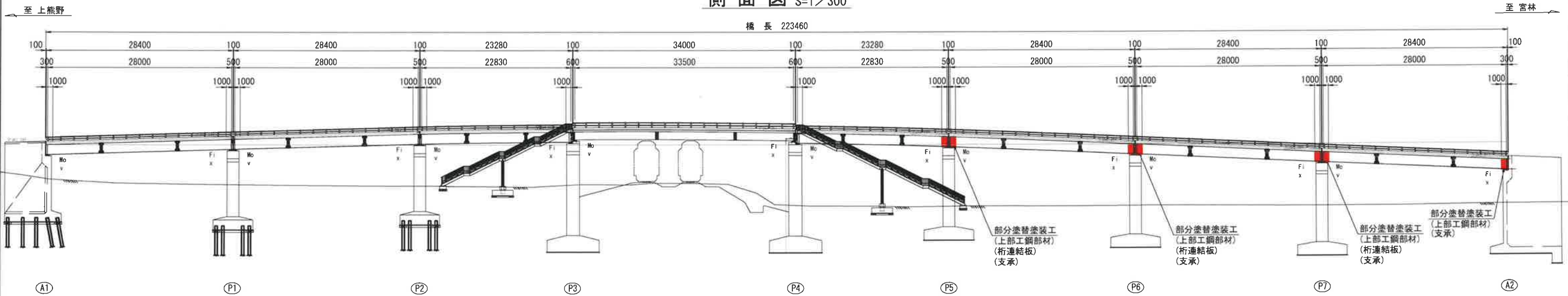
記号	径	長さ(mm)	本数	単位質量 (kg/m)	1本当り質量(kg)	質量 (kg)	摘要
①	D10	1750	24	0.560	0.980	23	□
②	D10	1255	8	0.560	0.703	5	□
計						D10 34	SD295A
						D10差筋アンカー	68本

注記)
1. 補修箇所は、必ず現地確認の上で施工を行うこと。
2. 施工に際しては、必ず現地に補修箇所及び数量を確認の上で行うこと。
3. 桁下に支障となりうる建物があるため、移設や撤去ができない場合には、可能な範囲で補修を行うものとする。

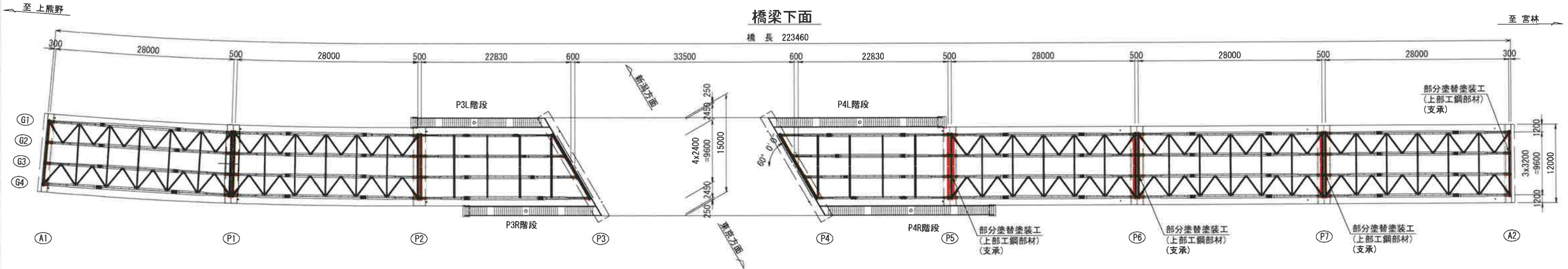
工 事 名	城平跨線橋 沓座補修工
図 面 名	城平跨線橋 沓座補修工
作成年月日	平成30年12月 日
縮 尺	図 示 図面番号 65 / 85
会 社 名	株式会社 構造技研新潟
事業者名	湯沢町地域整備部建設課

城平跨線橋 上部工部分塗替塗装工

側面図 S=1/300



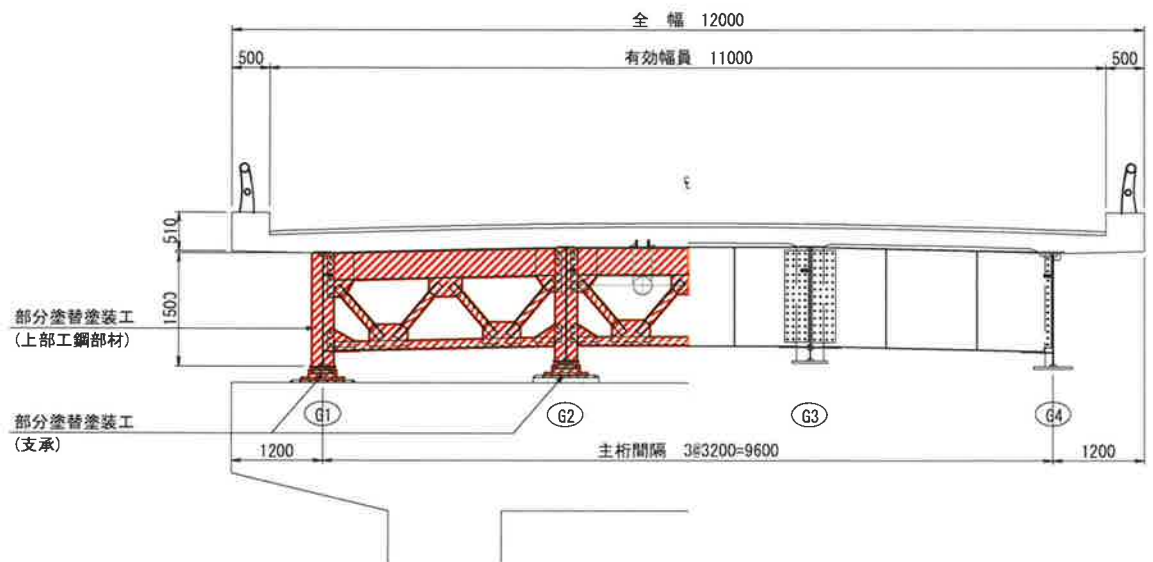
平面図 S=1/300



断面図 S=1/50

端対傾構

分配横桁



鋼部材：塗替塗装仕様 (Rc-I)

塗装工程	塗料名	使用量 (g/m ²)	塗装間隔
素地調整	1種		4時間以内
下塗り	有機ジンクリッチペイント	600	1日～10日
下塗り	弱溶剤形変性エポキシ樹脂塗料下塗り	240	1日～10日
下塗り	弱溶剤形変性エポキシ樹脂塗料下塗り	240	1日～10日
中塗り	弱溶剤形ふっ素樹脂塗料用中塗り	170	1日～10日
上塗り	弱溶剤形ふっ素樹脂塗料上塗り	140	1日～10日

注) 施工数量については、現地再確認を行ったうえ監督職員の承諾を得て決定すること。

部分塗替塗装面積 (A1～P3, P4～A2)

箇所	塗装面積 (m ²)
主桁	268.38
端対傾構	329.55
下横構	19.40
支承	25.76
桁連結板	6.76
合計	649.85

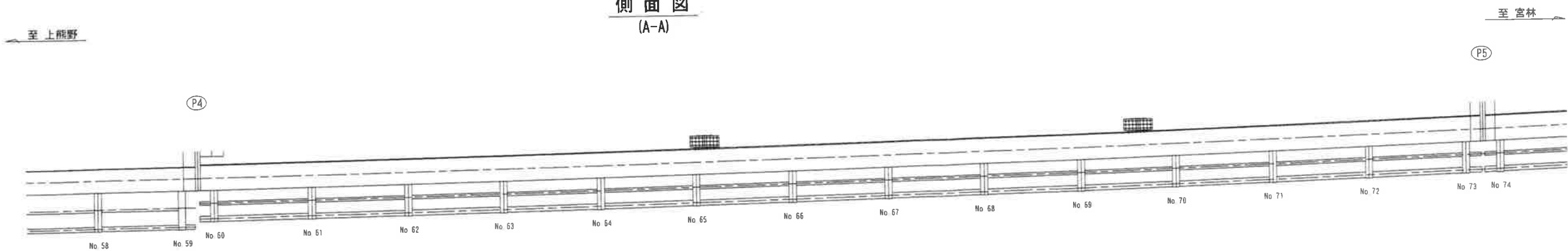
- 注記)
- 補修箇所は、必ず現地確認の上で施工を行うこと。
 - 施工に際しては、必ず現地に補修箇所及び数量を確認の上で行うこと。
 - 桁下に支障となりうる建物があるため、移設や撤去ができない場合には、可能な範囲で補修を行うものとする。

工事名	城平跨線橋 上部工部分塗替塗装工
図面名	城平跨線橋 上部工部分塗替塗装工
作成年月日	平成30年12月 日
縮尺	図示 図面番号 45 / 85
会社名	株式会社 構造技研新潟
事業者名	湯沢町地域整備部建設課

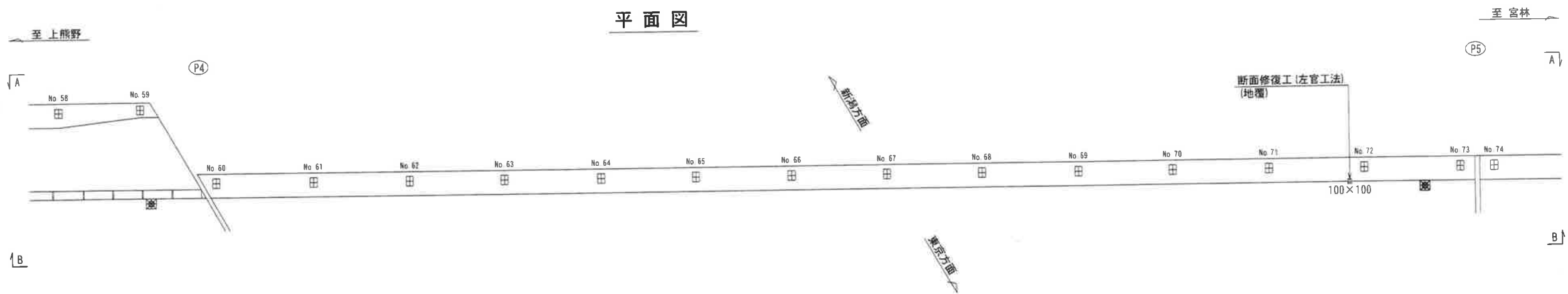
城平跨線橋 地覆補修工 (その5) S=1/50

(地覆 新潟側P4-P5径間)

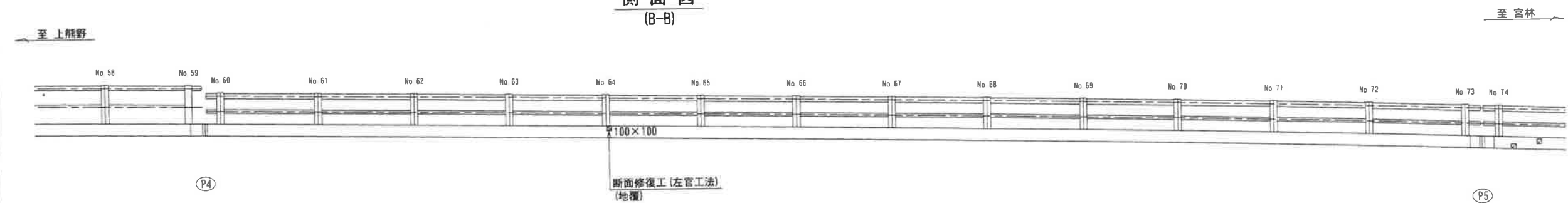
側面図
(A-A)



平面図

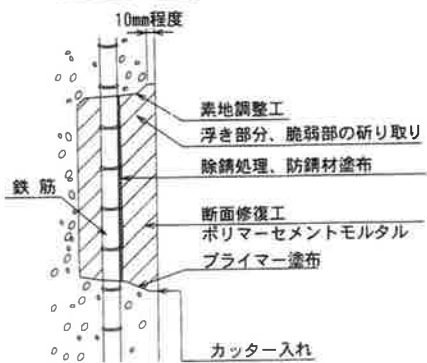


側面図
(B-B)



断面修復工

左官工法



注記

- 補修範囲に10mm程度カッターを入れてから施工すること。
- 断面修復は、脆弱部をたたき落とした上で実施すること。
- 断面修復の際は、鉄筋に防錆処理を施すこと。
- 断面修復箇所及び数量は、現地にて確認すること。
- かぶり厚が十分確保できない場合は、補修材を盛ること。

凡例

	剥離
	豆板

注記

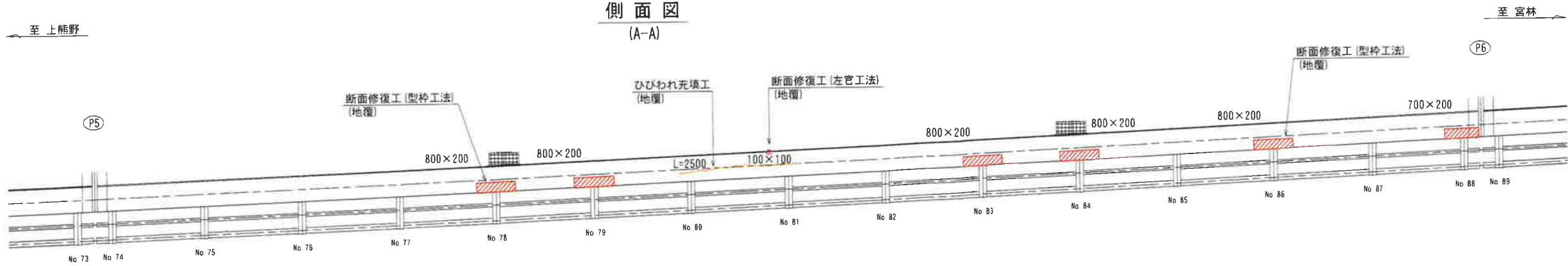
- 補修箇所は、必ず現地確認の上で施工を行うこと。
- 施工に際しては、必ず現地にて補修箇所及び数量を確認の上で行うこと。
- 桁下に支障となりうる建物があるため、移設や撤去ができない場合には、可能な範囲で補修を行うものとする。

工事名	城平跨線橋 地覆補修工 (その5)		
図面名	城平跨線橋 地覆補修工 (その5)		
作成年月日	平成30年12月 日		
縮尺	図示	図面番号	9 /
会社名	株式会社 構造技研新潟		
事業者名	湯沢町地域整備部建設課		

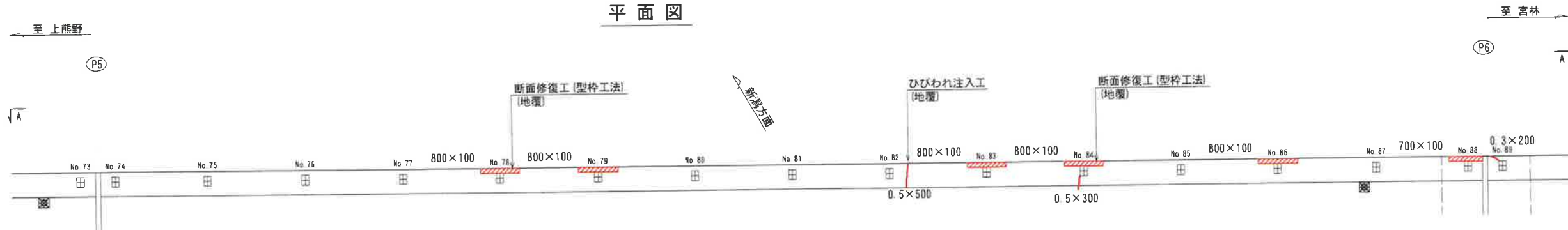
城平跨線橋 地覆補修工 (その6) S=1/50

(地覆 新潟側P5-P6径間)

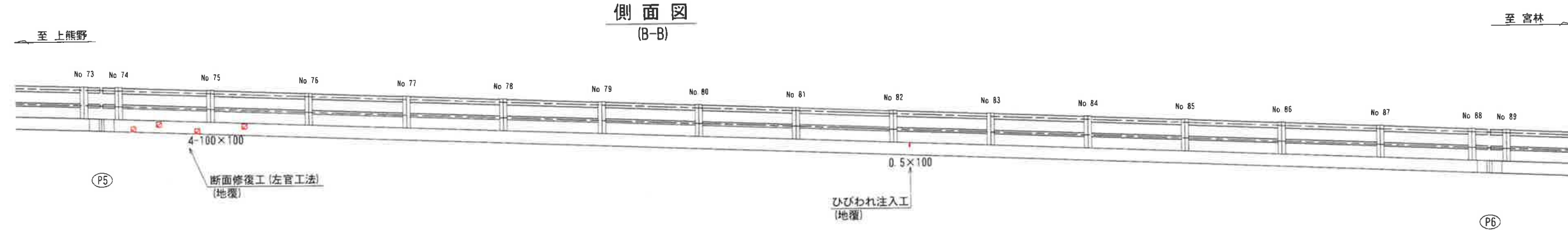
側面図
(A-A)



平面図



側面図
(B-B)

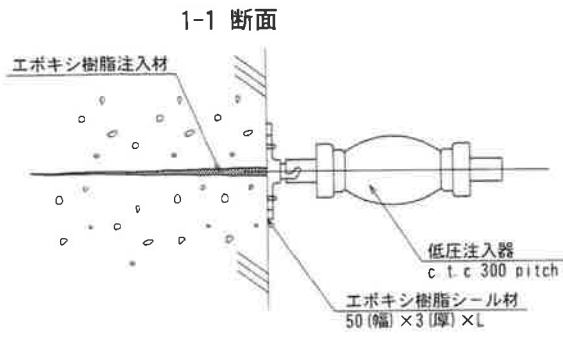


凡例

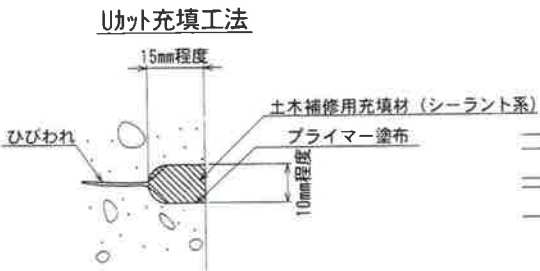
	0.2mm以上のひびわれ
	打継ぎ
	鉄筋露出
	剥離

- 注記)
- 補修箇所は、必ず現地確認の上で施工を行うこと。
 - 施工に際しては、必ず現地に於て補修箇所及び数量を確認の上で行うこと。
 - 桁下に支障となりうる建物があるため、移設や撤去ができない場合には、可能な範囲で補修を行うものとする。

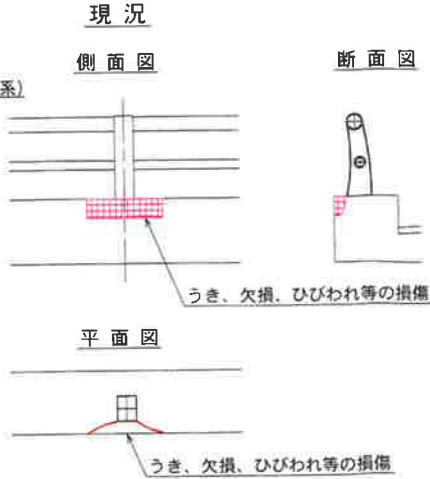
ひびわれ注入工



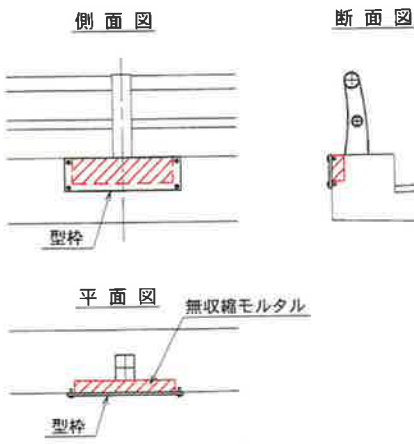
ひびわれ充填工



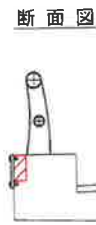
型枠工法



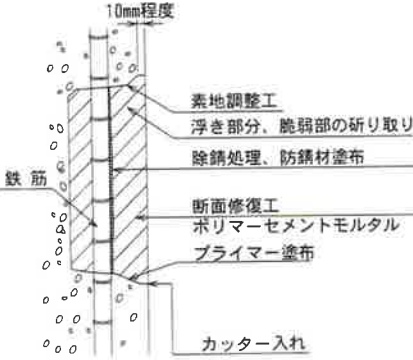
断面補修要領



断面修復工



左官工法



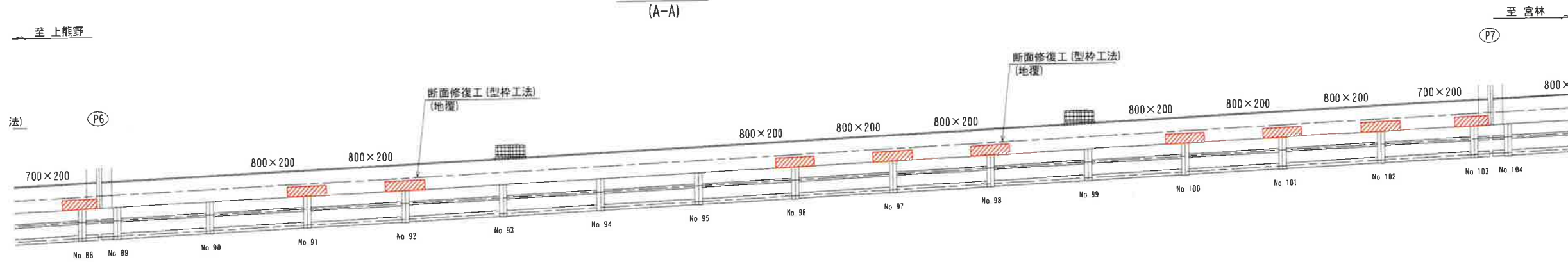
- 注記)
- 補修範囲に10mm程度カッターを入れてから施工すること。
 - 断面修復は、脆弱部をたたき落とした上で実施すること。
 - 断面修復の際は、鉄筋に防錆処理を施すこと。
 - 断面修復箇所及び数量は、現地に於て確認すること。
 - かぶり厚が十分確保できない場合は、補修材を盛ること。

工事名	城平跨線橋 地覆補修工 (その6)
図面名	城平跨線橋 地覆補修工 (その6)
作成年月日	平成30年12月 日
縮尺	図示 図面番号 10 /
会社名	株式会社 構造技研新潟
事業者名	湯沢町地域整備部建設課

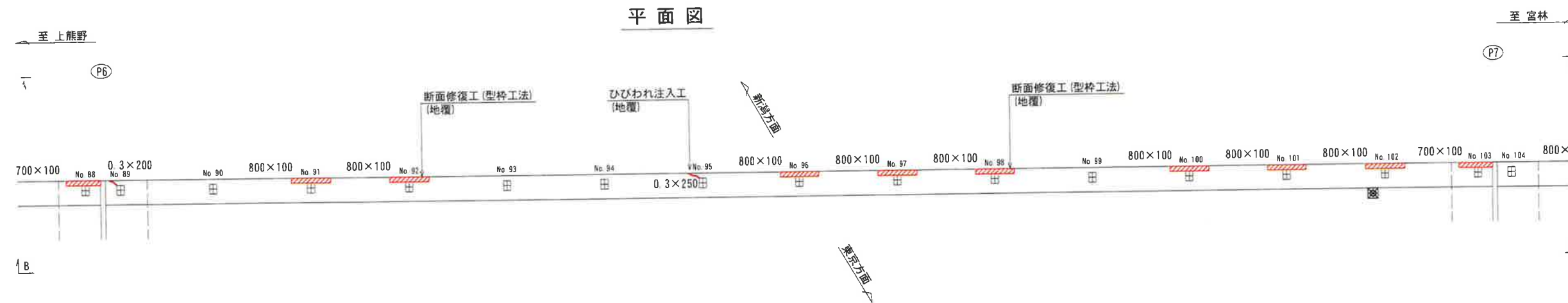
城平跨線橋 地覆補修工 (その7) S=1/50

(地覆 新潟側P6-P7径間)

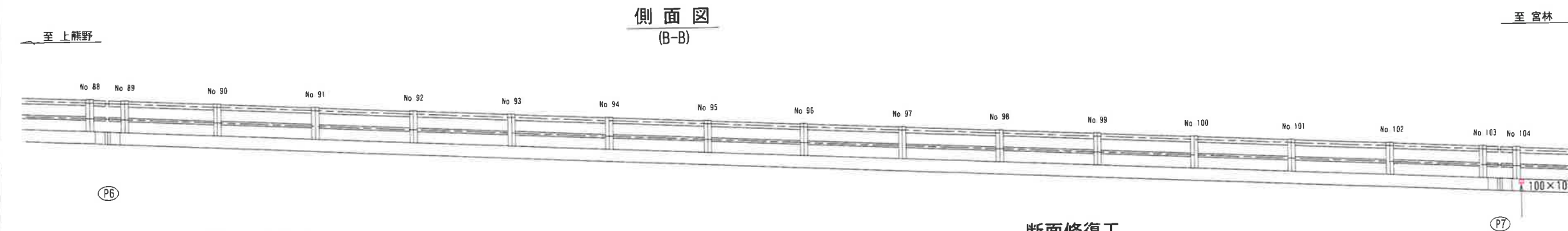
側面図
(A-A)



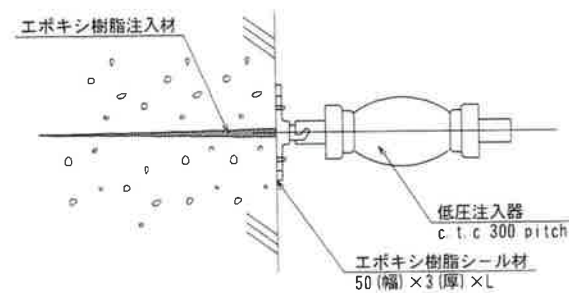
平面図



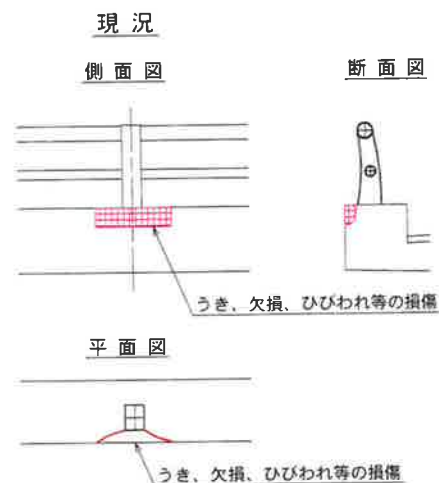
側面図
(B-B)



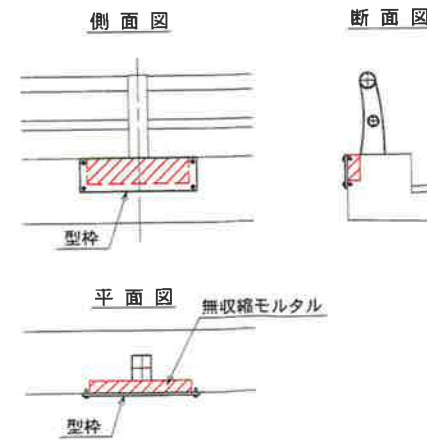
ひびわれ注入工



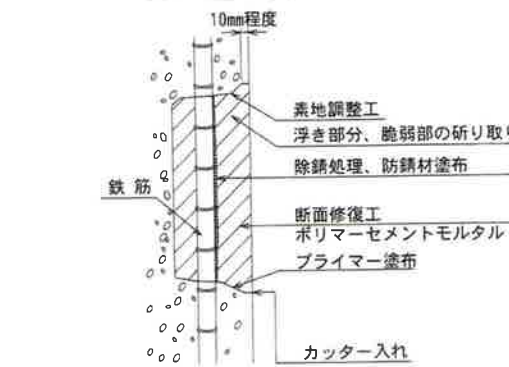
型枠工法



断面補修要領



断面修復工



- 注記)
- ・補修範囲に10mm程度カッターを入れてから施工すること。
 - ・断面修復は、脆弱部をたたき落とした上で実施すること。
 - ・断面修復の際は、鉄筋に防錆処理を施すこと。
 - ・断面修復箇所及び数量は、現地にて確認すること。
 - ・かぶり厚が十分確保できない場合は、補修材を盛ること。

左官工法

凡例
0.2mm以上のひびわれ

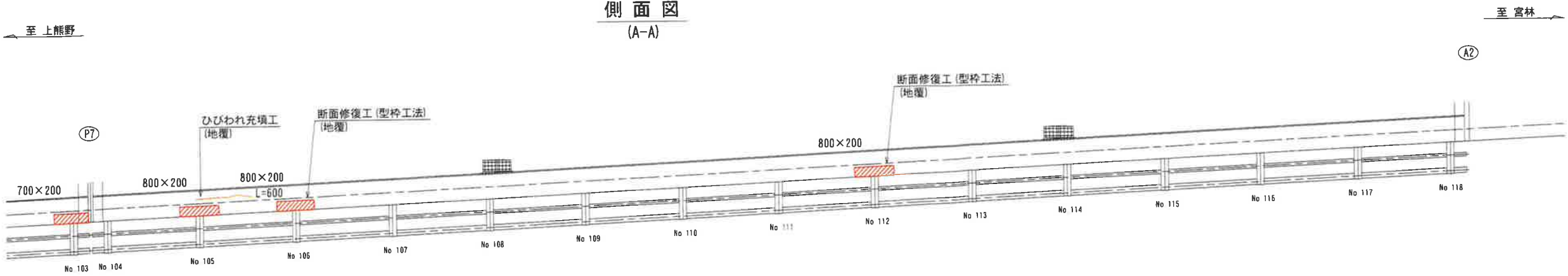
- 注記)
1. 補修箇所は、必ず現地確認の上で施工を行うこと。
 2. 施工に際しては、必ず現地にて補修箇所及び数量を確認の上で行うこと。
 3. 桁下に支障となりうる建物があるため、移設や撤去ができない場合には、可能な範囲で補修を行うものとする。

工事名	城平跨線橋 地覆補修工 (その7)
図面名	城平跨線橋 地覆補修工 (その7)
作成年月日	平成30年12月 日
縮尺	図示 図面番号 11 /
会社名	株式会社 構造技研新潟
事業者名	湯沢町地域整備部建設課

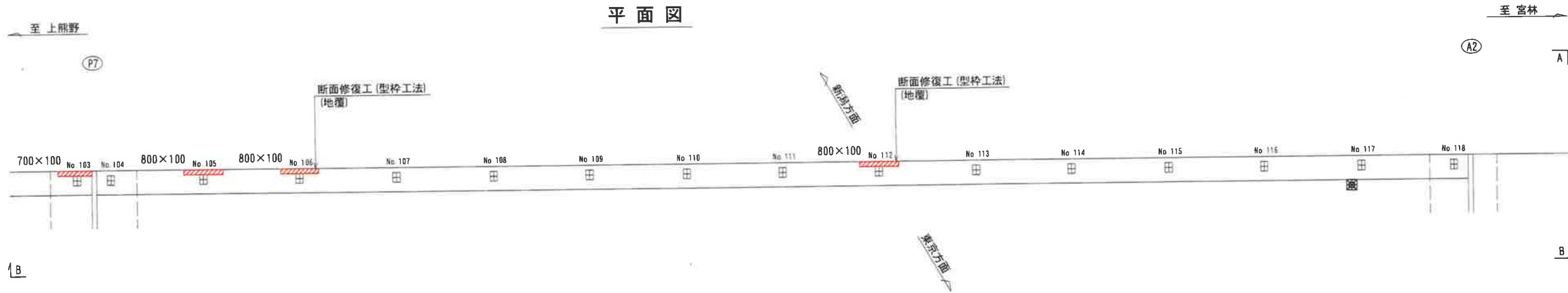
城平跨線橋 地覆補修工(その8) S=1/50

(地覆 新潟側P7-A2径間)

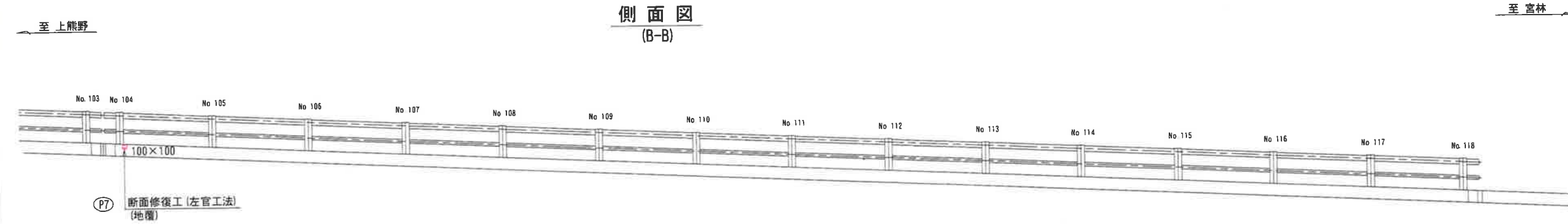
側面図
(A-A)



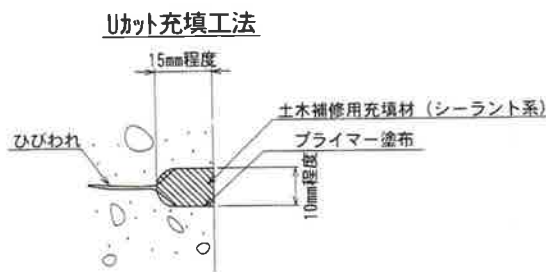
平面図



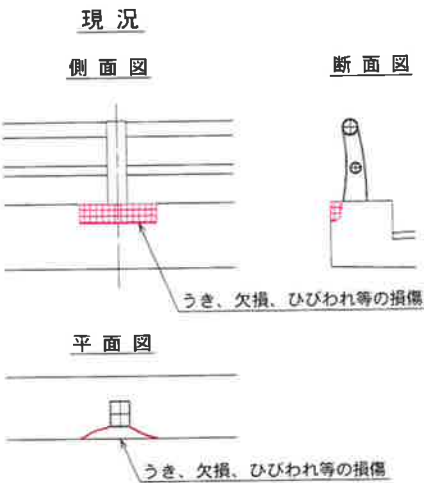
側面図
(B-B)



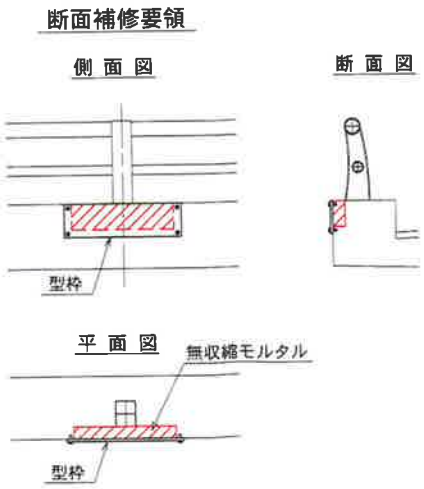
ひびわれ充填工



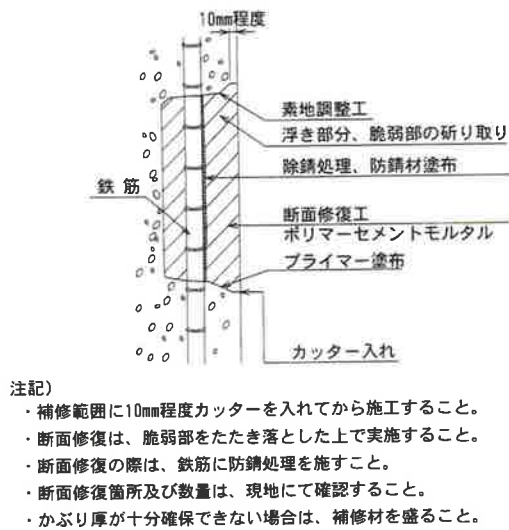
型枠工法



断面修復工



左官工法



凡例

打継ぎ	
剥離	

注記)

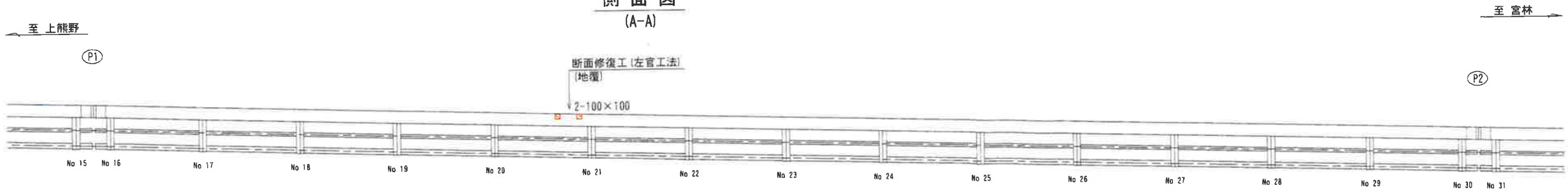
- 補修箇所は、必ず現地確認の上で施工を行うこと。
- 施工に際しては、必ず現地にて補修箇所及び数量を確認の上で行うこと。
- 桁下に支障となりうる建物があるため、移設や撤去ができない場合には、可能な範囲で補修を行うものとする。

工事名	城平跨線橋 地覆補修工(その8)
図面名	城平跨線橋 地覆補修工(その8)
作成年月日	平成30年12月 日
縮尺	図示 図面番号 12 /
会社名	株式会社 構造技研新潟
事業者名	湯沢町地域整備部建設課

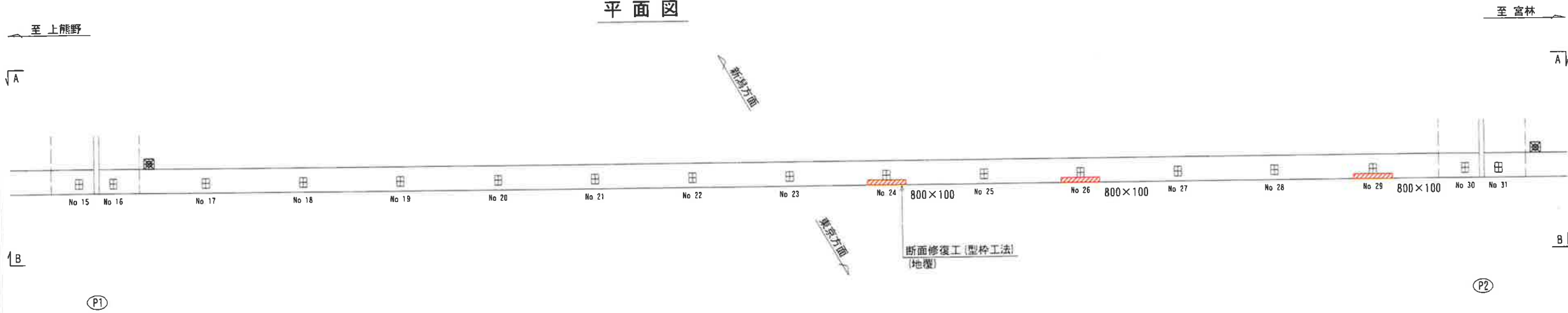
城平跨線橋 地覆補修工(その10) S=1/50

(地覆 東京側P1-P2径間)

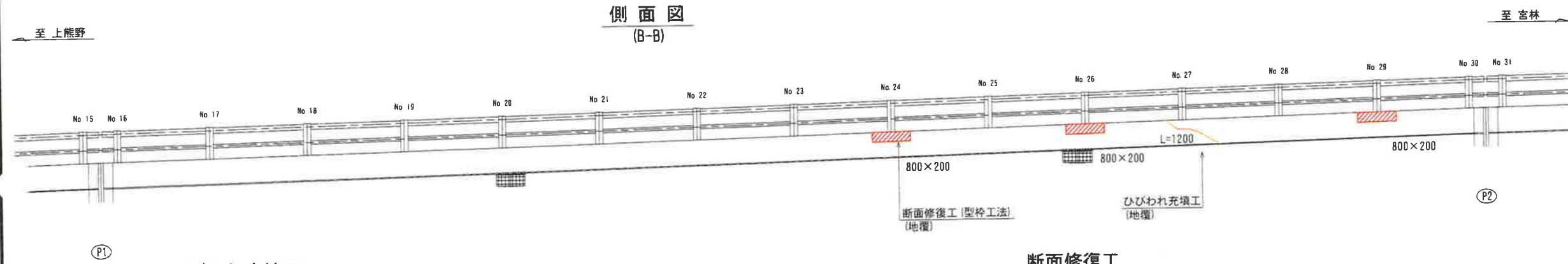
側面図
(A-A)



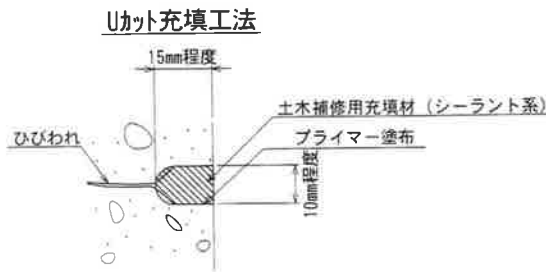
平面図



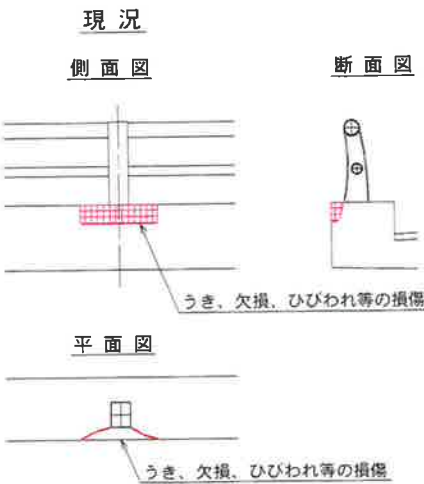
側面図
(B-B)



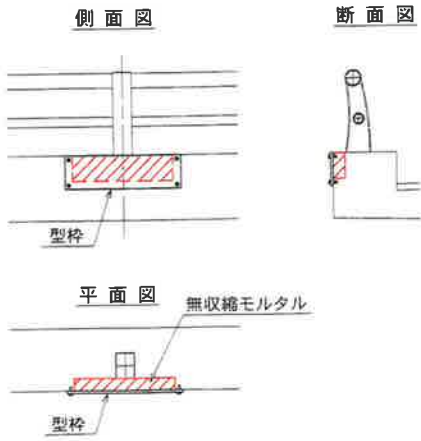
ひびわれ充填工



型枠工法



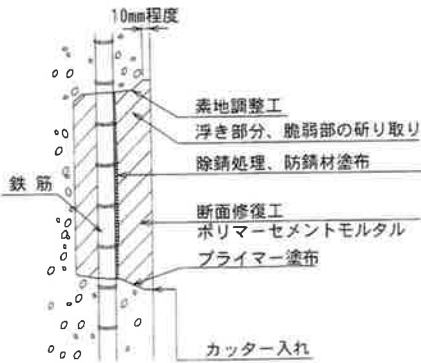
断面補修要領



断面修復工



左官工法



- 注記)
- 補修範囲に10mm程度カッターを入れてから施工すること。
 - 断面修復は、脆弱部をたたき落とした上で実施すること。
 - 断面修復の際は、鉄筋に防錆処理を施すこと。
 - 断面修復箇所及び数量は、現地にて確認すること。
 - かぶり厚が十分確保できない場合は、補修材を盛ること。

凡例

	打継ぎ
	鉄筋露出

注記)

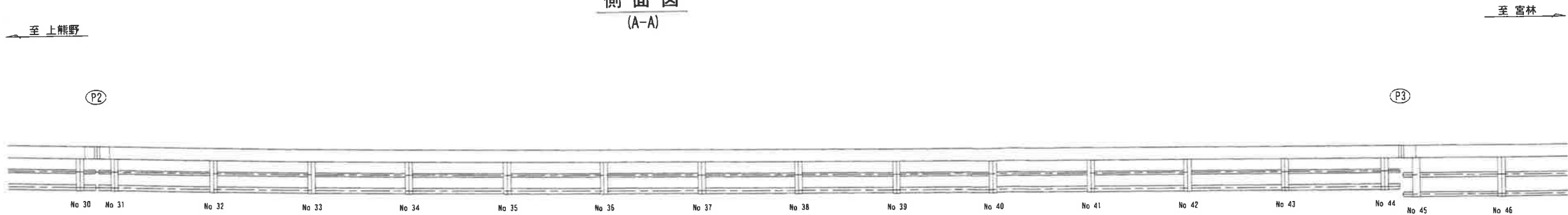
- 補修箇所は、必ず現地確認の上で施工を行うこと。
- 施工に際しては、必ず現地にて補修箇所及び数量を確認の上で行うこと。
- 桁下に支障となりうる建物があるため、移設や撤去ができない場合には、可能な範囲で補修を行うものとする。

工事名	城平跨線橋 地覆補修工(その10)
図面名	城平跨線橋 地覆補修工(その10)
作成年月日	平成30年12月 日
縮尺	図示 図面番号 14 /
会社名	株式会社 構造技研新島
事業者名	湯沢町地域整備部建設課

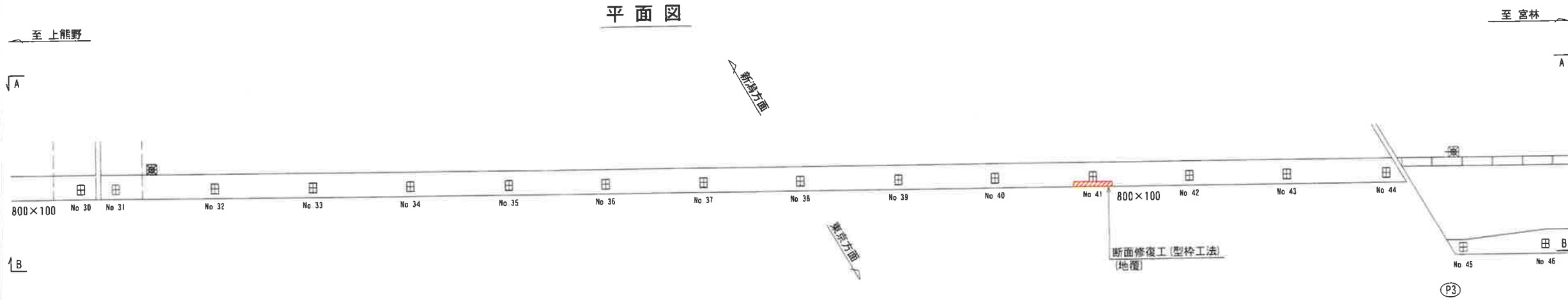
城平跨線橋 地覆補修工(その11) S=1/50

(地覆 東京側P2-P3径間)

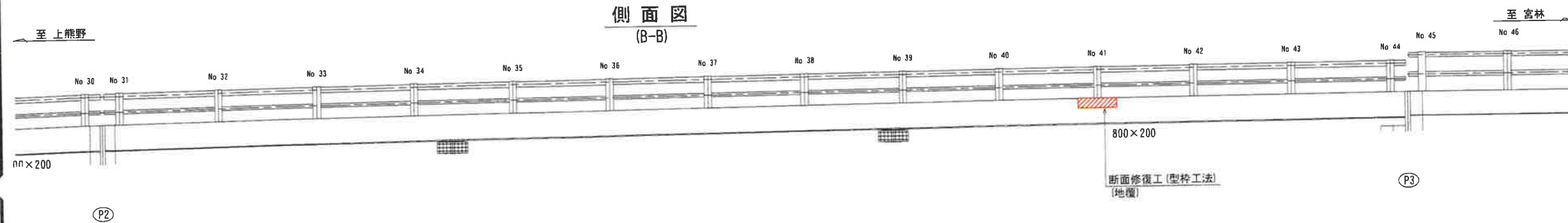
側面図
(A-A)



平面図



側面図
(B-B)

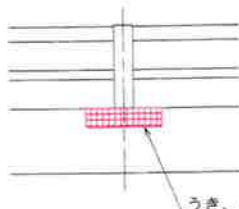


断面修復工

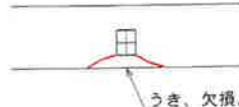
型枠工法

現況

側面図



平面図

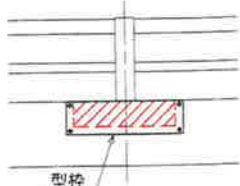


断面図

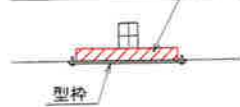


断面補修要領

側面図



平面図



断面図



無収縮モルタル

注記)

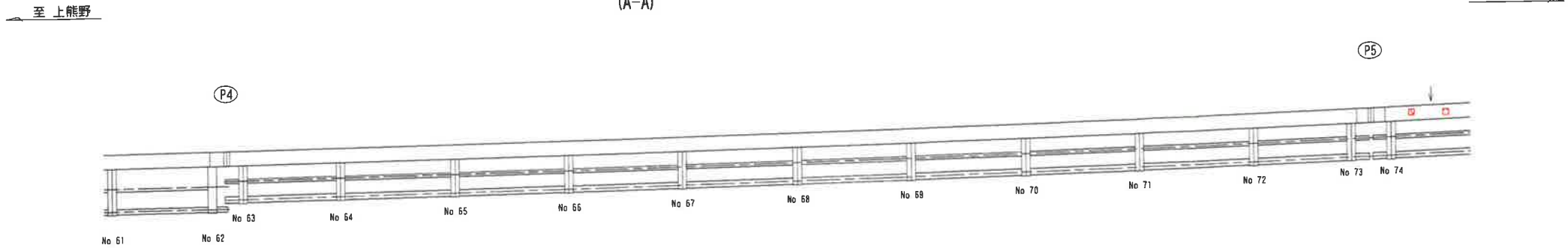
- 補修箇所は、必ず現地確認の上で施工を行うこと。
- 施工に際しては、必ず現地に補修箇所及び数量を確認の上で行うこと。
- 桁下に支障となりうる建物があるため、移設や撤去ができない場合には、可能な範囲で補修を行うものとする。

工事名	城平跨線橋 地覆補修工(その11)		
図面名	城平跨線橋 地覆補修工(その11)		
作成年月日	平成30年12月 日		
縮尺	図示	図面番号	15 /
会社名	株式会社 構造技研新潟		
事業者名	湯沢町地域整備部建設課		

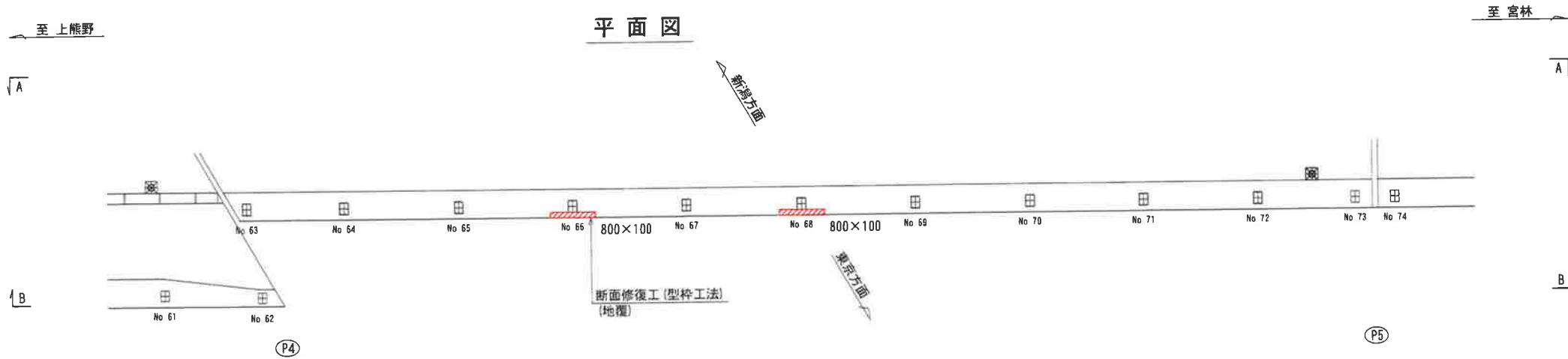
城平跨線橋 地覆補修工(その13) S=1/50

(地覆 東京側P4-P5径間)

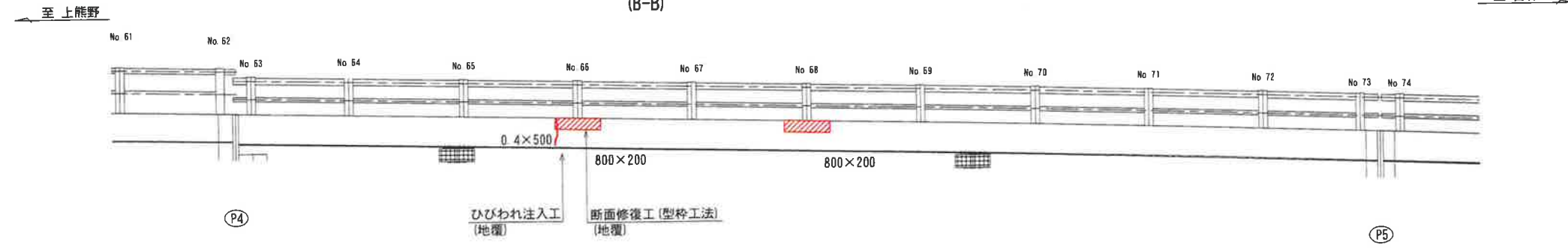
側面図
(A-A)



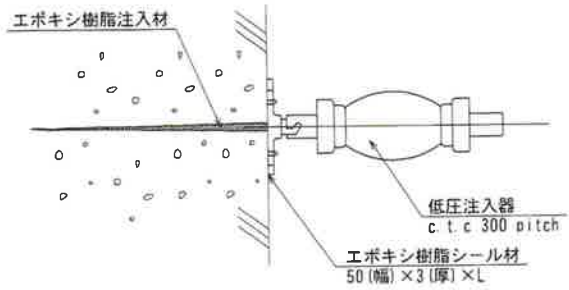
平面図



側面図
(B-B)



ひびわれ注入工



断面修復工

型枠工法

現況

側面図

断面図

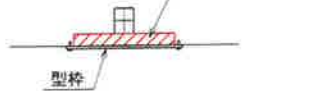
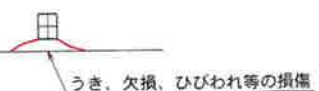
断面補修要領

側面図

断面図

平面図

平面図



凡例	0.2mm以上のひびわれ
----	--------------

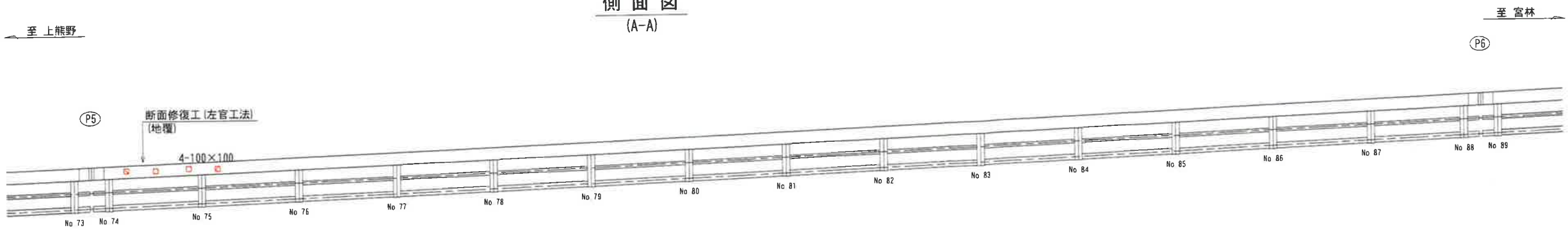
- 注記)
- 補修箇所は、必ず現地確認の上で施工を行うこと。
 - 施工に際しては、必ず現地に補修箇所及び数量を確認の上で行うこと。
 - 桁下に支障となりうる建物があるため、移設や撤去ができない場合には、可能な範囲で補修を行うものとする。

工事名	城平跨線橋 地覆補修工(その13)
図面名	城平跨線橋 地覆補修工(その13)
作成年月日	平成30年12月 日
縮尺	図示 図面番号 17 /
会社名	株式会社 構造技研新潟
事業者名	湯沢町地域整備部建設課

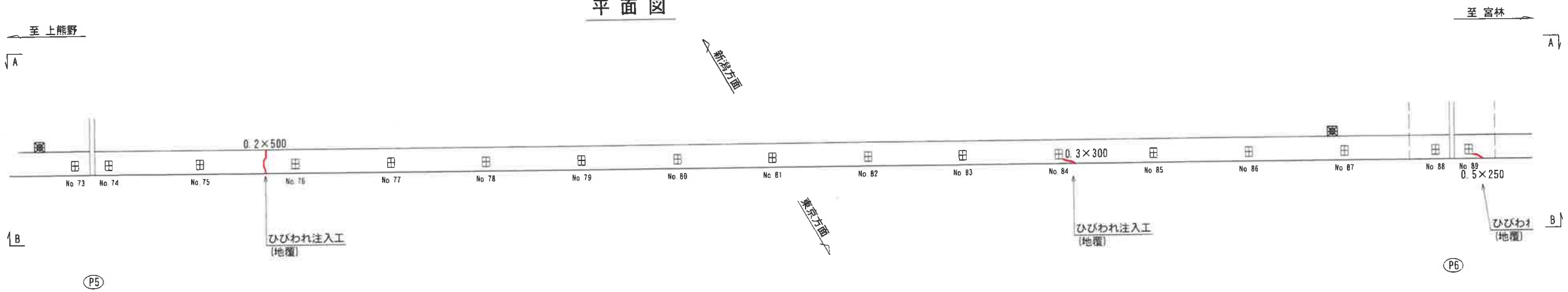
城平跨線橋 地覆補修工(その14) S=1/50

(地覆 東京側P5-P6径間)

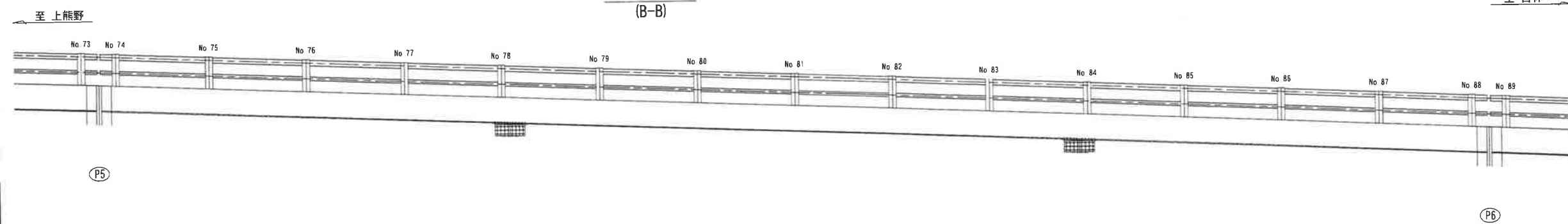
側面図
(A-A)



平面図



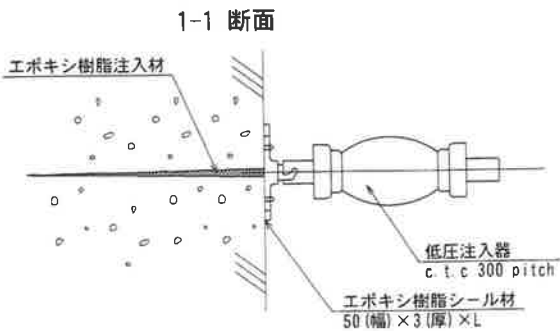
側面図
(B-B)



凡例

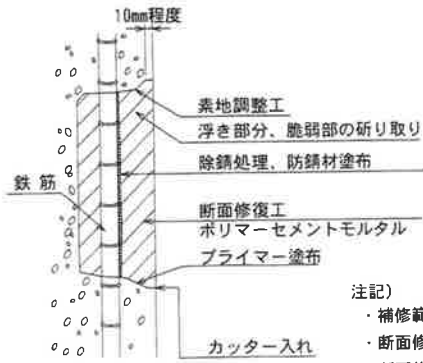
	0.2mm以上のひびわれ
	鉄筋露出

ひびわれ注入工



断面修復工

左官工法



- 注記)
- ・補修範囲に10mm程度カッターを入れてから施工すること。
 - ・断面修復は、脆弱部をたたき落とした上で実施すること。
 - ・断面修復の際は、鉄筋に防錆処理を施すこと。
 - ・断面修復箇所及び数量は、現地にて確認すること。
 - ・かぶり厚が十分確保できない場合は、補修材を盛ること。

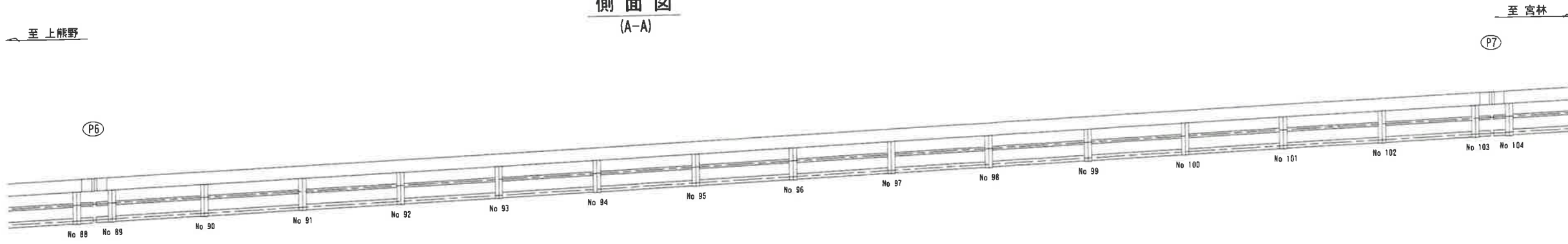
- 注記)
1. 補修箇所は、必ず現地確認の上で施工を行うこと。
 2. 施工に際しては、必ず現地にて補修箇所及び数量を確認の上で行うこと。
 3. 桁下に支障となりうる建物があるため、移設や撤去ができない場合には、可能な範囲で補修を行うものとする。

工事名	城平跨線橋 地覆補修工(その14)
図面名	城平跨線橋 地覆補修工(その14)
作成年月日	平成30年12月 日
縮尺	図示 図面番号 18 /
会社名	株式会社 構造技研新潟
事業者名	湯沢町地域整備部建設課

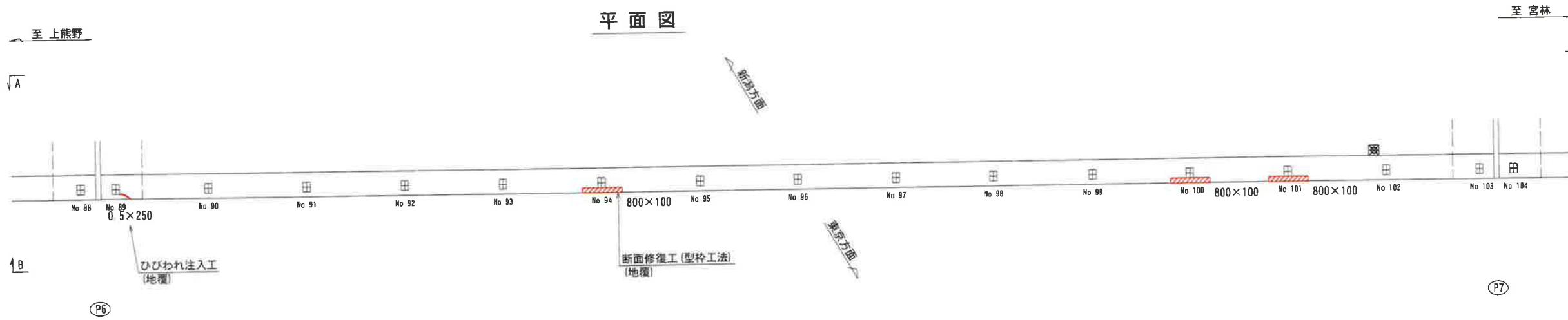
城平跨線橋 地覆補修工(その15) S=1/50

(地覆 東京側P6-P7径間)

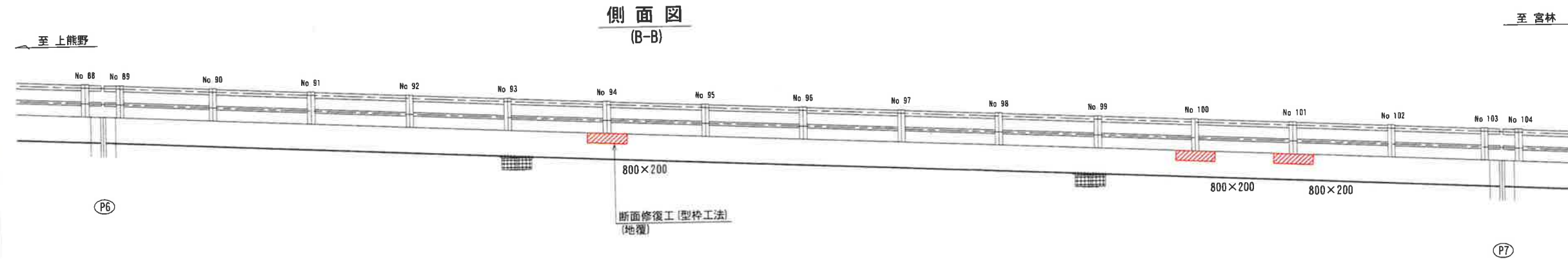
側面図
(A-A)



平面图



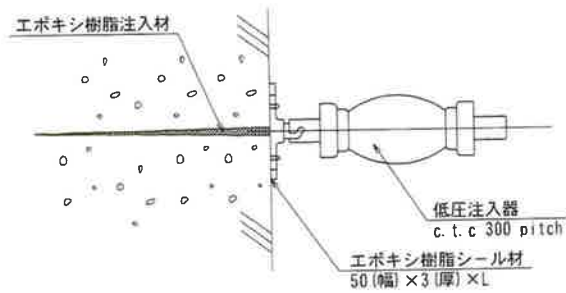
側面図
(B-B)



凡例

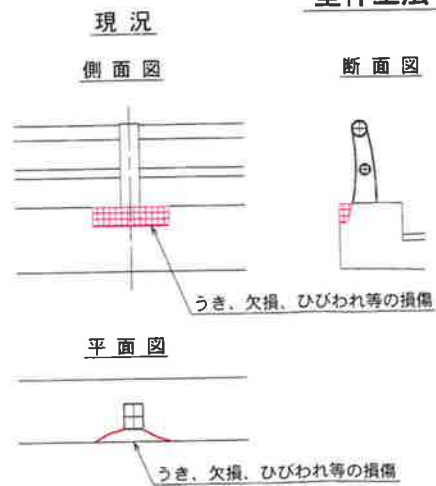
	0.2mm以上のひびわれ
---	--------------

ひびわれ注入工

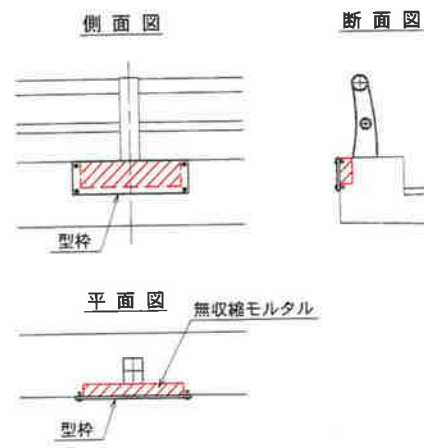


断面修復工

型枠工法



断面補修要領



注記)

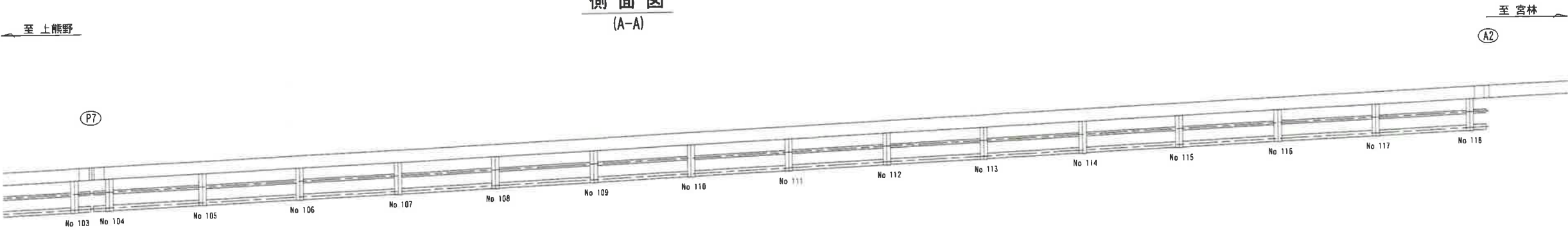
1. 補修箇所は、必ず現地確認の上で施工を行うこと。
2. 施工に際しては、必ず現地にて補修箇所及び数量を確認の上で行うこと。
3. 桁下に支障となりうる建物があるため、移設や撤去ができない場合には、可能な範囲で補修を行うものとする。

工 事 名			
図 面 名	城平跨橋樑 地覆補修工(その15)		
作成年月日	平成30年12月 日		
縮 尺	図 示	図面番号	19 /
会 社 名	株式会社 構造技研新潟		
事業者名	湯沢町地域整備部建設課		

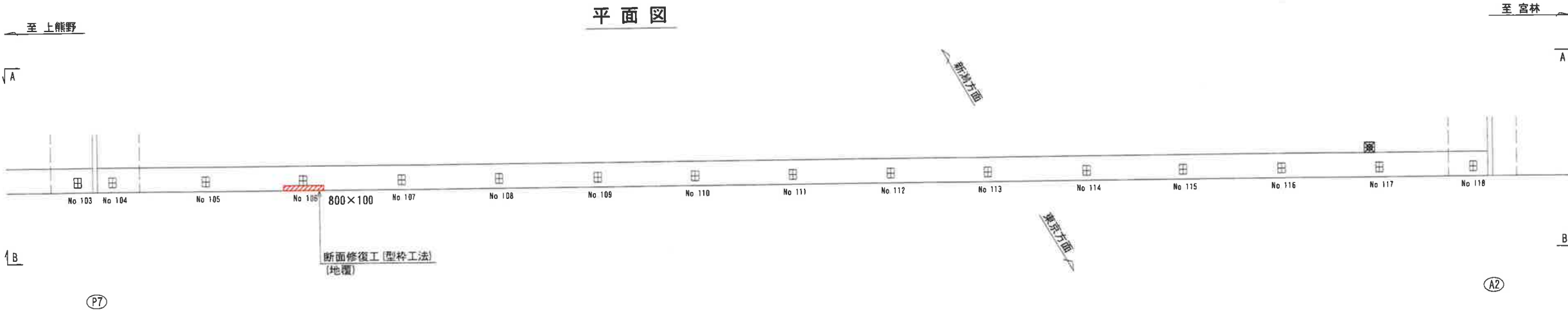
城平跨線橋 地覆補修工(その16) S=1/50

(地覆 東京側P7-A2径間)

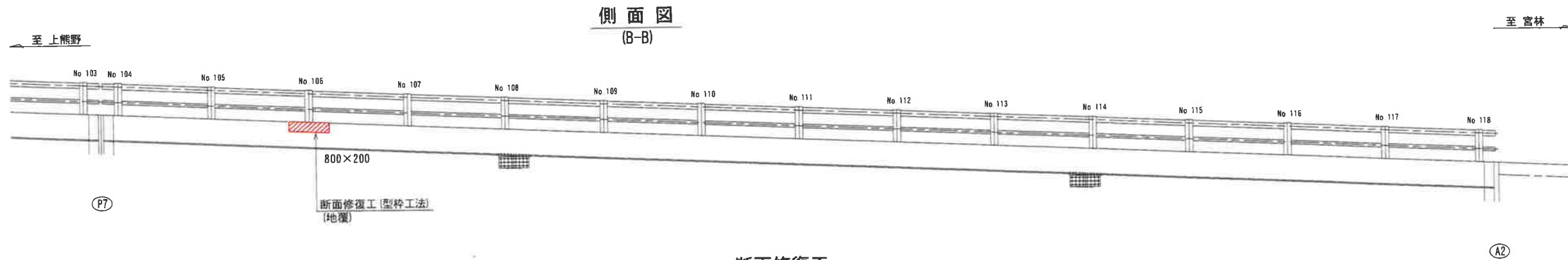
側面図
(A-A)



平面図

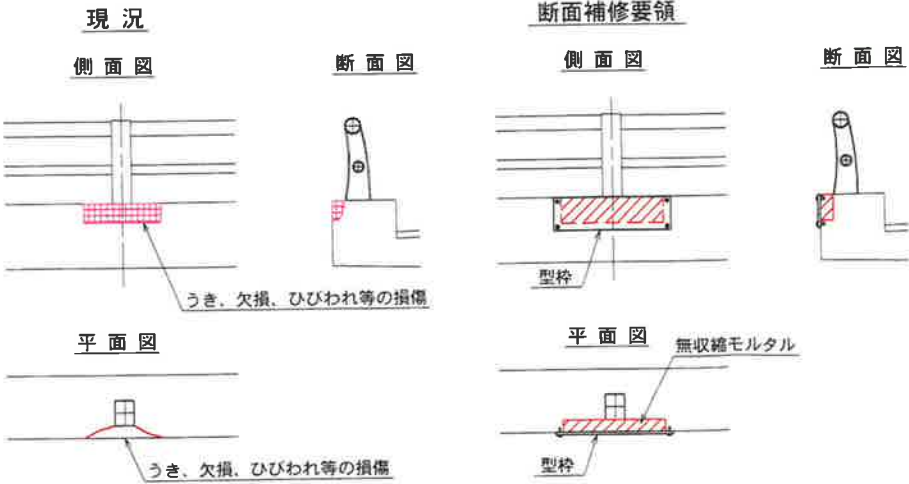


側面図
(B-B)



断面修復工

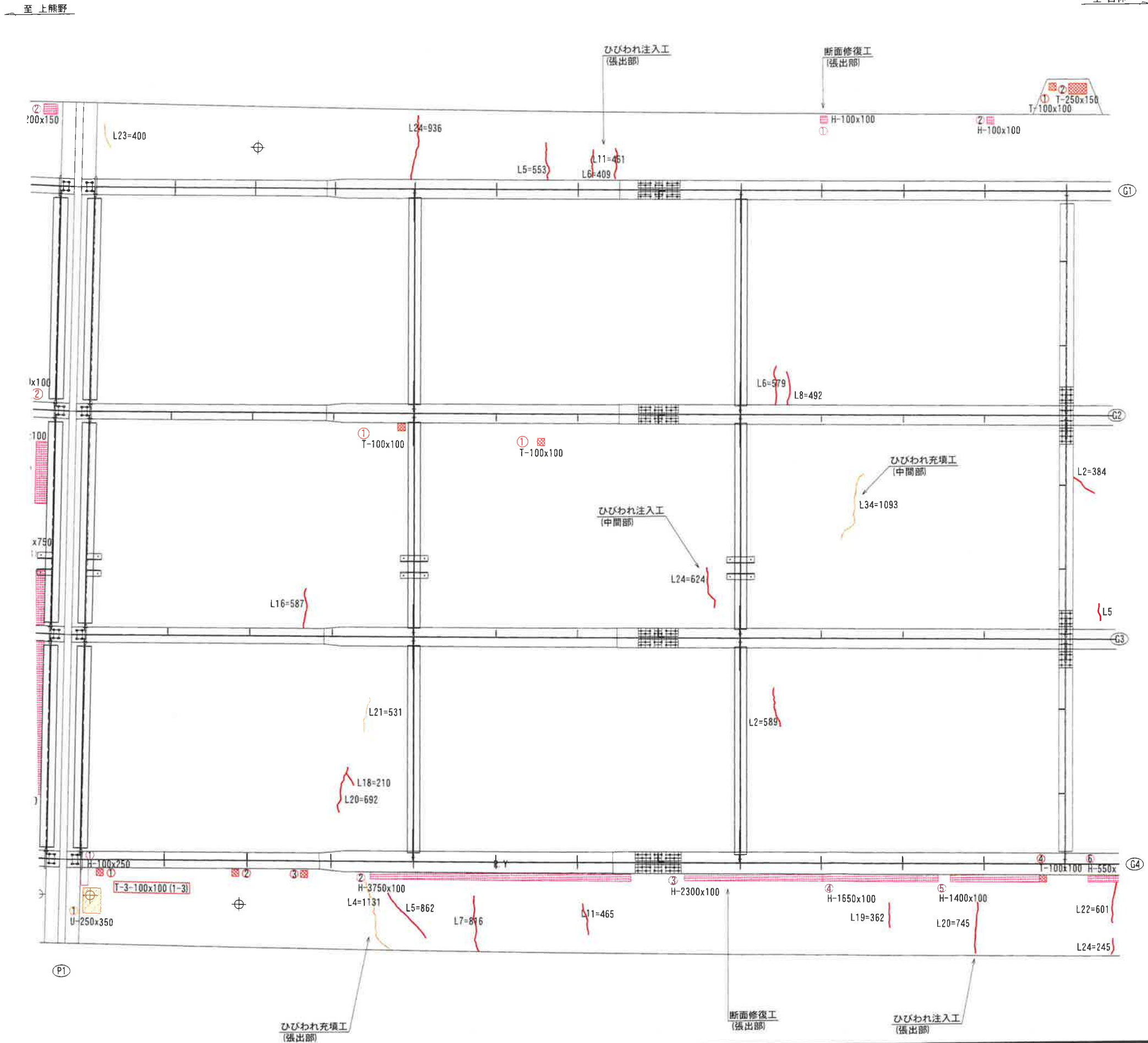
型枠工法



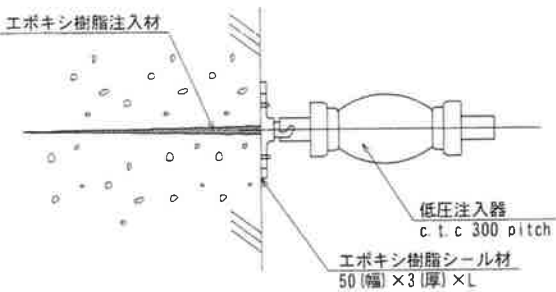
- 注記)
- 補修箇所は、必ず現地確認の上で施工を行うこと。
 - 施工に際しては、必ず現地にて補修箇所及び数量を確認の上で行うこと。
 - 桁下に支障となりうる建物があるため、移設や撤去ができない場合には、可能な範囲で補修を行うものとする。

工事名			
図面名	城平跨線橋 地覆補修工(その16)		
作成年月日	平成30年12月 日		
縮尺	図示	図面番号	20 /
会社名	株式会社 構造技研新潟		
事業者名	湯沢町地域整備部建設課		

(床版P1-P2径間)

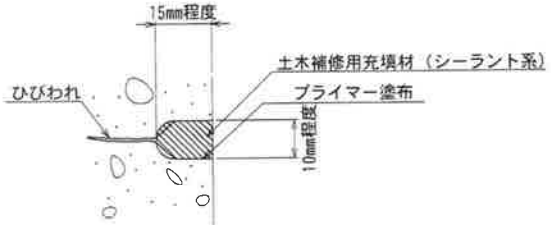


ひびわれ注入工

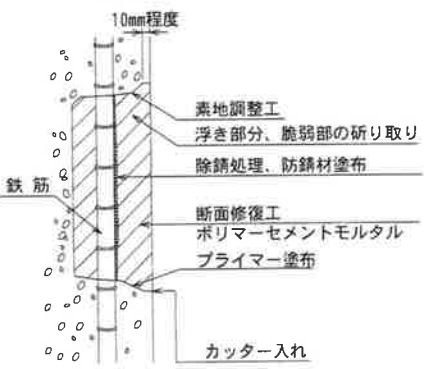


ひびわれ充填工

Uカット充填工法



断面修復工
左官工法



- 注記)
- ・補修範囲に10mm程度カッターを入れてから施工すること。
 - ・断面修復は、脆弱部をたたき落とした上で実施すること。
 - ・断面修復の際は、鉄筋に防錆処理を施すこと。
 - ・断面修復箇所及び数量は、現地にて確認すること。
 - ・かぶり厚が十分確保できない場合は、補修材を盛ること。

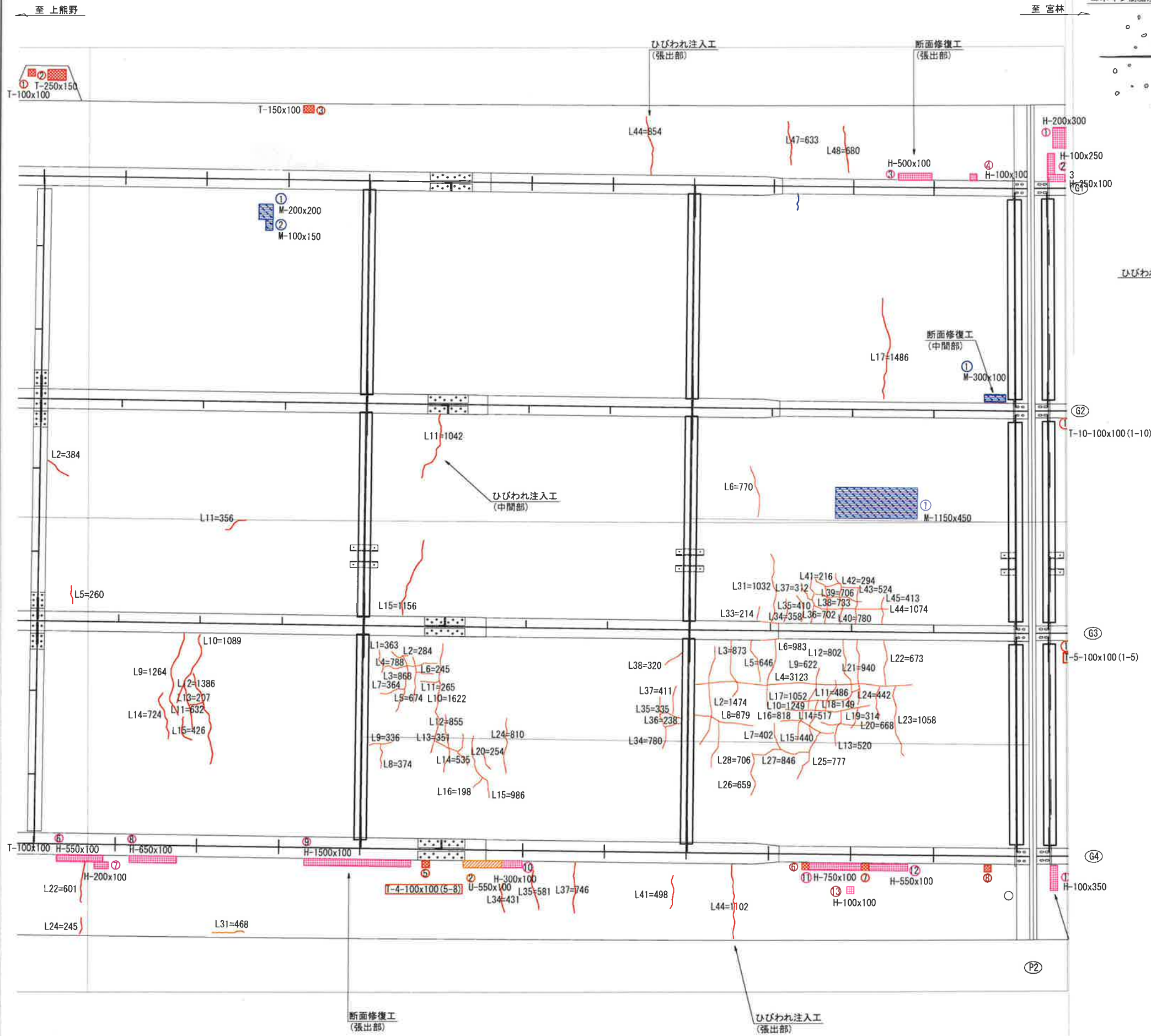
- 注記)
1. 補修箇所は、必ず現地確認の上で施工を行うこと。
 2. 施工に際しては、必ず現地にて補修箇所及び数量を確認の上で行うこと。
 3. 柵下に支障となりうる建物があるため、移設や撤去ができない場合には、可能な範囲で補修を行うものとする。

凡例	
	0.2mm以上のひびわれ
	打継ぎ
	鉄筋露出
	剥離
	うき

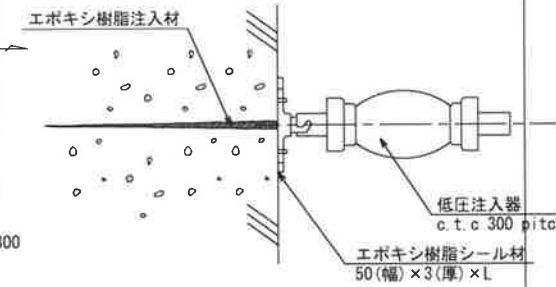
工 事 名	城平跨線橋 床版補修工 (その3)
図 面 名	平成30年12月 日
作成年月日	縮 尺 図 示 図面番号 30 /
会 社 名	株式会社 構造技研新鴻
事業者名	湯沢町地域整備部建設課

$$S=1/30$$

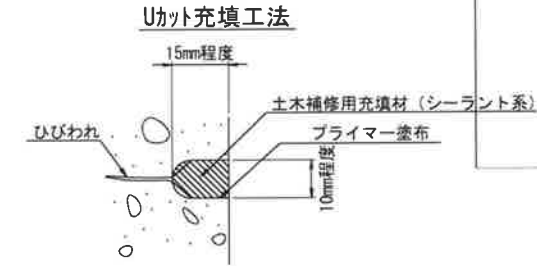
(床版P1-P2径間)



ひびわれ注入工

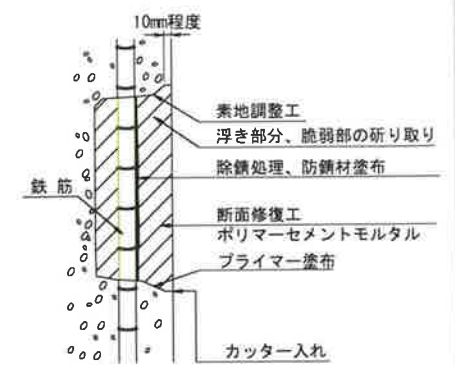


ひびわれ充填工



断面修復工

左官工法









注記)

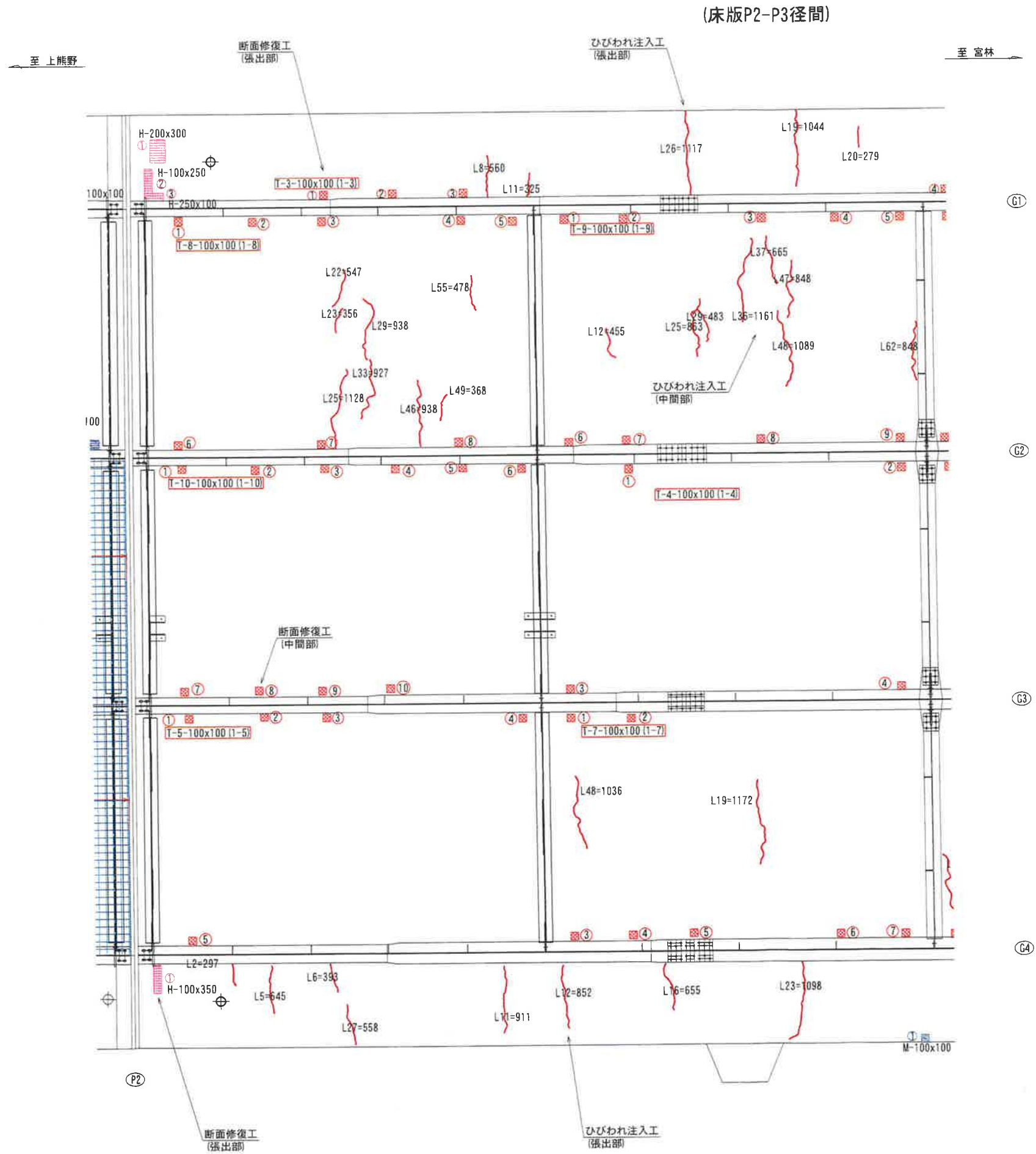
- ・補修範囲に10mm程度カッターを入れてから施工すること。
- ・断面修復は、脆弱部をたたき落として上で実施すること。
- ・断面修復の際は、鉄筋に防錆処理を施すこと。
- ・断面修復箇所及び数量は、現地に確認すること。
- ・かぶり厚が十分確保できない場合は、補修材を盛ること。

注記)

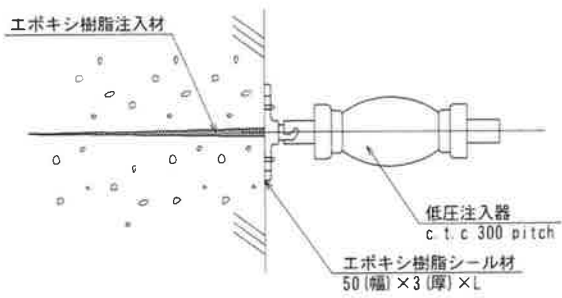
1. 補修箇所は、必ず現地確認の上で施工を行うこと。
2. 施工に際しては、必ず現地にて補修箇所及び数量を確認の上で行うこと。
3. 桁下に支障となりうる建物があるため、移設や撤去ができない場合には、可能な範囲で補修を行うものとする。

凡例	
	0.2mm以上のひびわれ
	打継ぎ
	鉄筋露出
	剥離
	うき
	豆板

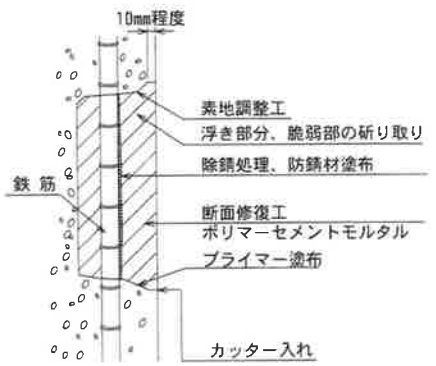
工 事 名			
図 面 名	城平路線橋 床版補修工(その4)		
作成年月日	平成30年12月 日		
縮 尺	図 示	図面番号	31 / 85
会 社 名			
事業者名	湯沢町地域整備部建設課		



ひびわれ注入工



断面修復工
左官工法



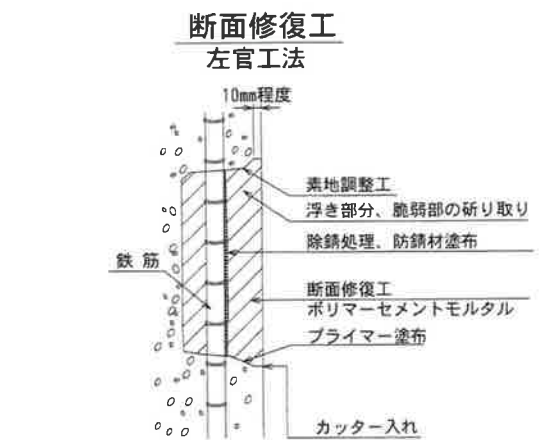
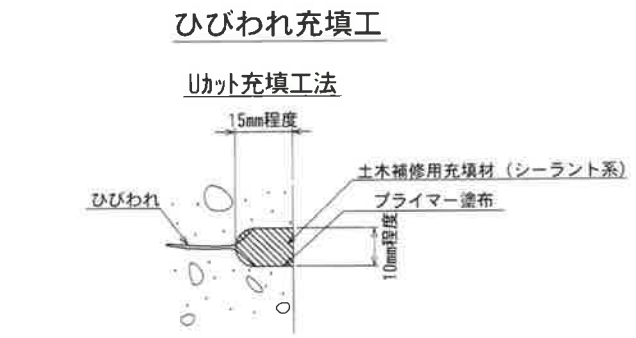
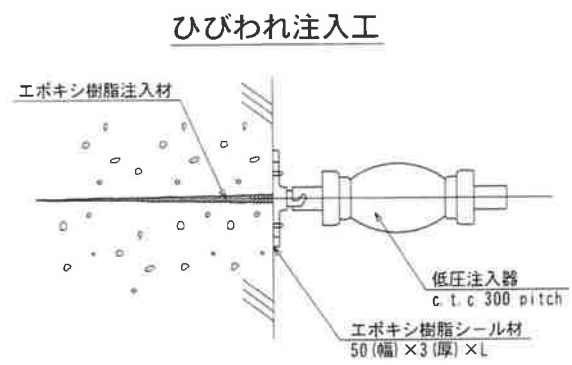
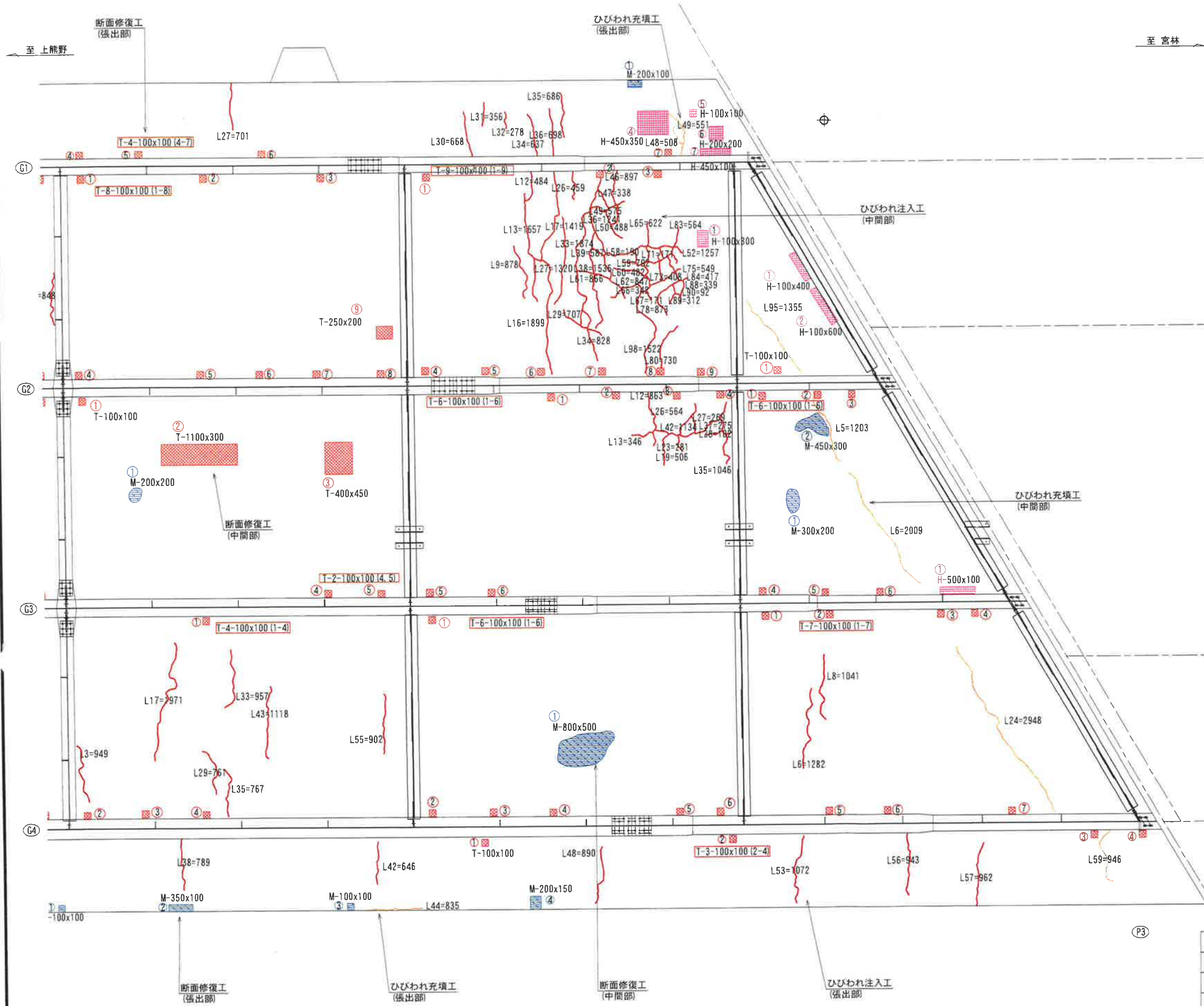
- 注記)
- ・補修範囲に10mm程度カッターを入れてから施工すること。
 - ・断面修復は、脆弱部をたたき落とした上で実施すること。
 - ・断面修復の際は、鉄筋に防錆処理を施すこと。
 - ・断面修復箇所及び数量は、現地にて確認すること。
 - ・かぶり厚が十分確保できない場合は、補修材を盛ること。

- 注記)
1. 補修箇所は、必ず現地確認の上で施工を行うこと。
 2. 施工に際しては、必ず現地にて補修箇所及び数量を確認の上で行うこと。
 3. 桁下に支障となりうる建物があるため、移設や撤去ができない場合には、可能な範囲で補修を行うものとする。

凡例	
	0.2mm以上のひびわれ
	鉄筋露出
	剥離
	豆板

工 事 名	
図 面 名	城平跨線橋 床版補修工 (その5)
作成年月日	平成30年12月 日
縮 尺	図 示 図面番号 32 /
会 社 名	株式会社 構造技研新潟
事業者名	湯沢町地域整備部建設課

(床版P2-P3径間)



注記)
・補修範囲に10mm程度カッターを入れてから施工すること。
・断面修復は、脆弱部をたたき落とした上で実施すること。
・断面修復の際は、鉄筋に防錆処理を施すこと。
・断面修復箇所及び数量は、現地に確認すること。
・かぶり厚が十分確保できない場合は、補修材を盛ること。

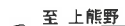
注記)
1. 補修箇所は、必ず現地確認の上で施工を行うこと。
2. 施工に際しては、必ず現地に補修箇所及び数量を確認の上で行うこと。
3. 桁下に支障となりうる建物があるため、移設や撤去ができない場合には、可能な範囲で補修を行うものとする。

凡例	
	0.2mm以上のひびわれ
	打継ぎ
	鉄筋露出
	剥離
	豆板

工事名	
図面名	城平跨線橋 床版補修工 (その6)
作成年月日	平成30年12月 日
縮尺	図示 図面番号 33 /
会社名	株式会社 構造技研新潟
事業者名	湯沢町地域整備部建設課

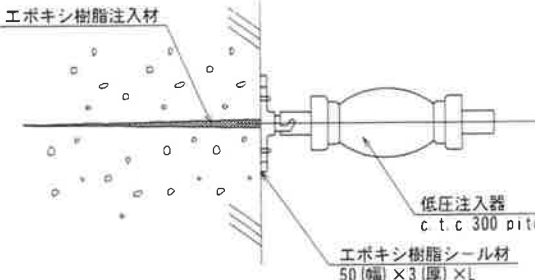
$$S=1/30$$

(床版P4-P5径間)



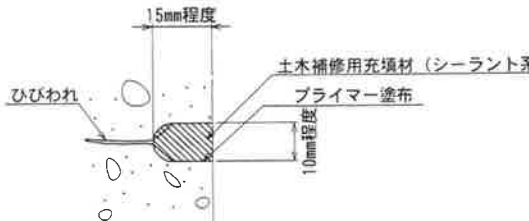
至 宮林

ひびわれ注入工

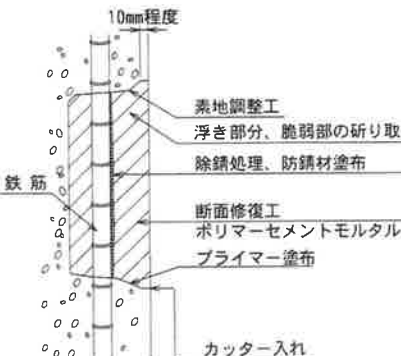


ひびわれ充填工

Uカット充填工法









断面修復工 左官工法



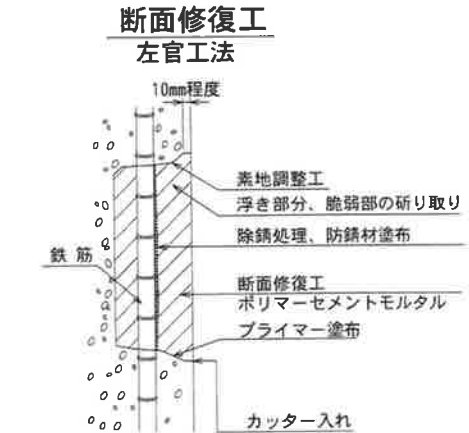
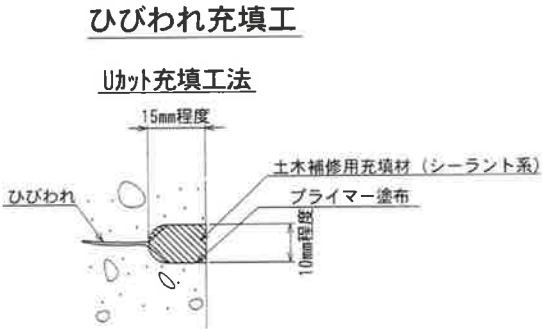
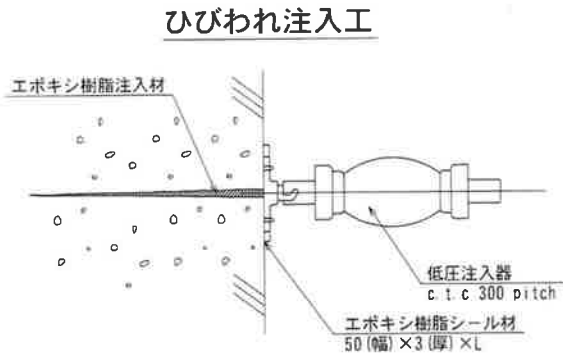
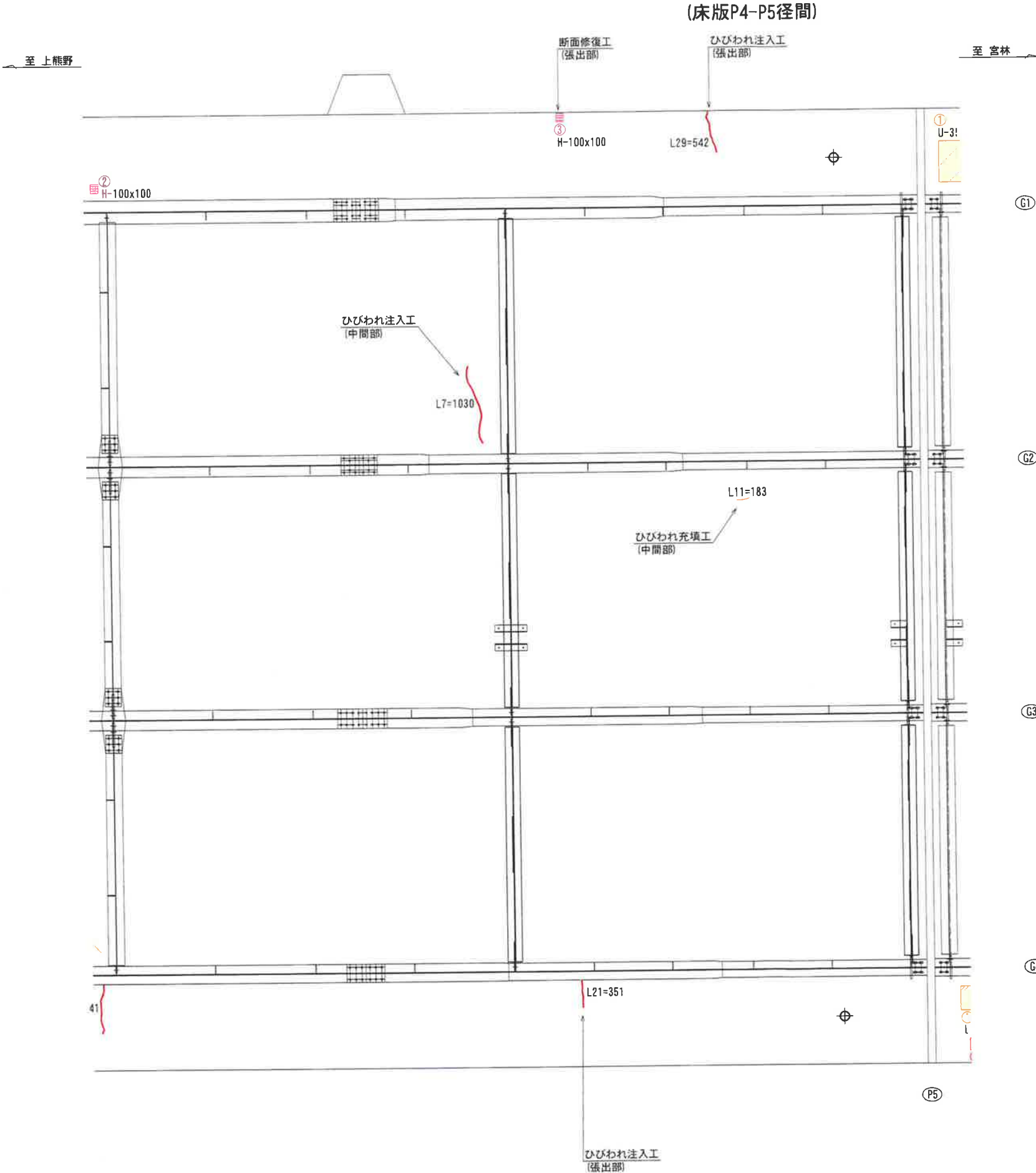
・補修範囲に10mm程度カッターを入れてから施工すること。
・断面修復は、脆弱部をたたき落とした上で実施すること。
・断面修復の際は、鉄筋に防錆処理を施すこと。
・断面修復箇所及び数量は、現地にて確認すること。
・かぶり厚が十分確保できない場合は、補修材を盛ること。

注記)

1. 補修箇所は、必ず現地確認の上で施工を行うこと。
2. 施工に際しては、必ず現地にて補修箇所及び数量を確認の上で行うこと。
3. 桁下に支障となりうる建物があるため、移設や撤去ができない場合には、可能な範囲で補修を行うものとする。

凡例	
	0.2mm以上のひびわれ
	打継ぎ
	鉄筋露出
	剥離
	うき
	豆板

工 事 名			
図 面 名	城平跨線橋 床版補修工(その7)		
作成年月日	平成30年12月 日		
縮 尺	図 示	図面番号	34 /
会 社 名	株式会社 構造技研新潟		
事業者名	湯沢町地域整備部建設課		



注記)

- ・補修範囲に10mm程度カッターを入れてから施工すること。
- ・断面修復は、脆弱部をたたき落とした上で実施すること。
- ・断面修復の際は、鉄筋に防錆処理を施すこと。
- ・断面修復箇所及び数量は、現地にて確認すること。
- ・かぶり厚が十分確保できない場合は、補修材を盛ること。

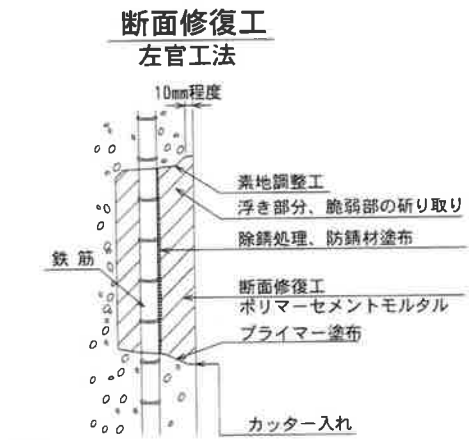
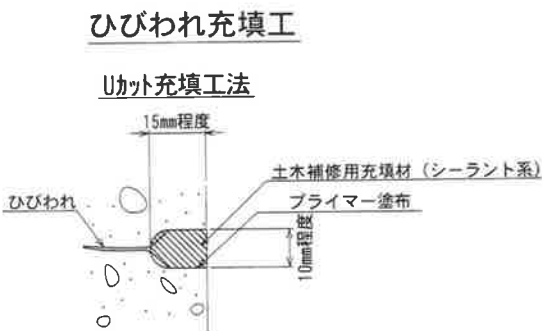
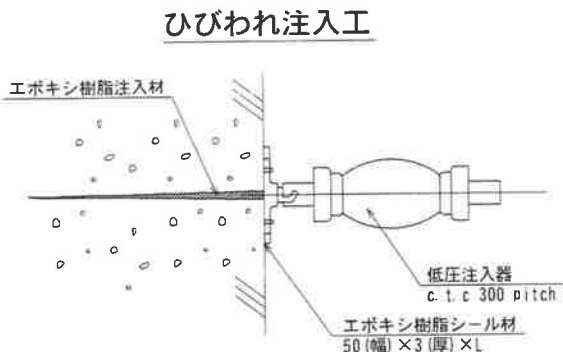
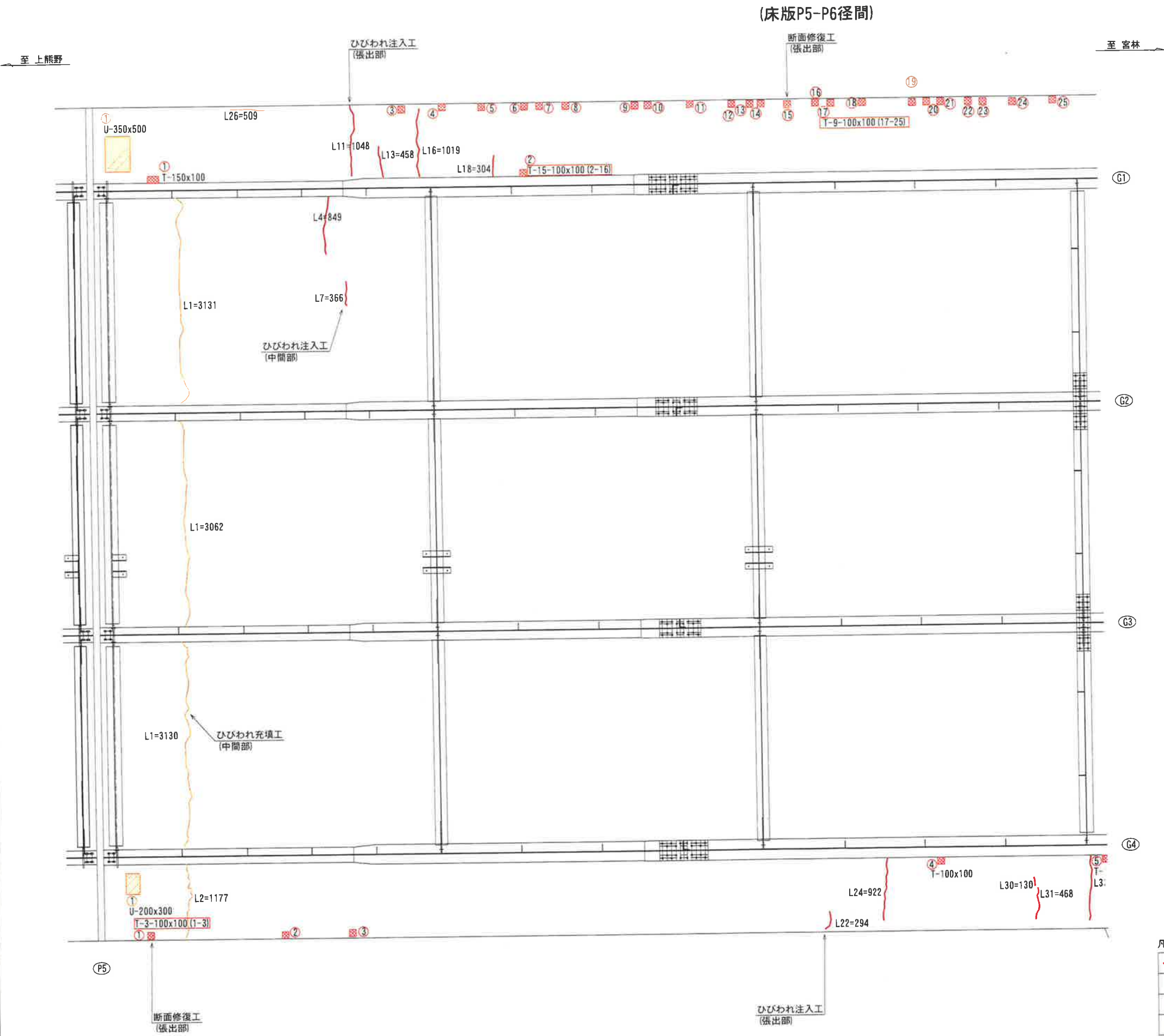
注記)

1. 補修箇所は、必ず現地確認の上で施工を行うこと。
2. 施工に際しては、必ず現地にて補修箇所及び数量を確認の上で行うこと。
3. 桁下に支障となりうる建物があるため、移設や撤去ができない場合には、可能な範囲で補修を行うものとする。

凡例

	0.2mm以上のひびわれ
	打継ぎ
	剥離

工事名	城平跨線橋 床版補修工 (その8)
図面名	城平跨線橋 床版補修工 (その8)
作成年月日	平成30年12月 日
縮尺	図示
図面番号	35 /
会社名	株式会社 構造技研新潟
事業者名	湯沢町地域整備部建設課



注記)

- ・補修範囲に10mm程度カッターを入れてから施工すること。
- ・断面修復は、脆弱部をたたき落とした上で実施すること。
- ・断面修復の際は、鉄筋に防錆処理を施すこと。
- ・断面修復箇所及び数量は、現地にて確認すること。
- ・かぶり厚が十分確保できない場合は、補修材を盛ること。

注記)

1. 補修箇所は、必ず現地確認の上で施工を行うこと。
2. 施工に際しては、必ず現地にて補修箇所及び数量を確認の上で行うこと。
3. 桁下に支障となりうる建物があるため、移設や撤去ができない場合には、可能な範囲で補修を行うものとする。

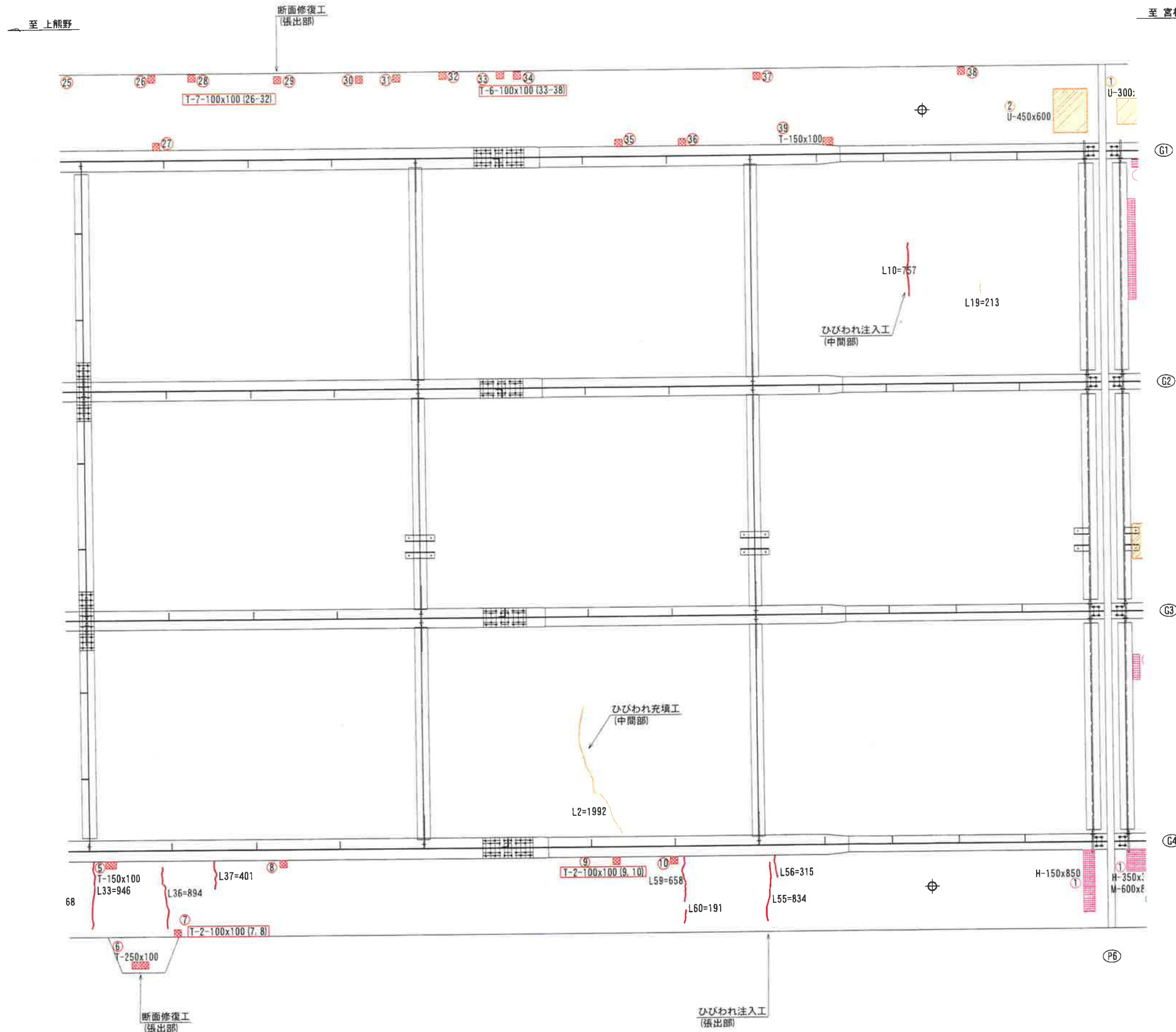
凡例

	0.2mm以上のひびわれ
	打継ぎ
	鉄筋露出
	うき

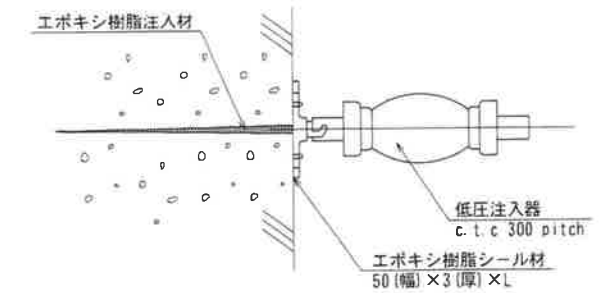
工 事 名	城平跨線橋 床版補修工 (その9)
図 面 名	平成30年12月 日
作成年月日	縮 尺 図 示 図面番号 36 /
会 社 名	株式会社 構造技研新潟
事業者名	湯沢町地域整備部建設課

城平跨線橋 床版補修工 (その10) S=1/30

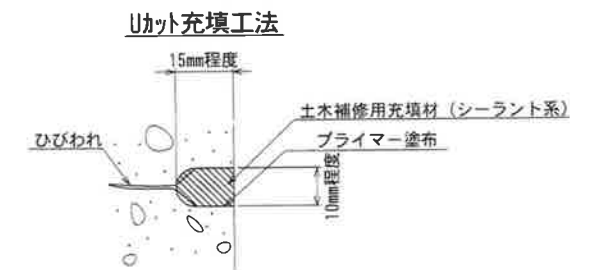
(床版P5-P6径間)



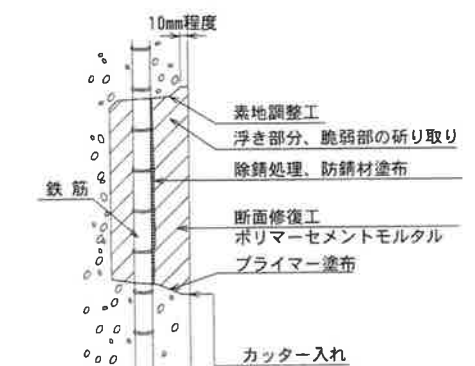
ひびわれ注入工



ひびわれ充填工



断面修復工 左官工法



- 注記)
- ・補修範囲に10mm程度カッターを入れてから施工すること。
 - ・断面修復は、脆弱部をたたき落とした上で実施すること。
 - ・断面修復の際は、鉄筋に防錆処理を施すこと。
 - ・断面修復箇所及び数量は、現地にて確認すること。
 - ・かぶり厚が十分確保できない場合は、補修材を盛ること。

- 注記)
1. 補修箇所は、必ず現地確認の上で施工を行うこと。
 2. 施工に際しては、必ず現地にて補修箇所及び数量を確認の上で行うこと。
 3. 桁下に支障となりうる建物があるため、移設や撤去ができない場合には、可能な範囲で補修を行うものとする。

凡例	
	0.2mm以上のひびわれ
	打継ぎ
	鉄筋露出
	剥離
	うき

工事名	
図面名	城平跨線橋 床版補修工(その10)
作成年月日	平成30年12月 日
縮尺	図示 図面番号 37 /
会社名	株式会社 構造技研新潟
事業者名	湯沢町地域整備部建設課

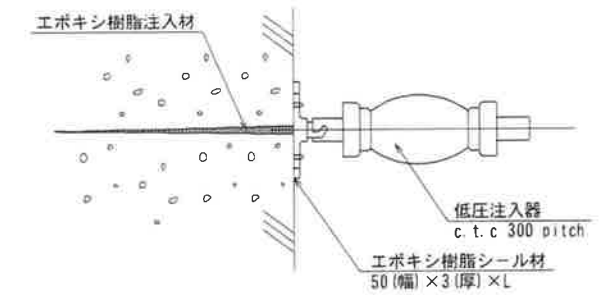
城平跨線橋 床版補修工(その11) S=1/30

(床版P6-P7径間)

至 上熊野

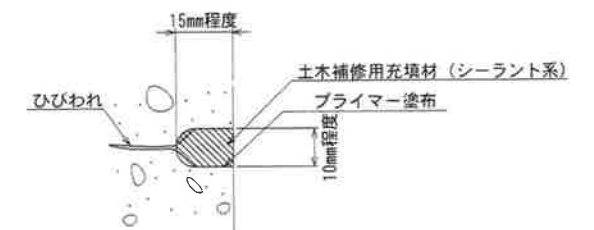
至 宮林

ひびわれ注入工

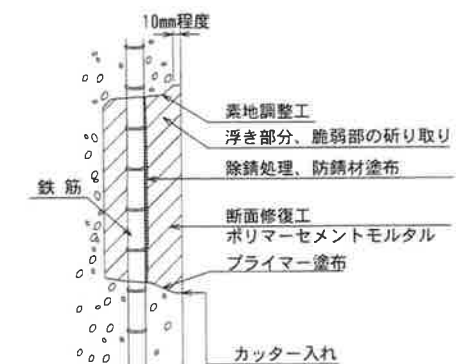


ひびわれ充填工

Uカット充填工法



断面修復工 左官工法









注記)

- ・補修範囲に10mm程度カッターを入れてから施工すること。
- ・断面修復は、脆弱部をたたき落とした上で実施すること。
- ・断面修復の際は、鉄筋に防錆処理を施すこと。
- ・断面修復箇所及び数量は、現地に確認すること。
- ・かぶり厚が十分確保できない場合は、補修材を盛ること。

注記)

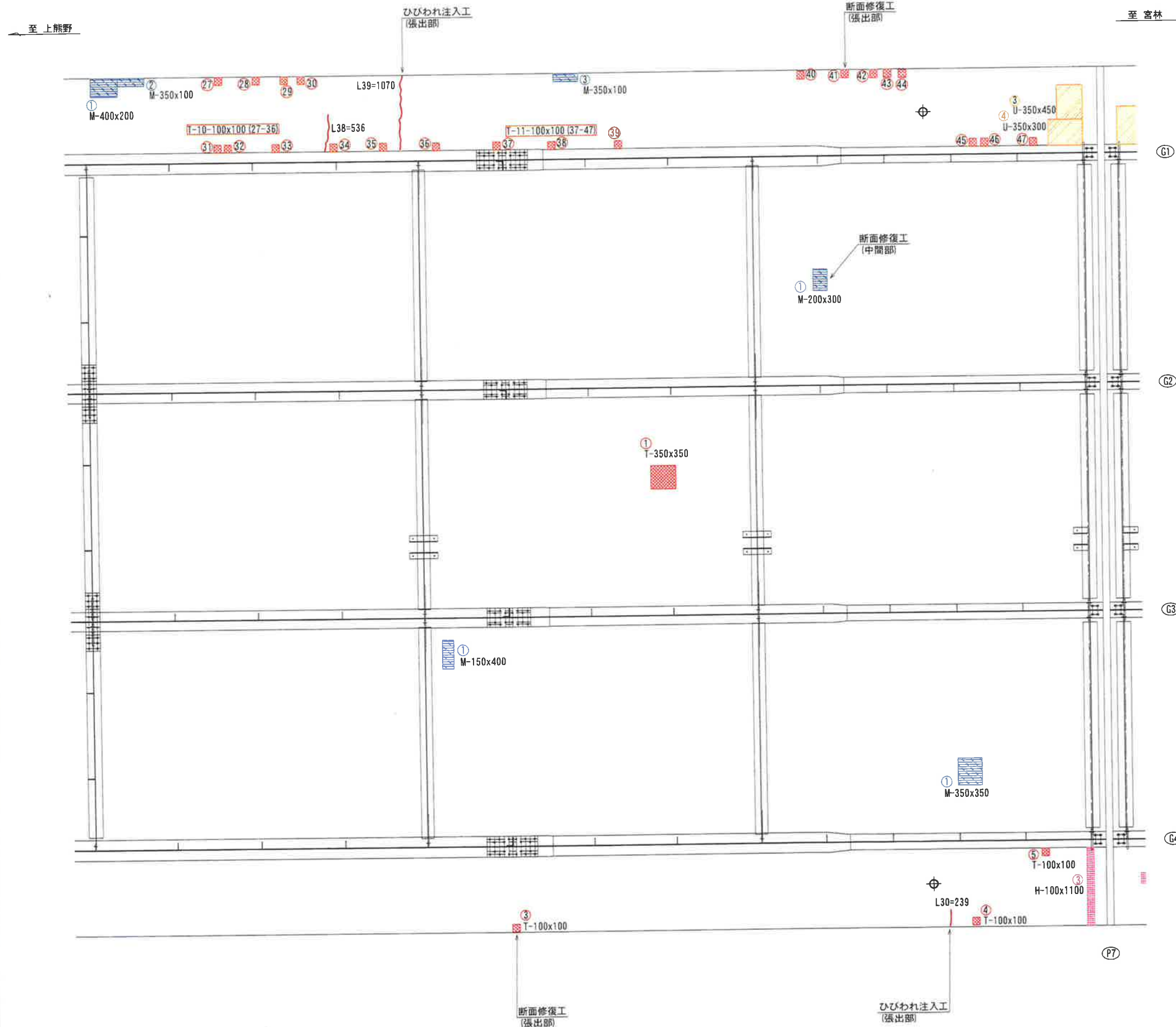
1. 補修箇所は、必ず現地確認の上で施工を行うこと。
2. 施工に際しては、必ず現地に補修箇所及び数量を確認の上で行うこと。
3. 桁下支障となりうる建物があるため、移設や撤去ができない場合には、可能な範囲で補修を行うものとする。

凡例

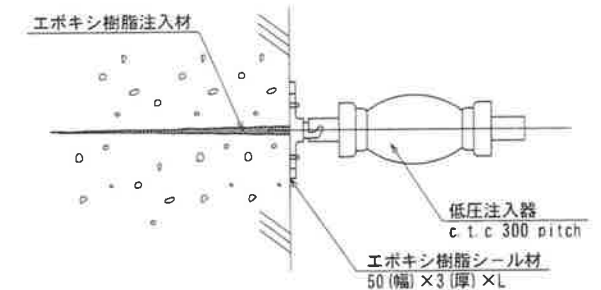
	0.2mm以上のひびわれ
	打継ぎ
	鉄筋露出
	剥離
	うき
	豆板

工 事 名			
図 面 名	城平跨縁櫓 床版補修工(その11)		
作成年月日	平成30年12月 日		
縮 尺	図 示	図面番号	38 /
会 社 名	株式会社 構造技研新潟		
事業者名	湯沢町地域整備部建設課		

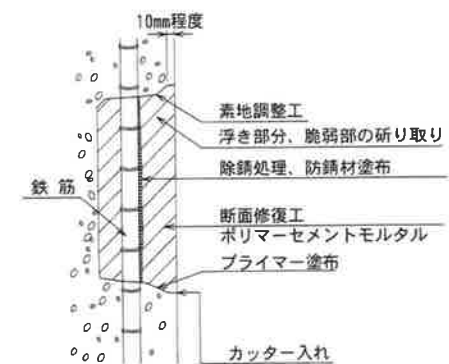
(床版P6-P7径間)



ひびわれ注入工



断面修復工 左官工法








注記)

- ・補修範囲に10mm程度カッターを入れてから施工すること。
- ・断面修復は、脆弱部をたたき落とした上で実施すること。
- ・断面修復の際は、鉄筋に防錆処理を施すこと。
- ・断面修復箇所及び数量は、現地にて確認すること。
- ・かぶり厚が十分確保できない場合は、補修材を盛ること。

注記)

1. 補修箇所は、必ず現地確認の上で施工を行うこと。
2. 施工に際しては、必ず現地にて補修箇所及び数量を確認の上で行うこと。
3. 桁下に支障となりうる建物があるため、移設や撤去ができない場合には、可能な範囲で補修を行うものとする。

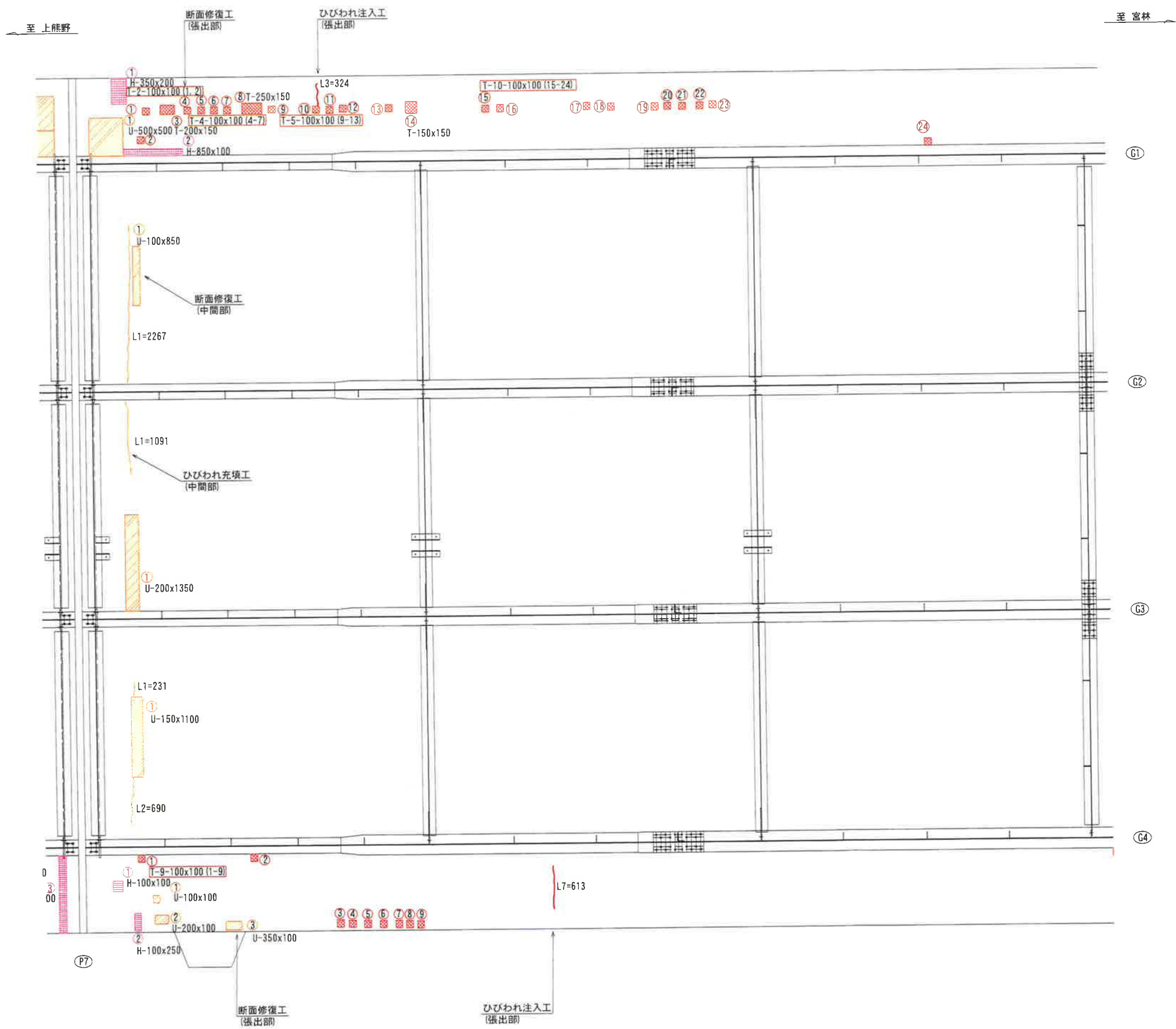
凡例

	0.2mm以上のひびわれ
	鉄筋露出
	剥離
	うき
	豆板

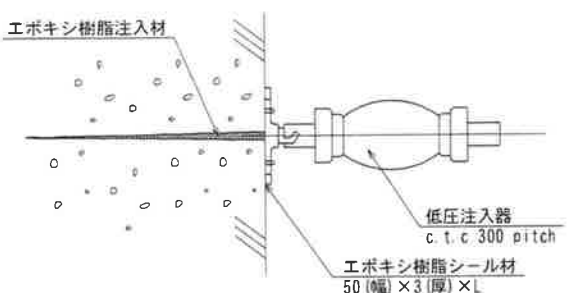
工事名			
図面名	城平跨線橋 床版補修工(その12)		
作成年月日	平成30年12月 日		
縮尺	図示	図面番号	39 /
会社名	株式会社 構造技研新潟		
事業者名	湯沢町地域整備部建設課		

城平跨線橋 床版補修工 (その13) S=1/30

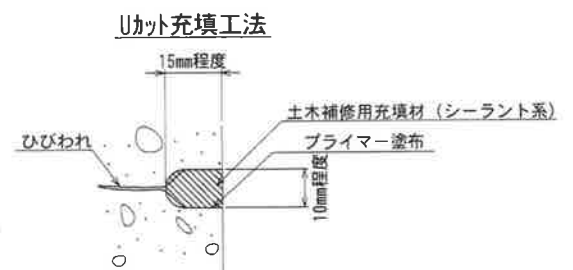
(床版P7-A2径間)



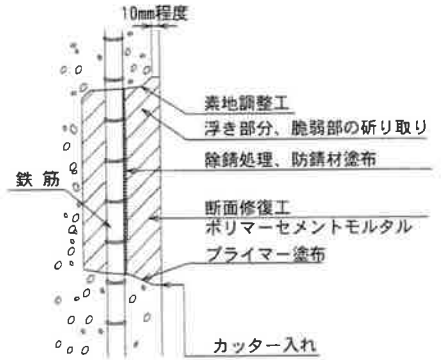
ひびわれ注入工



ひびわれ充填工



断面修復工
左官工法



- 注記)
- ・補修範囲に10mm程度カッターを入れてから施工すること。
 - ・断面修復は、脆弱部をたたき落とした上で実施すること。
 - ・断面修復の際は、鉄筋に防錆処理を施すこと。
 - ・断面修復箇所及び数量は、現地にて確認すること。
 - ・かぶり厚が十分確保できない場合は、補修材を盛ること。

- 注記)
1. 補修箇所は、必ず現地確認の上で施工を行うこと。
 2. 施工に際しては、必ず現地にて補修箇所及び数量を確認の上で行うこと。
 3. 桁下に支障となりうる建物があるため、移設や撤去ができない場合には、可能な範囲で補修を行うものとする。

工事名	
図面名	城平跨線橋 床版補修工(その13)
作成年月日	平成30年12月 日
縮尺	図示 図面番号 40 /
会社名	株式会社 構造技研新潟
事業者名	湯沢町地域整備部建設課

城平跨線橋 床版補修工(その14) S=1/30

(床版P7-A2径間)

断面修復工
(張出部)

至宮林

至上熊野

ひびわれ充填工
(中間部)

L4=356

ひびわれ充填工

Uカット充填工法

15mm程度

土木補修用充填材（シーラント系）

プライマー塗布

2013

断面修復工

左官工法

10mm程度

素地調整工

浮き部分、脆弱部の斫り取り

除锈处理、防锈材涂布

底面修飾工

ポリマーセメントモルタル

プライマー塗布

カッター入れ

注記)

- ・補修範囲に10mm程度カッターを入れてから施工すること。
- ・断面修復は、脆弱部をたたき落とした上で実施すること。
- ・断面修復の際は、鉄筋に防錆処理を施すこと。
- ・断面修復箇所及び数量は、現地に確認すること。
- ・かぶり厚が十分確保できない場合は、補修材を盛ること。

注記)

- 1 補修箇所は、必ず現地確認の上で施工を行うこと。
- 2 施工に際しては、必ず現地にて補修箇所及び数量を確認の上で行うこと。
- 3 朽下り支障となりうる建物があるため、移設や撤去ができない場合には、可能な範囲で補修を行うものとする。

凡例

	打雜さ
	鉄筋露出
	剥離
	うき
	豆板

工 事 名			
図 面 名	城平跨線橋 床版補修工(その14)		
作成年月日	平成30年12月 日		
縮 尺	図 示	図面番号	41 /
会 社 名	株式会社 構造技研新潟		
事業者名	湯沢町地域整備部建設課		

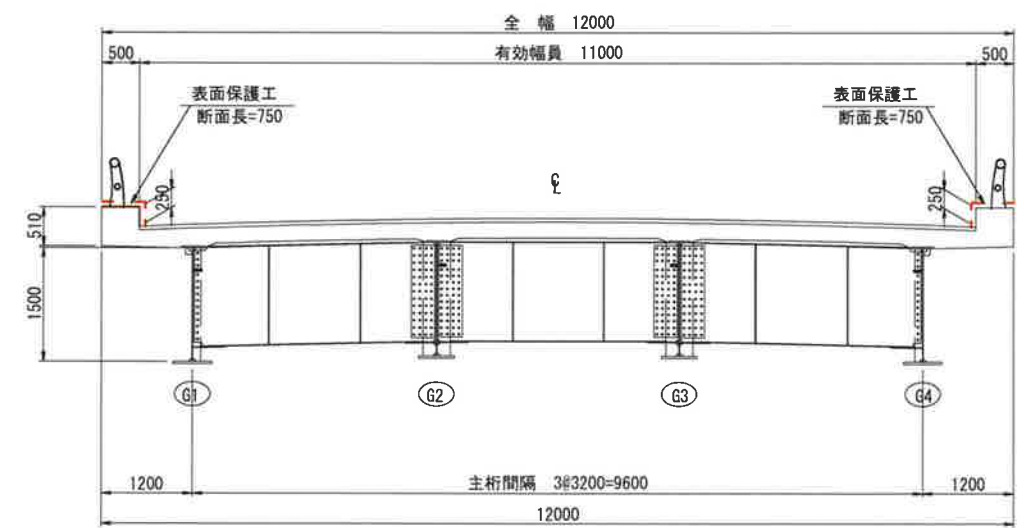
城平跨線橋 地覆部表面保護工

平面図 S=1/300

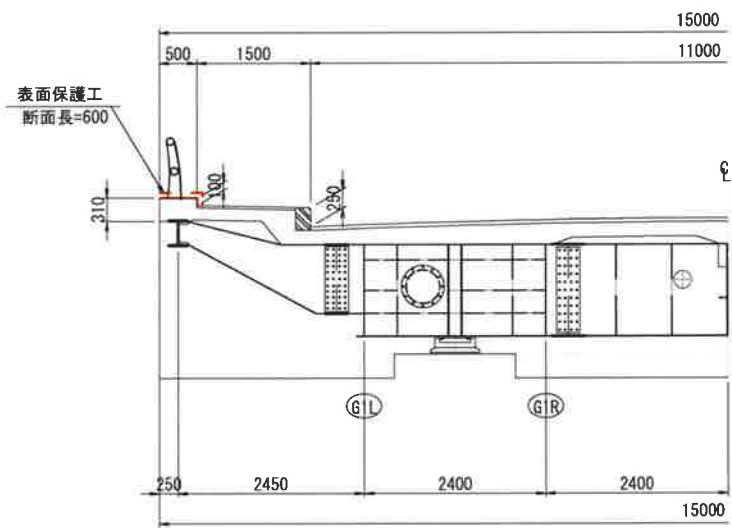


断面図 S=1/50

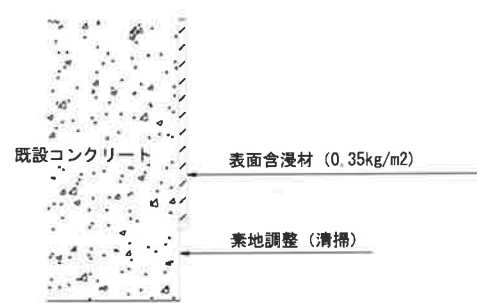
A1-P3, P4-A2



P3-P4



表面保護工詳細図



※表面含浸材の選定について

- ・土木研究所「第4186号に基づく性能評価」合格品であること。
- ・断面修復後に含浸材塗布は通常行われている施工であるものの、断面修復材によっては事前に相性確認の試験施工を行うこと。

(事前に表面含浸材メーカーに施工実績の確認を行うこと)
(表面含浸材メーカーにて無償サンプルの提供を受けることが可能)

表面保護工 施工面積

径 間	断面長 (m)	施工延長 (m)	員 数	施工面積 (m2)
A1-P1	0.750	28.400	2	42.60
P1-P2	0.750	28.400	2	42.60
P2-P3	0.750	23.280	2	34.92
P3-P4	0.600	34.000	2	40.80
P4-P5	0.750	23.280	2	34.92
P5-P6	0.750	28.400	2	42.60
P6-P7	0.750	28.400	2	42.60
P7-A2	0.750	28.400	2	42.60
合計施工面積				323.64

注記)

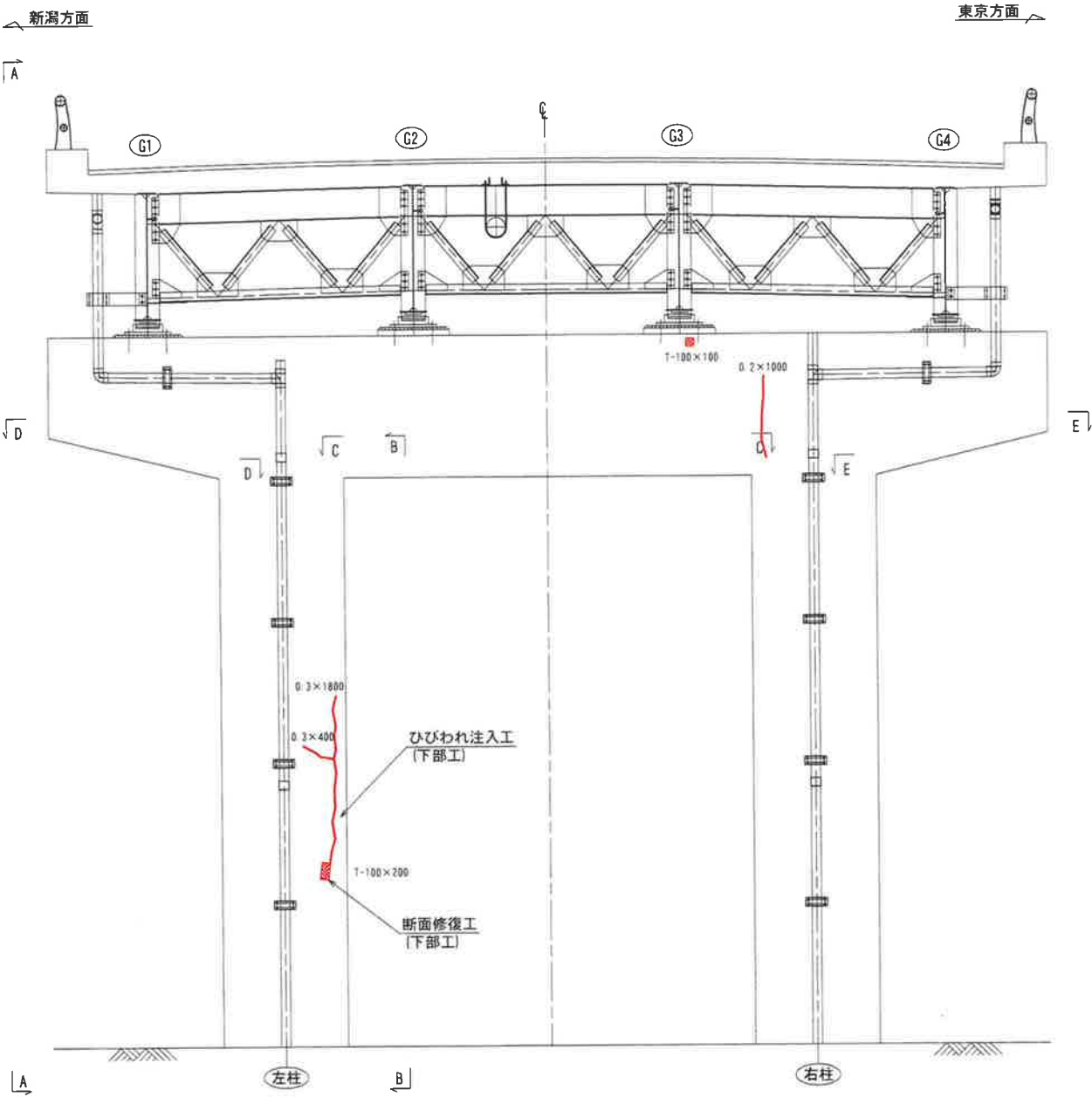
1. 補修箇所は、必ず現地確認の上で施工を行うこと。
2. 施工に際しては、必ず現地にて補修箇所及び数量を確認の上で行うこと。

工 事 名	城平跨線橋 地覆部表面保護工		
図 面 名	城平跨線橋 地覆部表面保護工		
作成年月日	平成30年12月 日		
縮 尺	図 示	図面番号	42 / 85
会 社 名	株式会社 構造技研新潟		
事業者名	湯沢町地域整備部建設課		

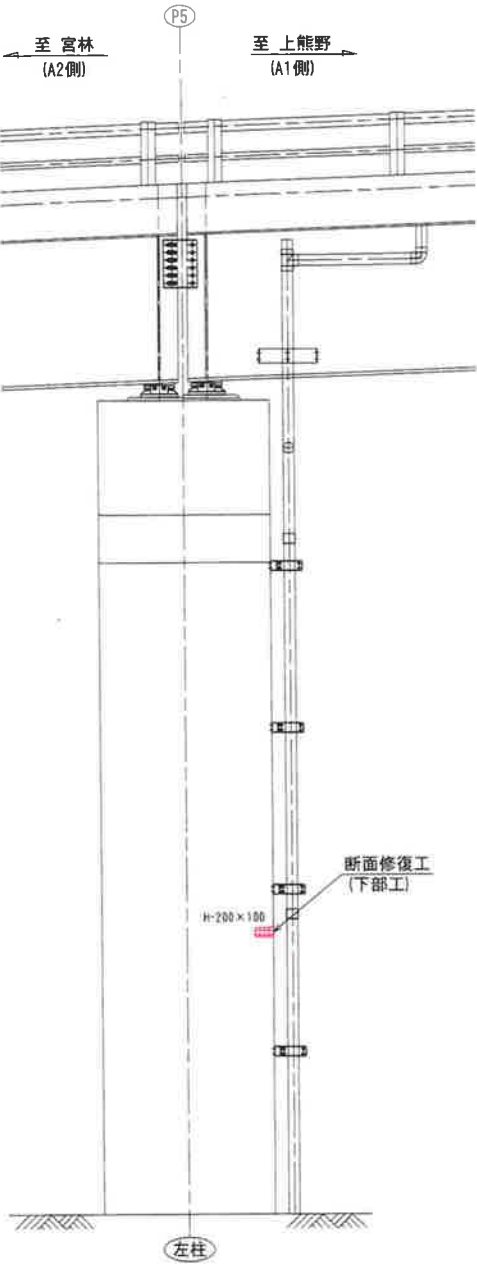
城平跨線橋 下部工補修工 (その7) S=1/40

P5橋脚-起点側

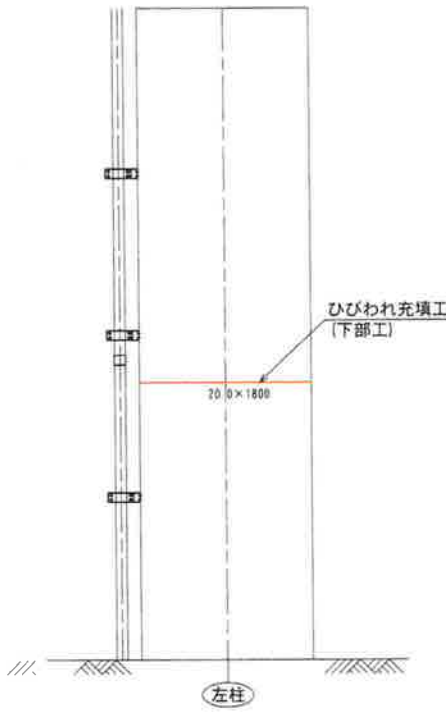
正面図



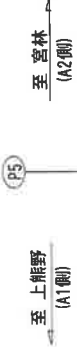
側面図 (A-A)



側面図 (B-B)



平面図 (D-D)

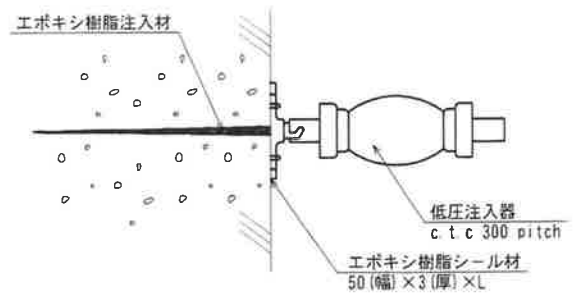


平面図 (C-C)



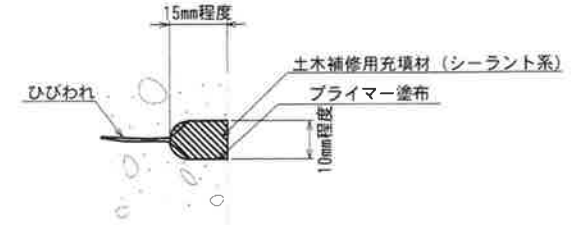
平面図 (E-E)

ひびわれ注入工



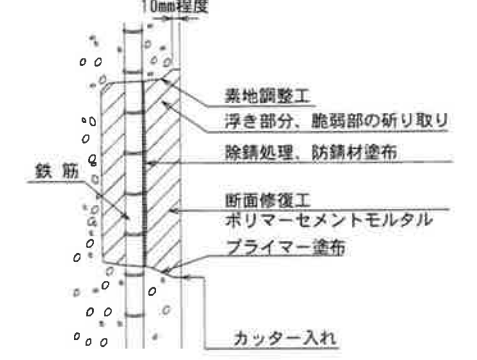
ひびわれ充填工

カット充填工法



断面修復工

左官工法



- 注記)
- ・補修範囲に10mm程度カッターを入れてから施工すること。
 - ・断面修復は、脆弱部をたたき落とした上で実施すること。
 - ・断面修復の際は、鉄筋に防錆処理を施すこと。
 - ・断面修復箇所及び数量は、現地に確認すること。
 - ・かぶり厚が十分確保できない場合は、補修材を盛ること。

- 注記)
1. 補修箇所は、必ず現地確認の上で施工を行うこと。
 2. 施工に際しては、必ず現地に補修箇所及び数量を確認の上で行うこと。
 3. 桁下に支障となりうる建物があるため、移設や撤去ができない場合には、可能な範囲で補修を行うものとする。

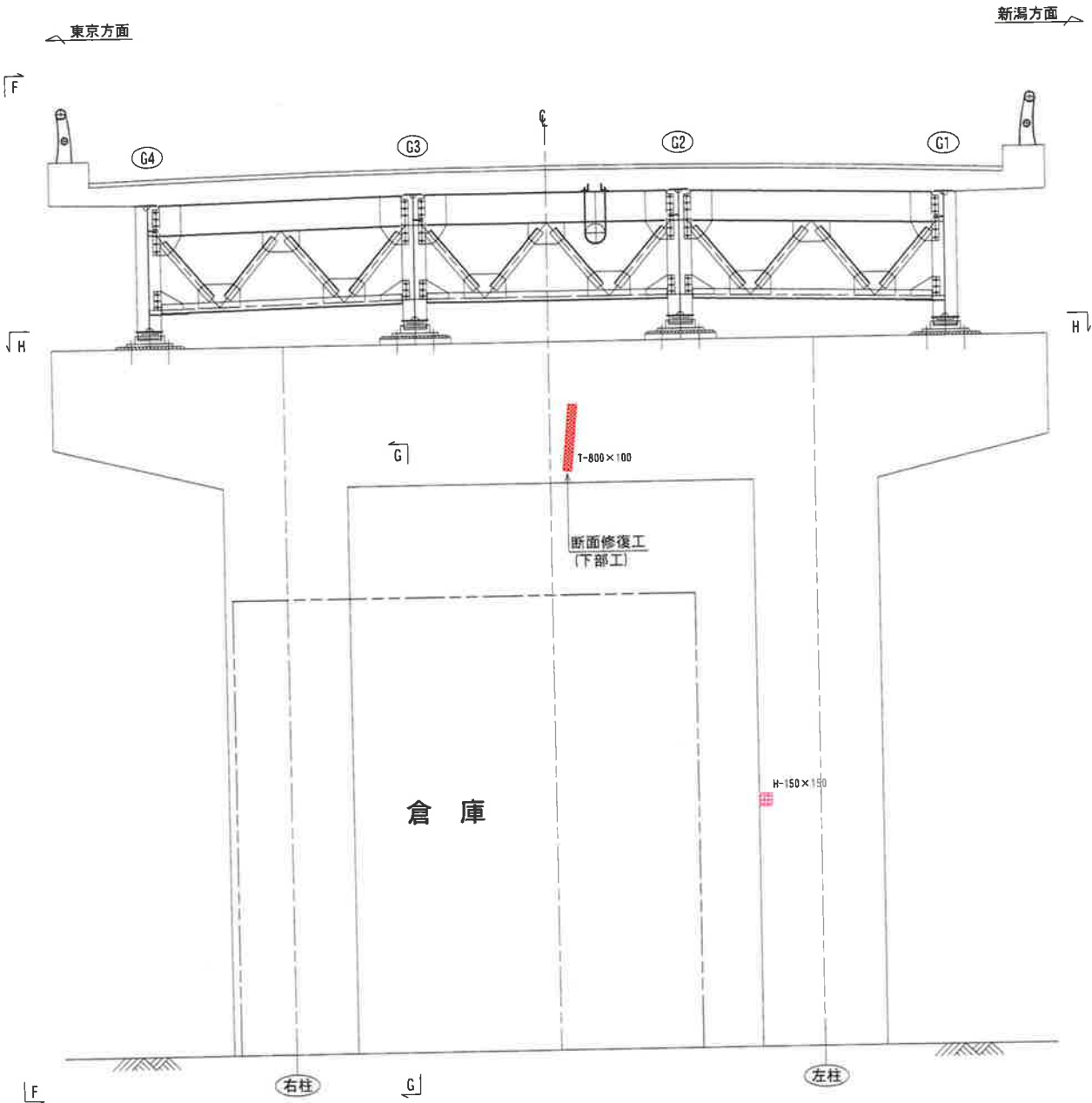
凡例

	0.2mm以上のひびわれ
	打継ぎ
	鉄筋露出
	剥離

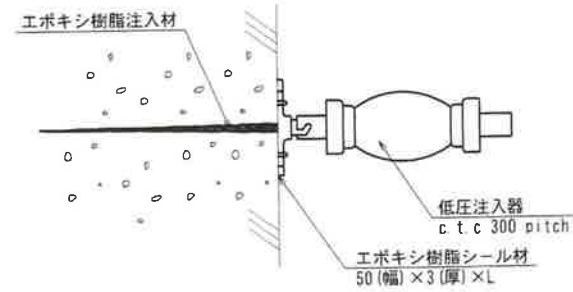
工事名	城平跨線橋 下部工補修工 (その7)
図面名	城平跨線橋 下部工補修工 (その7)
作成年月日	平成30年12月 日
縮尺	図示
図面番号	72 /
会社名	株式会社 構造技研新潟
事業者名	湯沢町地域整備部建設課

P5橋脚-終点側

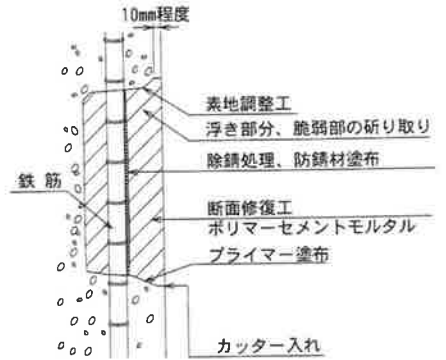
正面図



ひびわれ注入工

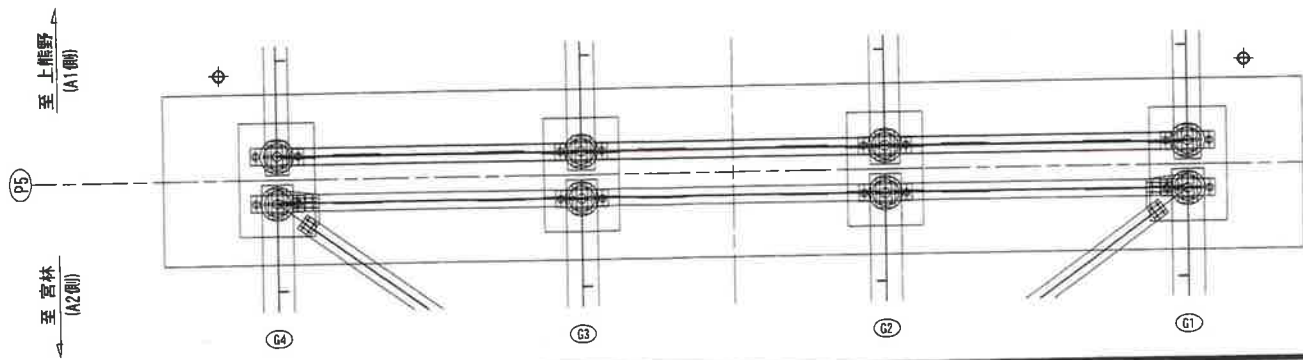


断面修復工
左官工法

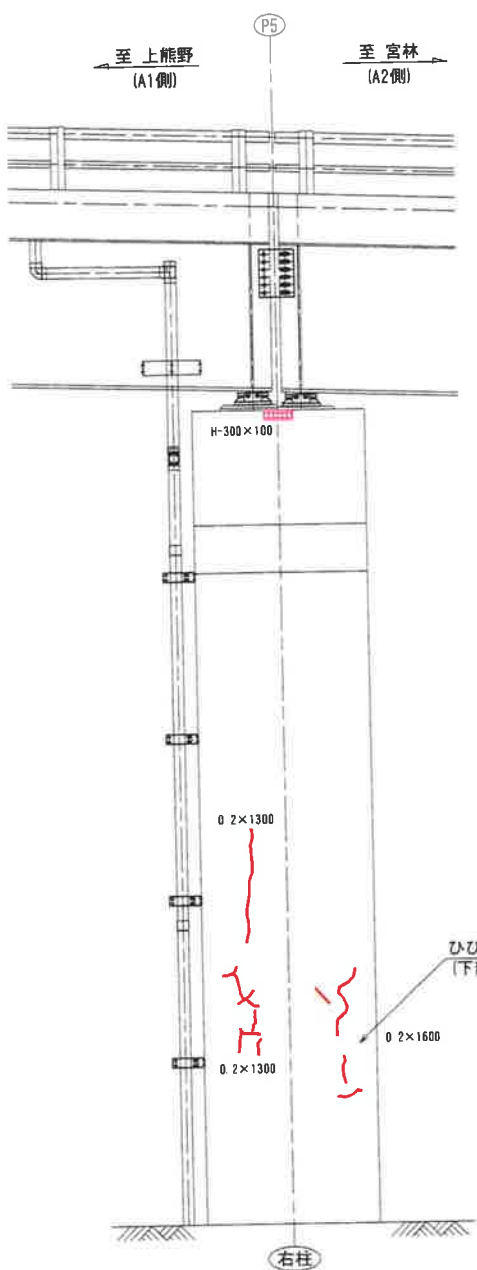


- 注記)
- ・補修範囲に10mm程度カッターを入れてから施工すること。
 - ・断面修復は、脆弱部をたたき落とした上で実施すること。
 - ・断面修復の際は、鉄筋に防錆処理を施すこと。
 - ・断面修復箇所及び数量は、現地にて確認すること。
 - ・かぶり厚が十分確保できない場合は、補修材を盛ること。

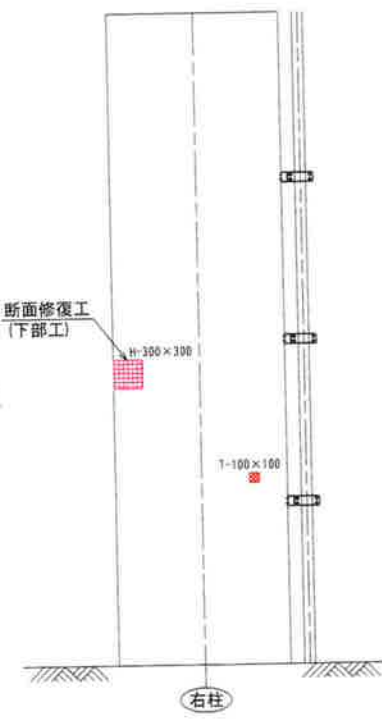
平面図
(H-H)



側面図
(F-F)



側面図
(G-G)



凡例

	0.2mm以上のひびわれ
	鉄筋露出
	剥離

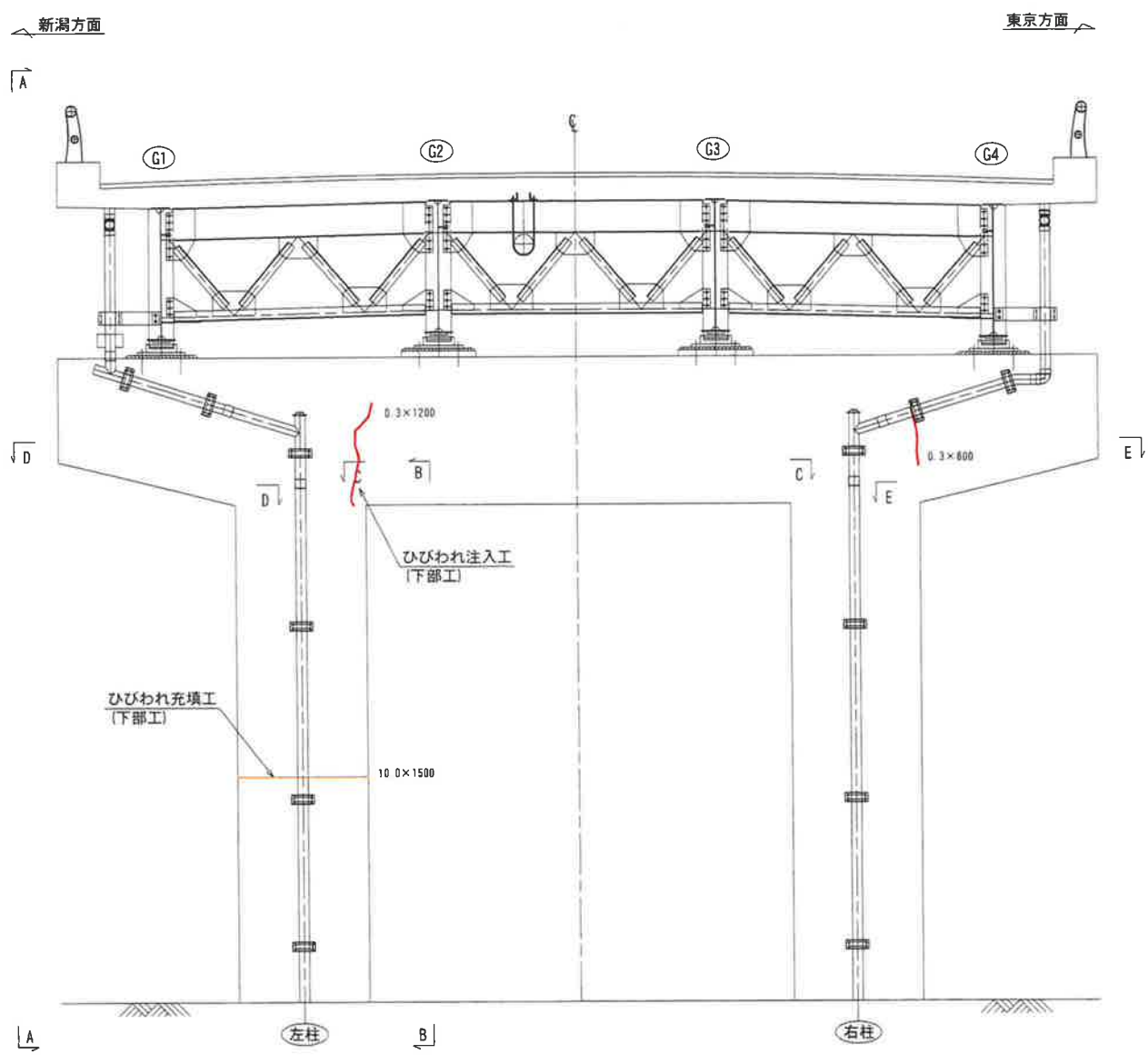
- 注記)
1. 補修箇所は、必ず現地確認の上で施工を行うこと。
 2. 施工に際しては、必ず現地にて補修箇所及び数量を確認の上で行うこと。
 3. 桁下に支障となりうる建物があるため、移設や撤去ができない場合には、可能な範囲で補修を行うものとする。

工事名	城平跨線橋 下部工補修工(その8)
図面名	城平跨線橋 下部工補修工(その8)
作成年月日	平成30年12月 日
縮尺	図示
図面番号	73 /
会社名	株式会社 構造技研新潟
事業者名	湯沢町地域整備部建設課

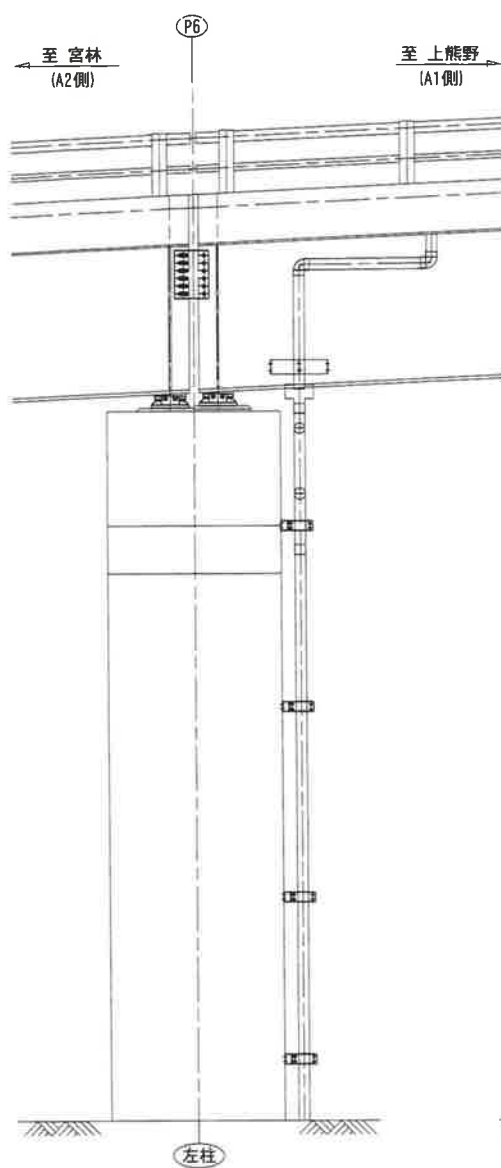
城平跨線橋 下部工補修工(その9) S=1/40

P6橋脚-起点側

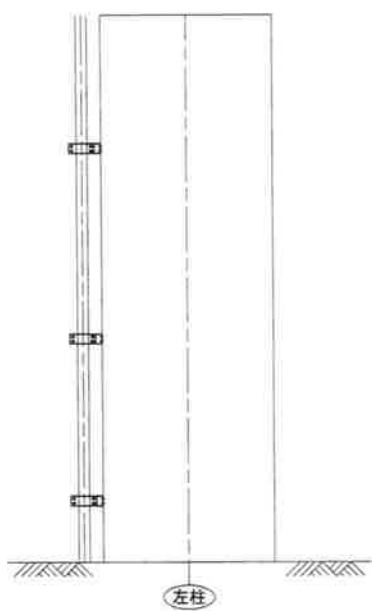
正面図



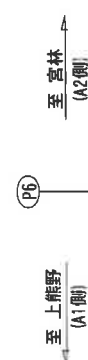
側面図
(A-A)



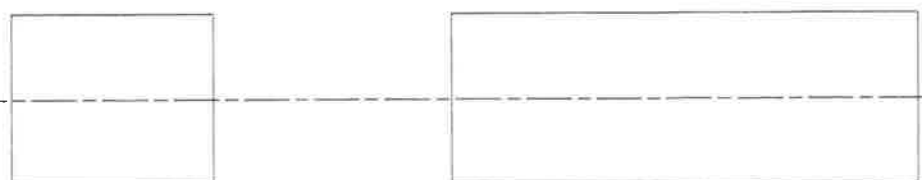
側面図
(B-B)



平面図
(D-D)



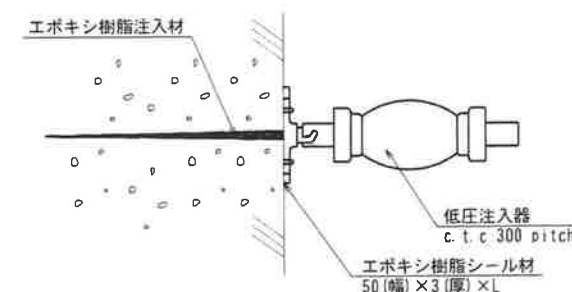
平面図
(C-C)



平面図
(E-E)

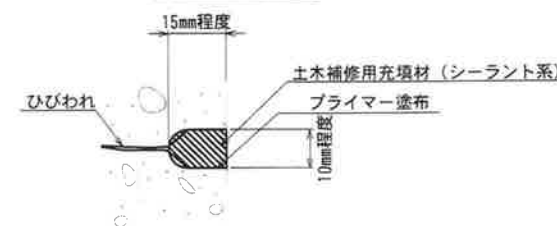


ひびわれ注入工



ひびわれ充填工

Uカット充填工法



- 注記)
- 補修箇所は、必ず現地確認の上で施工を行うこと。
 - 施工に際しては、必ず現地にて補修箇所及び数量を確認の上で行うこと。
 - 桁下に支障となりうる建物があるため、移設や撤去ができない場合には、可能な範囲で補修を行うものとする。

凡例

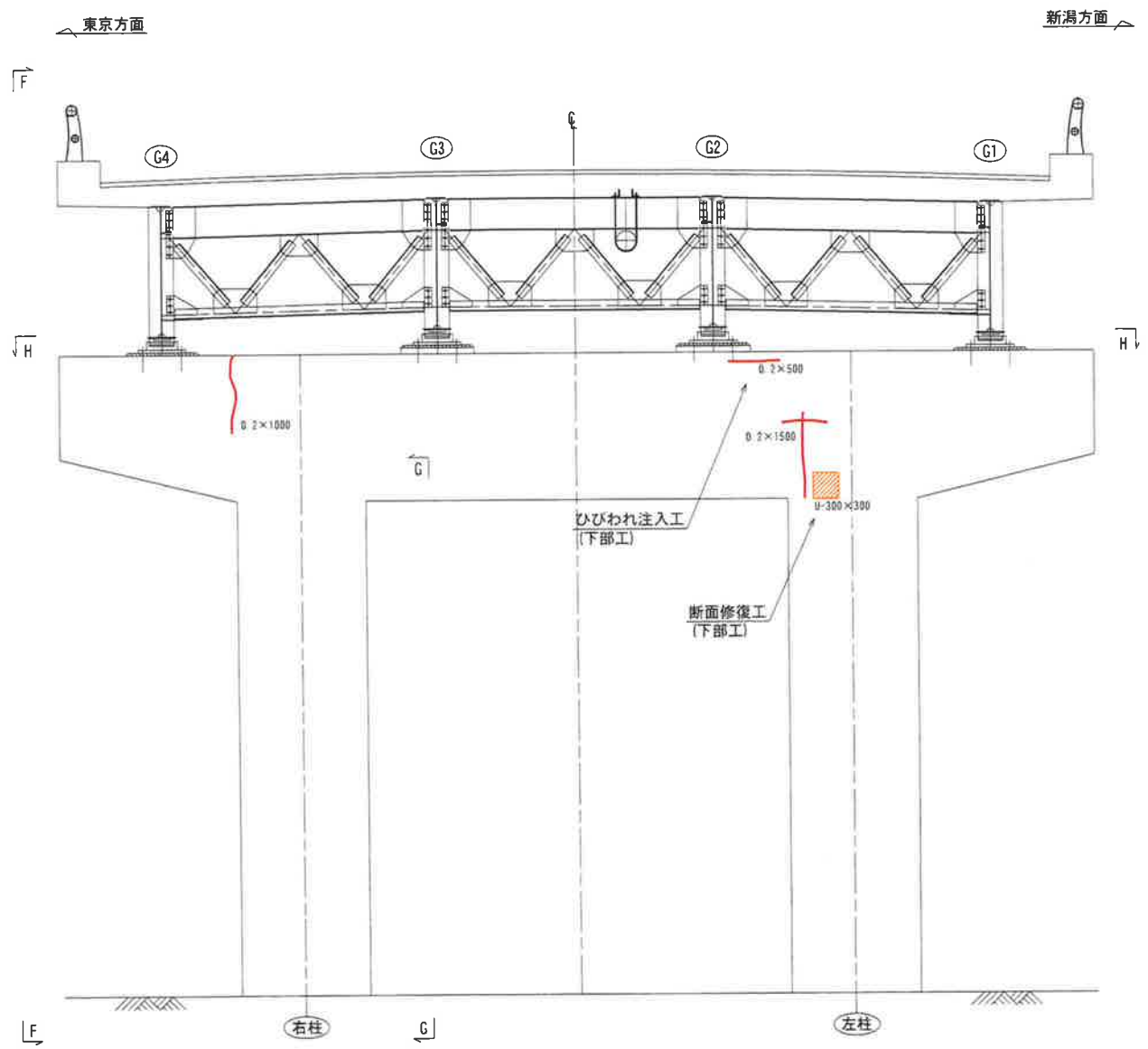
	0.2mm以上のひびわれ
	打継ぎ

工事名	
図面名	城平跨線橋 下部工補修工(その9)
作成年月日	平成30年12月 日
縮尺	図示
図面番号	74 /
会社名	株式会社 構造技研新潟
事業者名	湯沢町地域整備部建設課

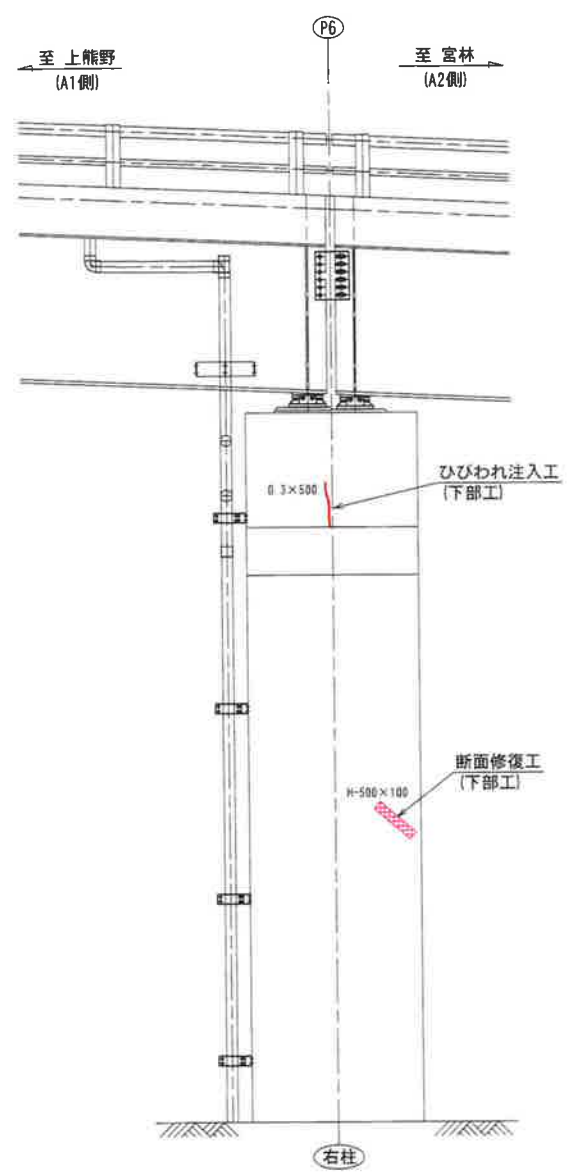
城平跨線橋 下部工補修工(その10) S=1/40

P6橋脚-終点側

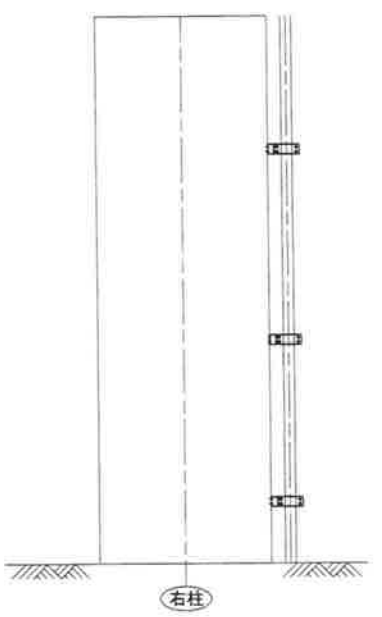
正面図



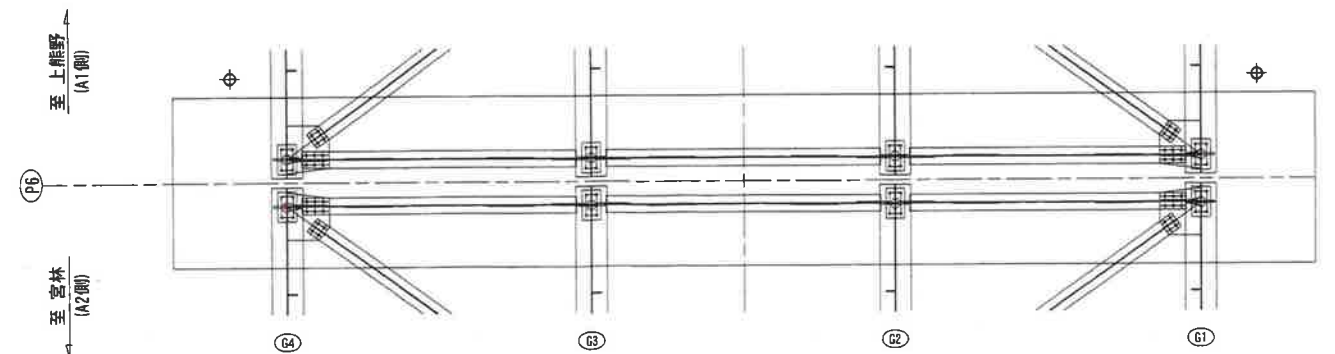
側面図
(F-F)



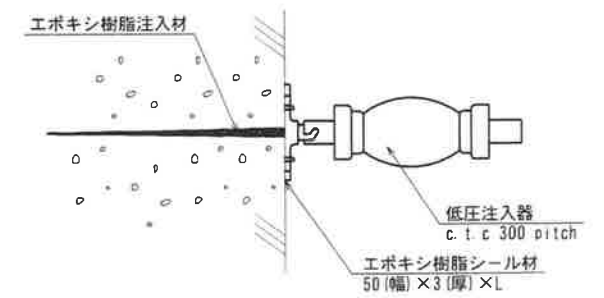
側面図
(G-G)



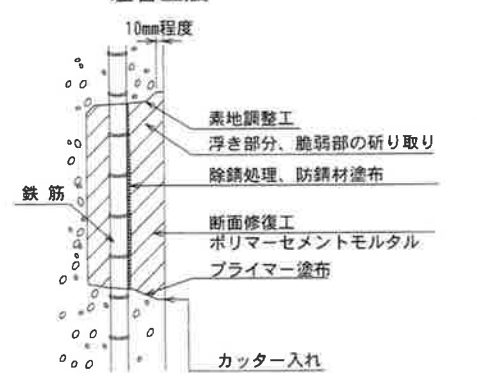
平面図
(H-H)



ひびわれ注入工



断面修復工
左官工法



- 注記)
- ・補修範囲に10mm程度カッターを入れてから施工すること。
 - ・断面修復は、脆弱部をたたき落とした上で実施すること。
 - ・断面修復の際は、鉄筋に防錆処理を施すこと。
 - ・断面修復箇所及び数量は、現地にて確認すること。
 - ・かぶり厚が十分確保できない場合は、補修材を盛ること。

凡例

	0.2mm以上のひびわれ
	剥離
	うき

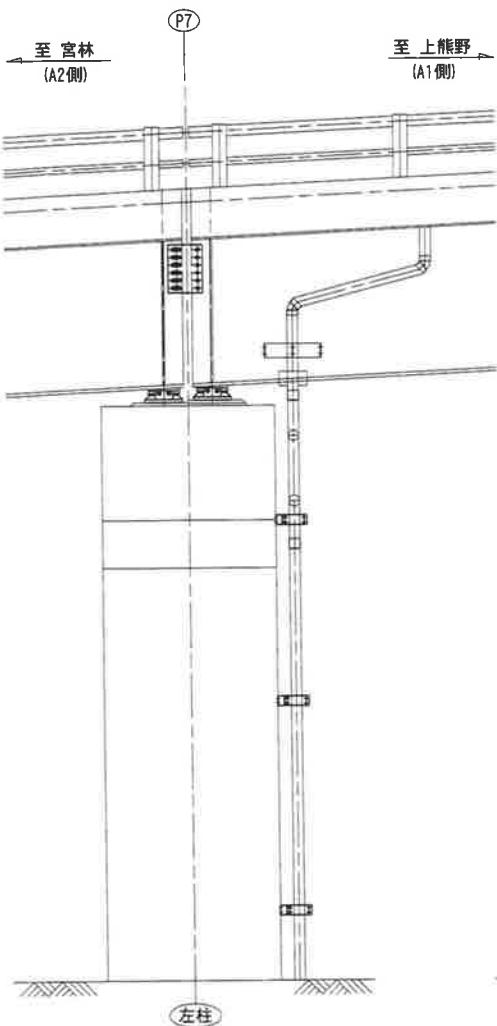
- 注記)
- 1 補修箇所は、必ず現地確認の上で施工を行うこと。
 - 2 施工に際しては、必ず現地にて補修箇所及び数量を確認の上で行うこと。
 - 3 桁下に支障となりうる建物があるため、移設や撤去ができない場合には、可能な範囲で補修を行うものとする。

工事名	
図面名	城平跨線橋 下部工補修工(その10)
作成年月日	平成30年12月 日
縮尺	図示 図面番号 75 /
会社名	株式会社 構造技研新潟
事業者名	湯沢町地域整備部建設課

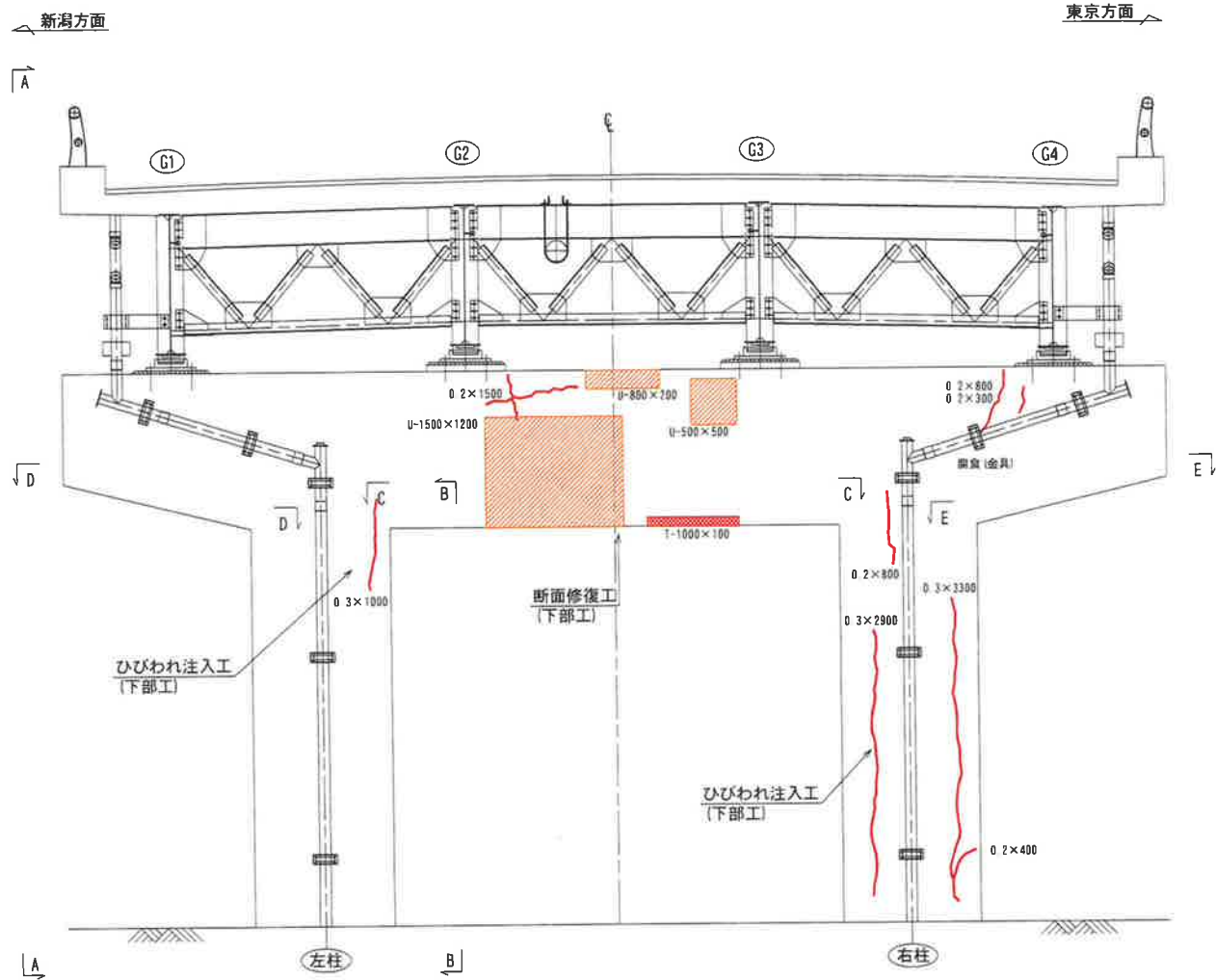
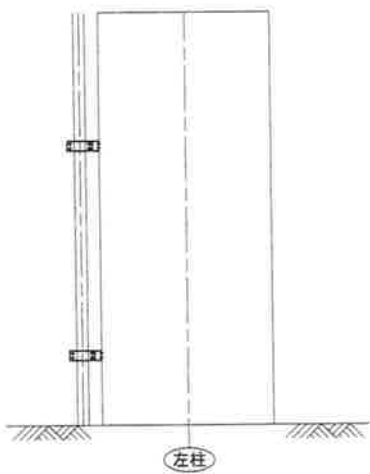
P7橋脚-起点側

正面図

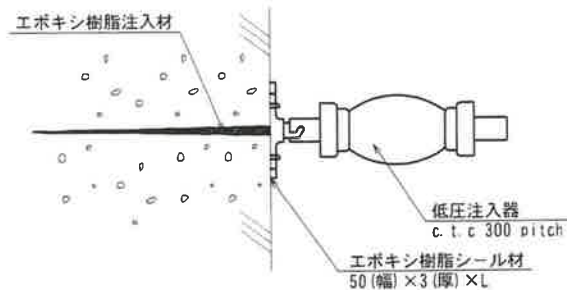
側面図
(A-A)



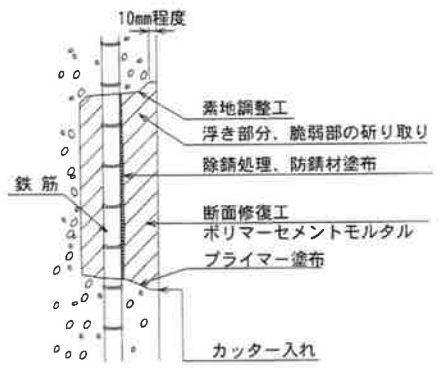
側面図
(B-B)



ひびわれ注入工

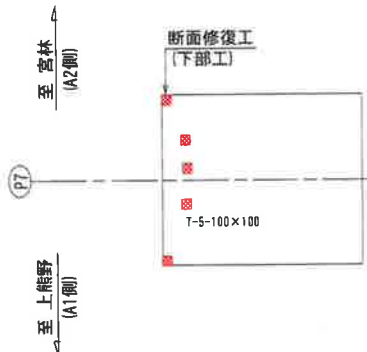


断面修復工
左官工法

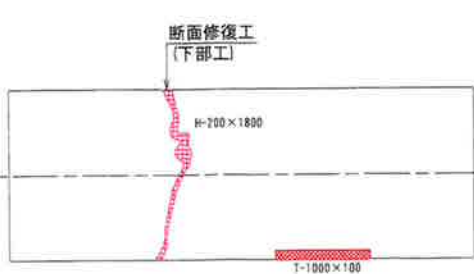


- 注記)
- ・補修範囲に10mm程度カッターを入れてから施工すること。
 - ・断面修復は、脆弱部をたたき落とした上で実施すること。
 - ・断面修復の際は、鉄筋に防錆処理を施すこと。
 - ・断面修復箇所及び数量は、現地にて確認すること。
 - ・かぶり厚が十分確保できない場合は、補修材を盛ること。

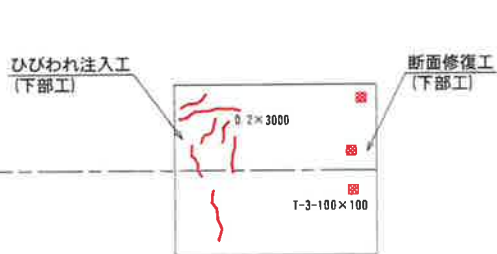
平面図
(D-D)



平面図
(C-C)



平面図
(E-E)



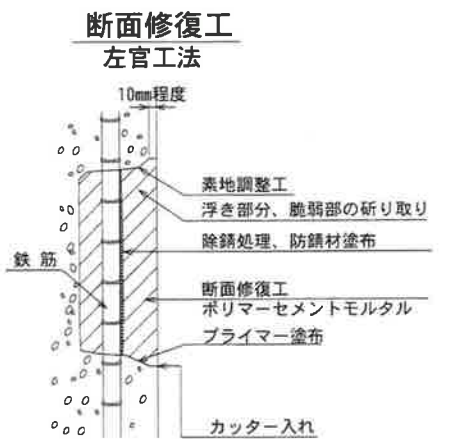
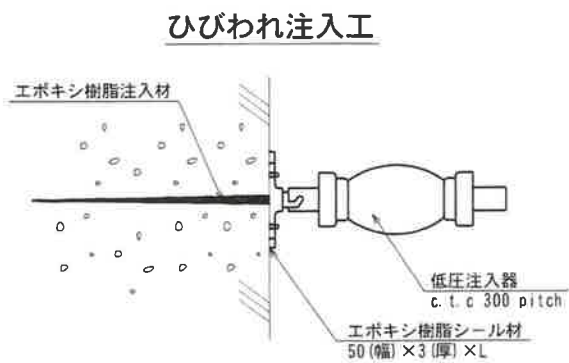
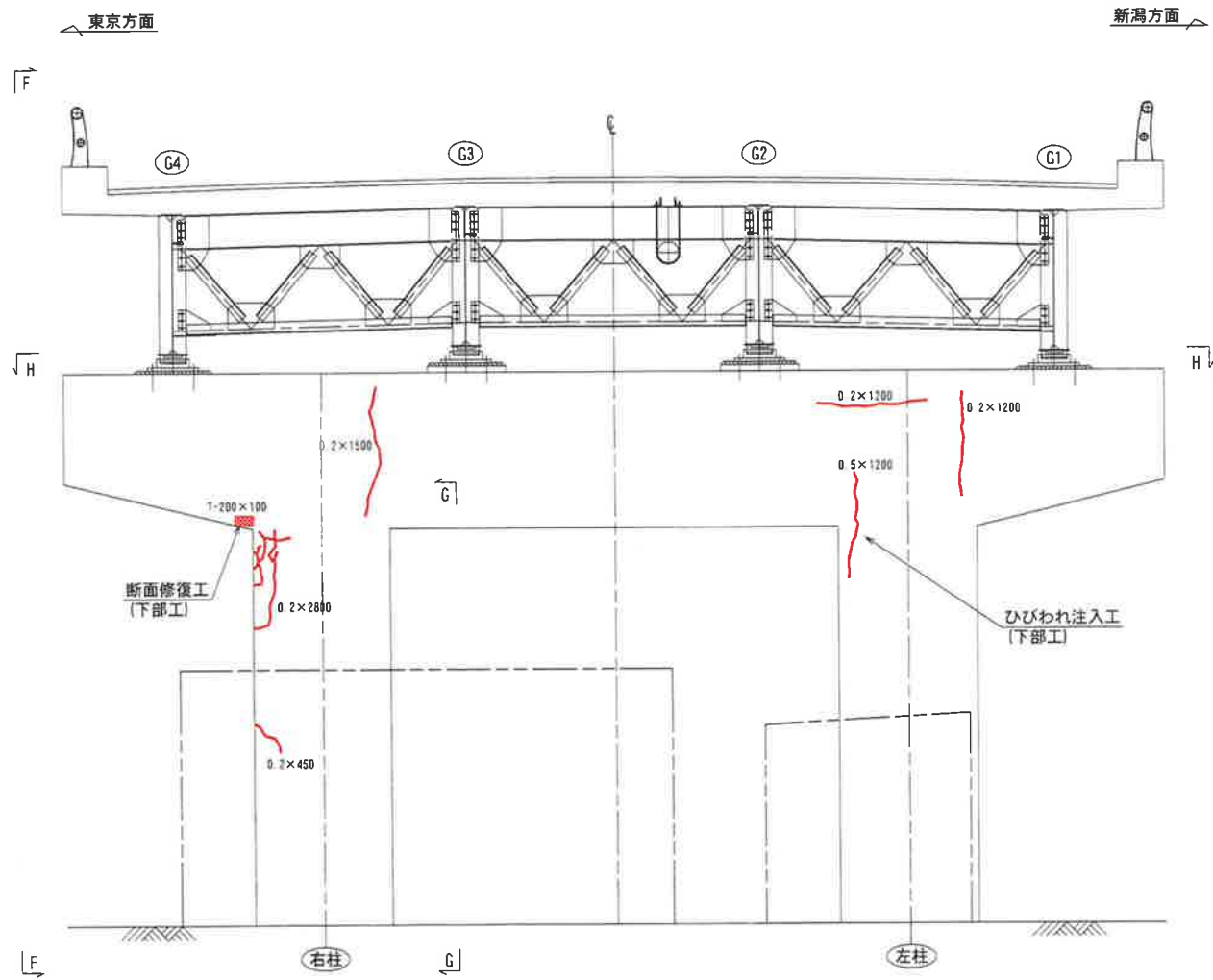
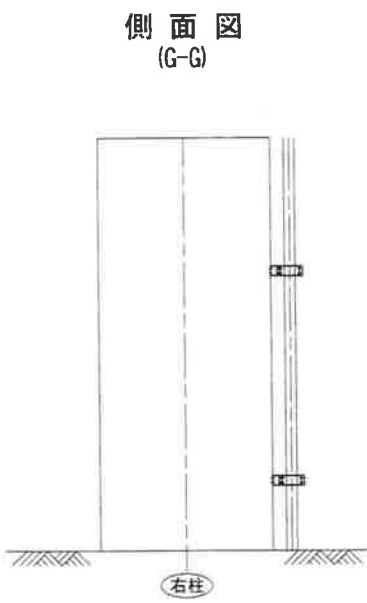
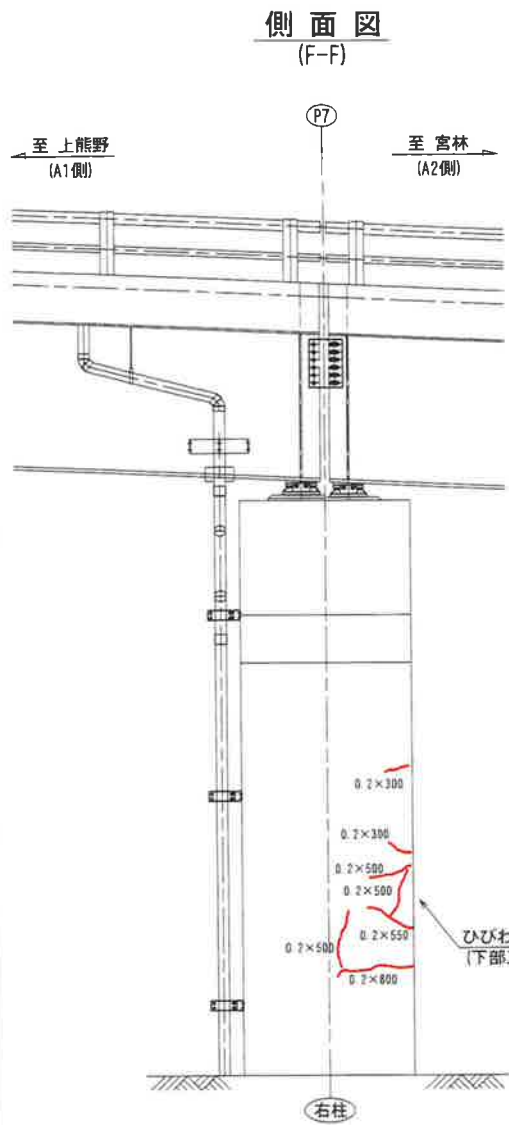
- 注記)
1. 補修箇所は、必ず現地確認の上で施工を行うこと。
 2. 施工に際しては、必ず現地にて補修箇所及び数量を確認の上で行うこと。
 3. 桁下に支障となりうる建物があるため、移設や撤去ができない場合には、可能な範囲で補修を行うものとする。

凡例	
	0.2mm以上のひびわれ
	鉄筋露出
	剥離
	うき

工 事 名	
図 面 名	城平跨線橋 下部工補修工(その11)
作成年月日	平成30年12月 日
縮 尺	図 示
図 面 番 号	76 /
会 社 名	株式会社 構造技研新潟
事業者名	湯沢町地域整備部建設課

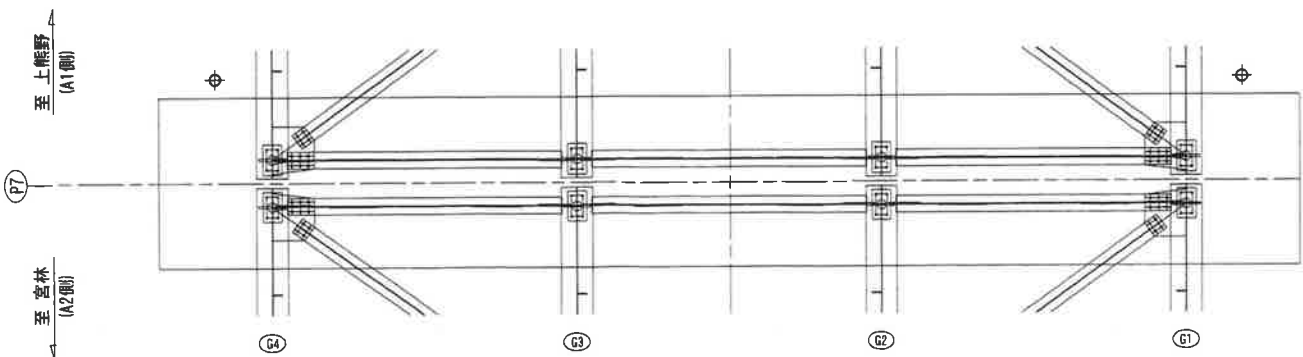
P7橋脚-終点側

正面図



- 注記)
- ・補修範囲に10mm程度カッターを入れてから施工すること。
 - ・断面修復は、脆弱部をたたき落とした上で実施すること。
 - ・断面修復の際は、鉄筋に防錆処理を施すこと。
 - ・断面修復箇所及び数量は、現地にて確認すること。
 - ・かぶり厚が十分確保できない場合は、補修材を盛ること。

平面図 (H-H)



凡例

	0.2mm以上のひびわれ
	鉄筋露出

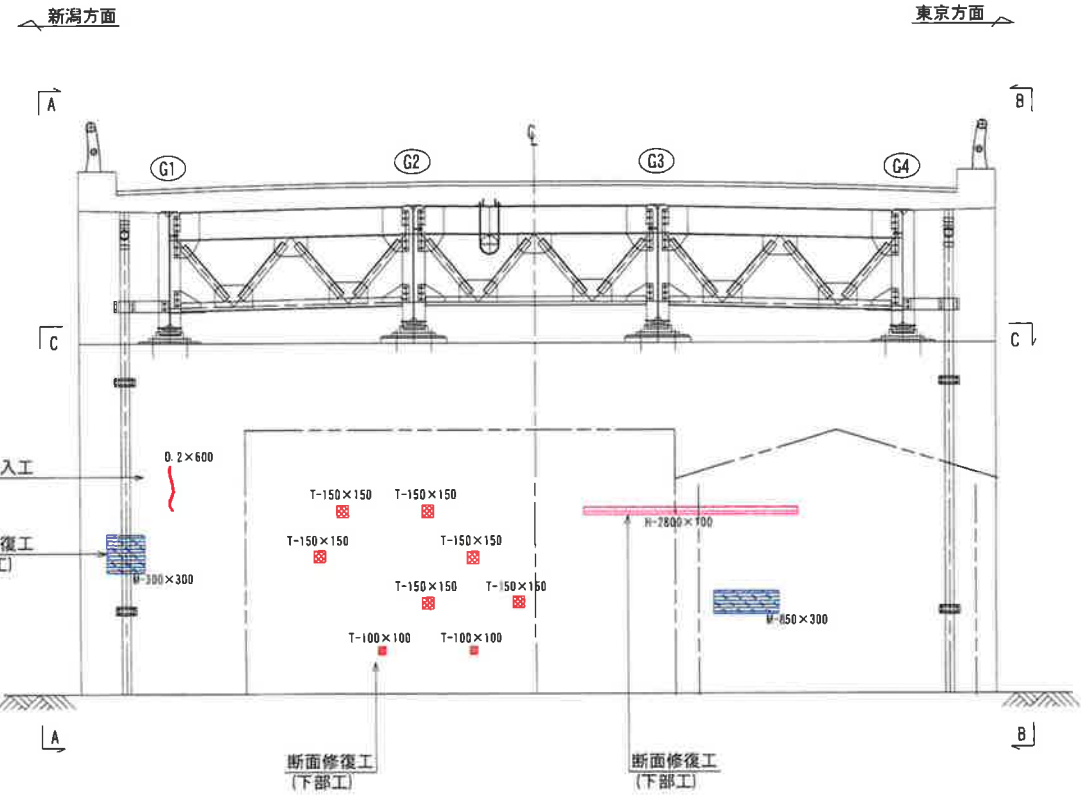
- 注記)
1. 補修箇所は、必ず現地確認の上で施工を行うこと。
 2. 施工に際しては、必ず現地にて補修箇所及び数量を確認の上で行うこと。
 3. 桁下に支障となりうる建物があるため、移設や撤去ができない場合には、可能な範囲で補修を行うものとする。

工事名	城平跨線橋 下部工補修工(その12)		
図面名	城平跨線橋 下部工補修工(その12)		
作成年月日	平成30年12月 日		
縮尺	図示	図面番号	77 /
会社名	株式会社 構造技研新潟		
事業者名	湯沢町地域整備部建設課		

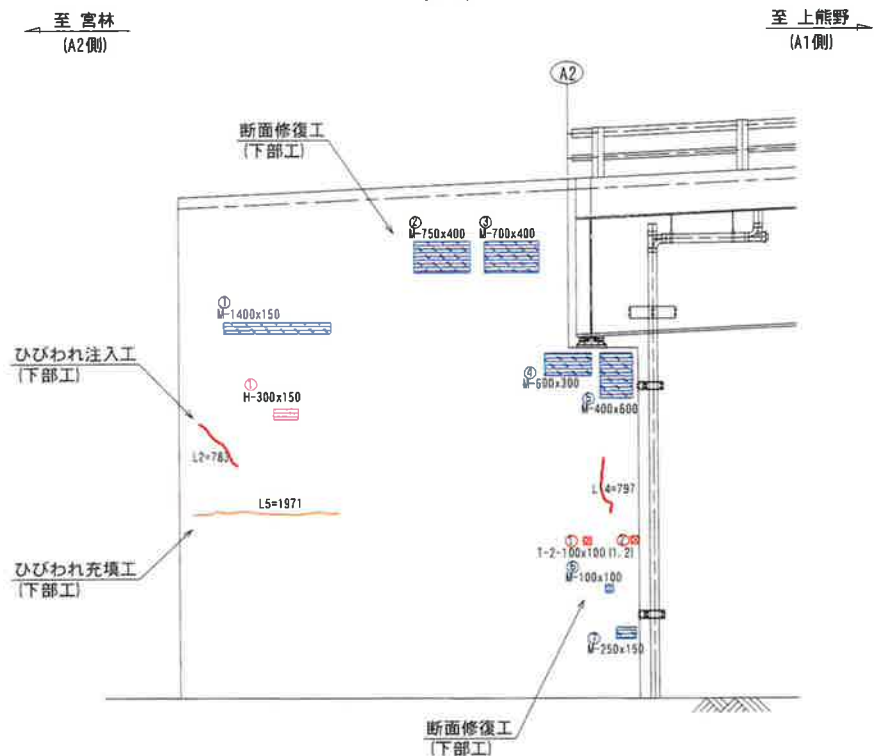
城平跨線橋 下部工補修工(その13) S=1/50

A2橋台

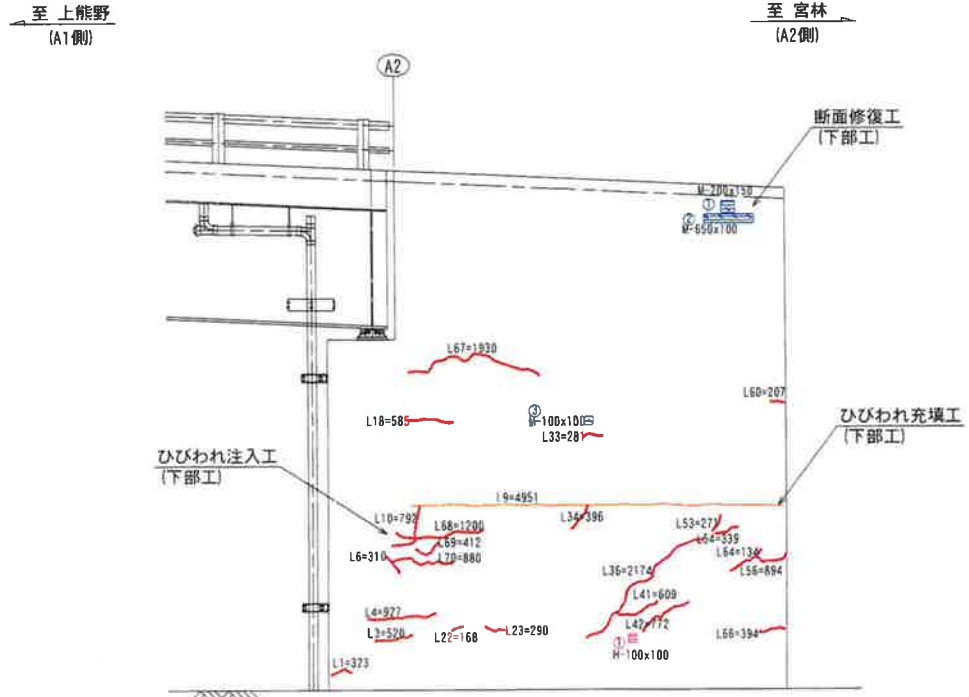
正面図



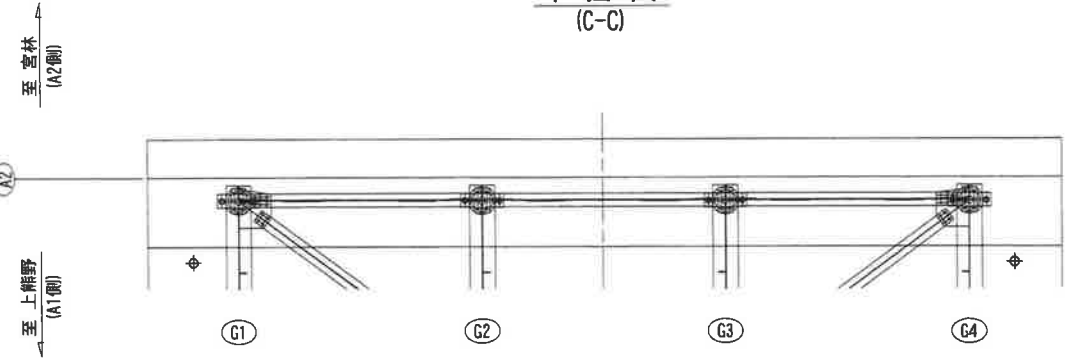
側面図 (A-A)



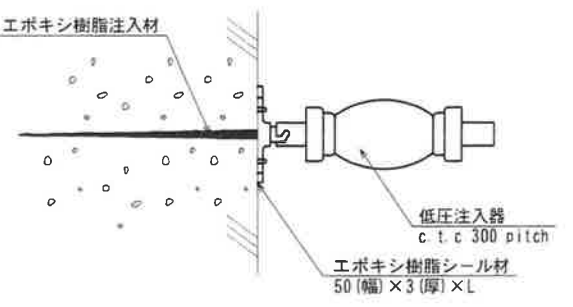
側面図 (B-B)



平面図 (C-C)

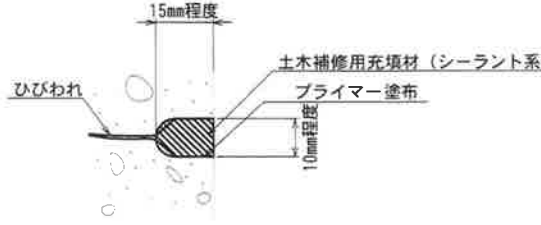


ひびわれ注入工



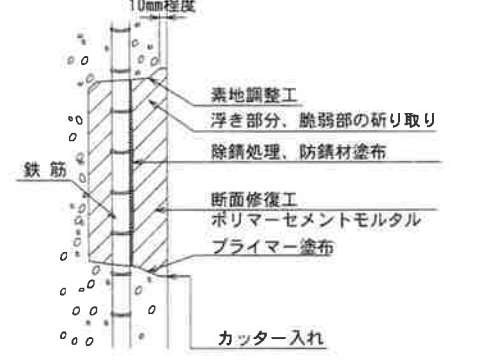
ひびわれ充填工

Uカット充填工法



断面修復工

左官工法



- 注記)
- ・補修範囲に10mm程度カッターを入れてから施工すること。
 - ・断面修復は、脆弱部をたたき落とした上で実施すること。
 - ・断面修復の際は、鉄筋に防錆処理を施すこと。
 - ・断面修復箇所及び数量は、現地にて確認すること。
 - ・かぶり厚が十分確保できない場合は、補修材を盛ること。

凡例

	0.2mm以上のひびわれ
	打継ぎ
	鉄筋露出
	剥離
	豆板

注記)

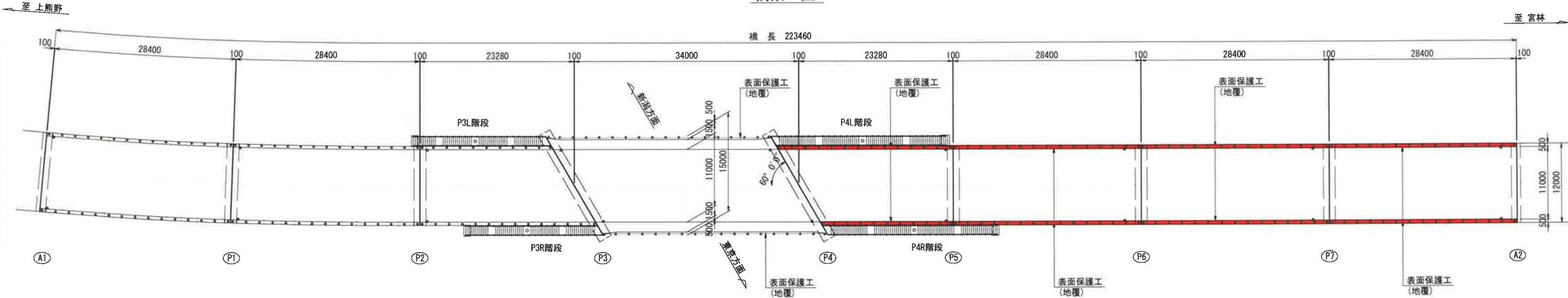
1. 補修箇所は、必ず現地確認の上で施工を行うこと。
2. 施工に際しては、必ず現地に補修箇所及び数量を確認の上で行うこと。
3. 桁下に支障となりうる建物があるため、移設や撤去ができない場合には、可能な範囲で補修を行うものとする。

工事名	城平跨線橋 下部工補修工(その13)
図面名	城平跨線橋 下部工補修工(その13)
作成年月日	平成30年12月 日
縮尺	図示 図面番号 78 /
会社名	株式会社 構造技研新潟
事業者名	湯沢町地域整備部建設課

城平跨線橋 地覆部表面保護工

平面図 S=1/300

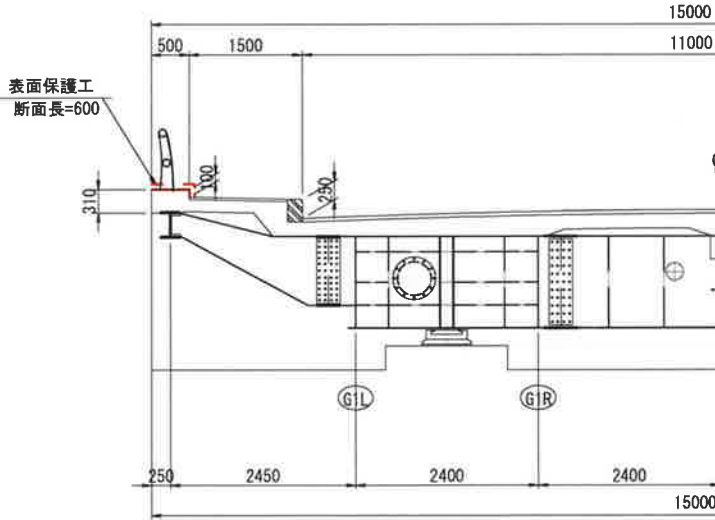
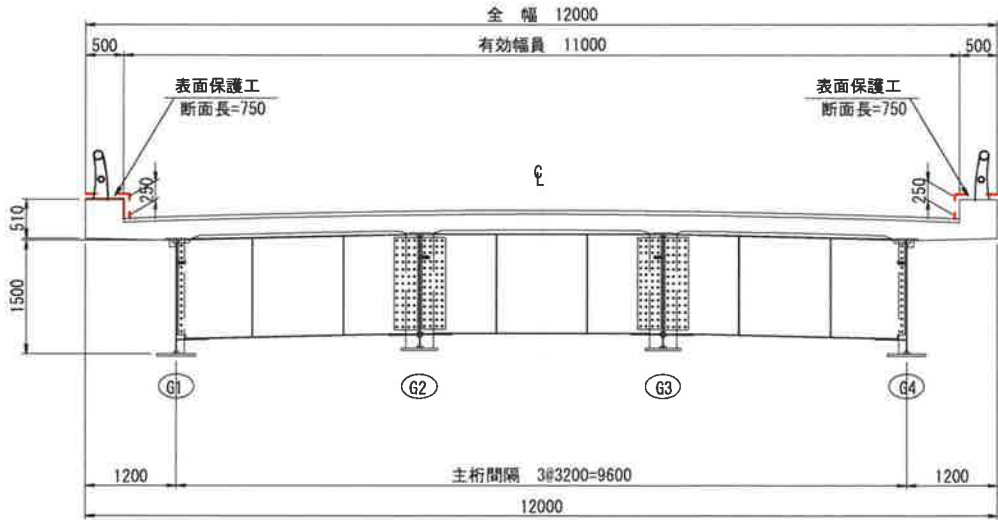
橋梁上面



断面図 S=1/50

A1-P3, P4-A2

P3-P4



表面保護工 施工面積

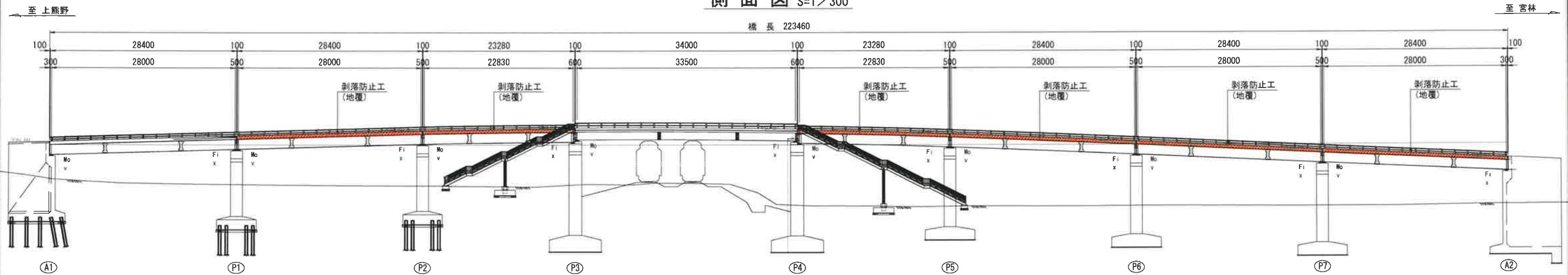
区間	断面長 (m)	施工延長 (m)	員数	施工面積 (m ²)
A1-P1	0.750	28.400	2	42.60
P1-P2	0.750	28.400	2	42.60
P2-P3	0.750	23.280	2	34.92
P3-P4	0.600	34.000	2	40.80
P4-P5	0.750	23.280	2	34.92
P5-P6	0.750	28.400	2	42.60
P6-P7	0.750	28.400	2	42.60
P7-A2	0.750	28.400	2	42.60
合計施工面積				162.72

- 注記)
- 補修箇所は、必ず現地確認の上で施工を行うこと。
 - 施工に際しては、必ず現地にて補修箇所及び数量を確認の上で行うこと。

工事名	城平跨線橋 地覆部表面保護工		
図面名	城平跨線橋 地覆部表面保護工		
作成年月日	平成30年12月 日		
縮尺	図示	図面番号	42 / 85
会社名	株式会社 構造技研新潟		
事業者名	湯沢町地域整備部建設課		

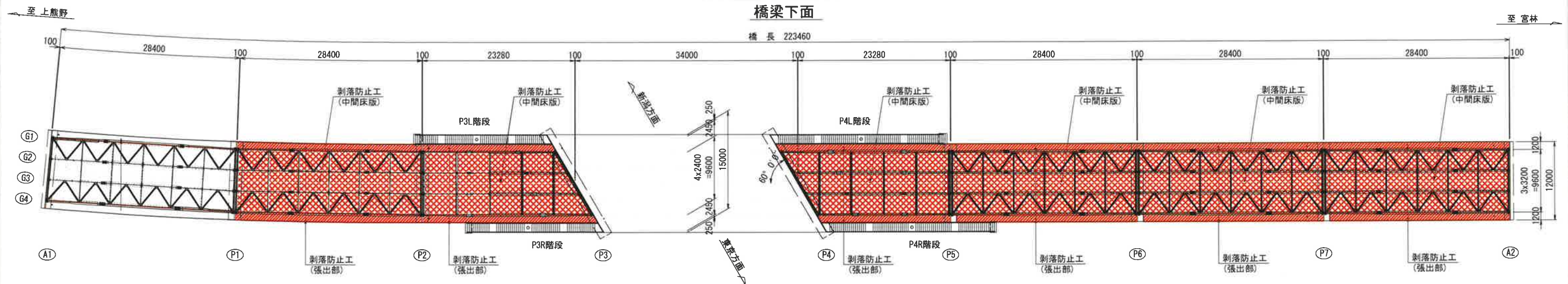
城平跨線橋 上部工剥落防止工(その1)

側面図 S=1/300



平面図 S=1/300

橋梁下面



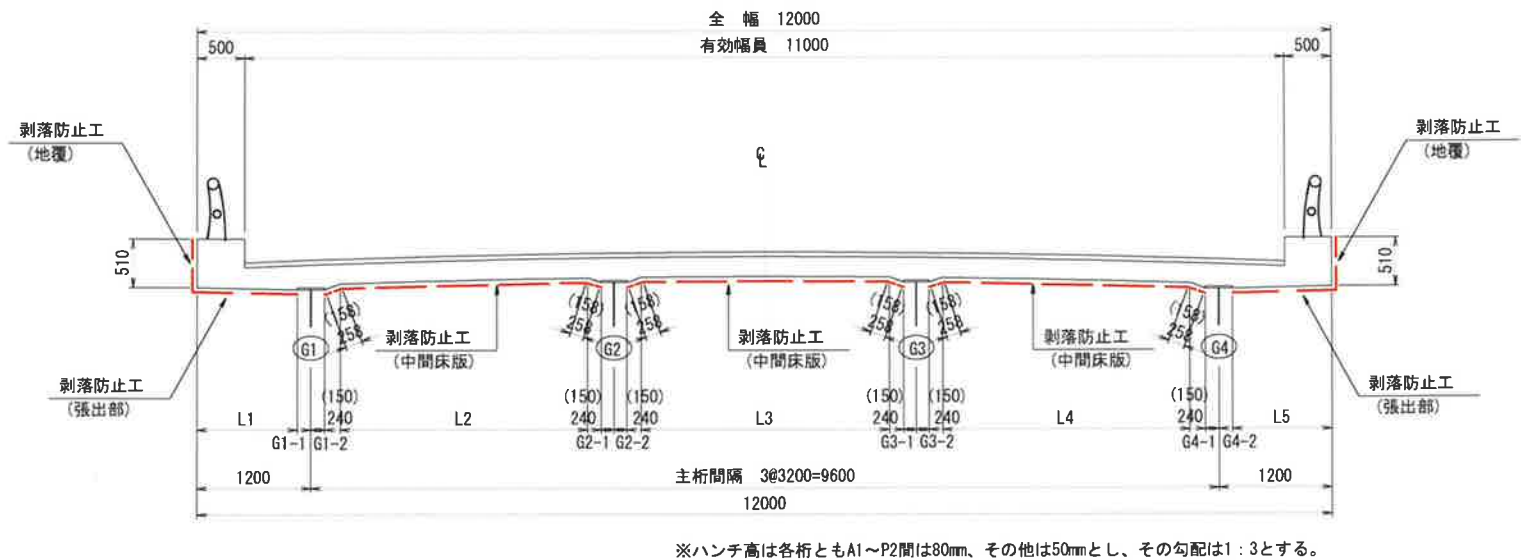
注記)

1. 補修箇所は、必ず現地確認の上で施工を行うこと。
2. 施工に際しては、必ず現地に補修箇所及び数量を確認の上で行うこと。
3. 桁下に支障となりうる建物があるため、移設や撤去ができない場合には、可能な範囲で補修を行うものとする。

工事名	
図面名	城平跨線橋 上部工剥落防止工(その1)
作成年月日	平成30年12月 日
縮尺	図示 図面番号 43 / 85
会社名	株式会社 構造技研新潟
事業者名	湯沢町地域整備部建設課

城平跨線橋 上部工剥落防止工(その2)

断面図 S=1/40



寸法表

径 間	(mm)							
	G1-1	G1-2	G2-1	G2-2	G3-1	G3-2	G4-1	G4-2
A1-P1	135	135	140	140	140	140	155	155
P1-P2	140	140	140	140	140	140	155	155
P2-P3	115	115	125	125	130	130	145	145
P4-P5	145	145	130	130	125	125	115	115
P5-P6	145	145	135	135	135	135	145	145
P6-P7	145	145	135	135	135	135	145	145
P7-A2	145	145	135	135	135	135	145	145

※G1-1～G4-2は、各主桁上フランジ最大幅の1/2を示す。

寸法表

径 間	(mm)				
	L1	L2	L3	L4	L5
A1-P1	1065	2445	2440	2425	1045
P1-P2	1060	2440	2440	2425	1045
P2-P3	1085	2660	2645	2625	1055
P4-P5	1055	2625	2645	2660	1085
P5-P6	1055	2620	2630	2620	1055
P6-P7	1055	2620	2630	2620	1055
P7-A2	1055	2620	2630	2620	1055

剥落防止工 施工面積

＜地覆＞					
径 間	断面長 (m)	施工延長 (m)	員 数	施工面積 (m2)	備 考
A1-P1	0.510	28.400	2	28.97	
P1-P2	0.510	28.400	2	28.97	
P2-P3	0.510	23.280	2	23.75	
P4-P5	0.510	23.280	2	23.75	
P5-P6	0.510	28.400	2	28.97	
P6-P7	0.510	28.400	2	28.97	
P7-A2	0.510	28.400	2	28.97	
合計				163.38	

＜中間床版＞

径 間	断面長 (m)					施工延長 (m)	施工面積 (m2)	備 考
	L2	L3	L4	ハンチ	計			
A1-P1	2.445	2.440	2.425	1.518	8.828	28.400	250.72	
P1-P2	2.440	2.440	2.425	1.518	8.823	28.400	250.57	
P2-P3	2.660	2.645	2.625	0.948	8.878	23.280	206.68	
P4-P5	2.625	2.645	2.660	0.948	8.878	23.280	206.68	
P5-P6	2.620	2.630	2.620	0.948	8.818	28.400	250.43	
P6-P7	2.620	2.630	2.620	0.948	8.818	28.400	250.43	
P7-A2	2.620	2.630	2.620	0.948	8.818	28.400	250.43	
合計							1415.22	

＜張出部＞

径 間	断面長 (m)			施工延長 (m)	施工面積 (m2)	備 考
	L1	L5	計			
A1-P1	1.065	1.045	2.110	28.400	59.92	
P1-P2	1.060	1.045	2.105	28.400	59.78	
P2-P3	1.085	1.055	2.140	23.280	49.82	
P4-P5	1.055	1.085	2.140	23.280	49.82	
P5-P6	1.055	1.055	2.110	28.400	59.92	
P6-P7	1.055	1.055	2.110	28.400	59.92	
P7-A2	1.055	1.055	2.110	28.400	59.92	
合計					339.18	

注記)

- 補修箇所は、必ず現地確認の上で施工を行うこと。
- 施工に際しては、必ず現地にて補修箇所及び数量を確認の上で行うこと。
- 桁下に支障となりうる建物があるため、移設や撤去ができない場合には、可能な範囲で補修を行うものとする。

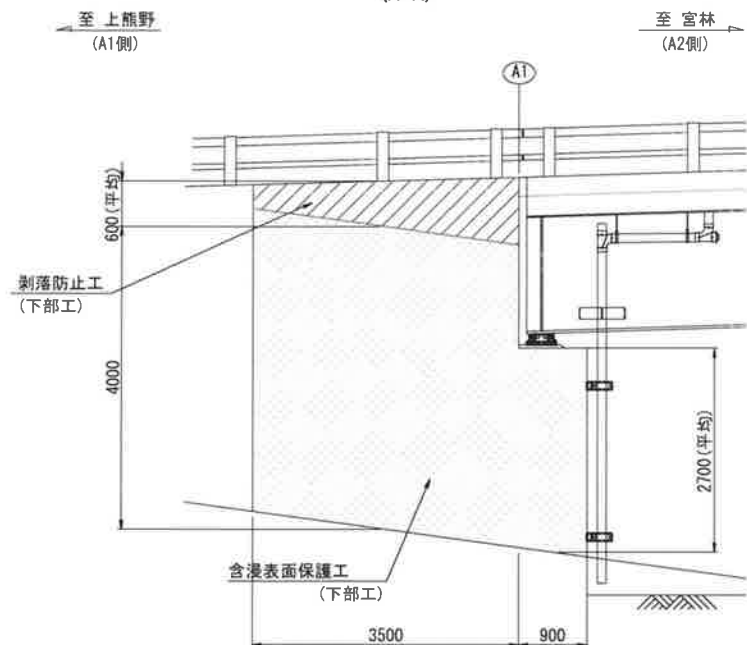
工 事 名			
図 面 名	城平跨線橋 上部工剥落防止工(その2)		
作成年月日	平成30年12月 日		
縮 尺	図 示	図面番号	44 / 85
会 社 名	株式会社 構造技研新潟		
事業者名	湯沢町地域整備部建設課		

城平跨線橋 下部工表面保護工・剥落防止工(その1) S=1/50

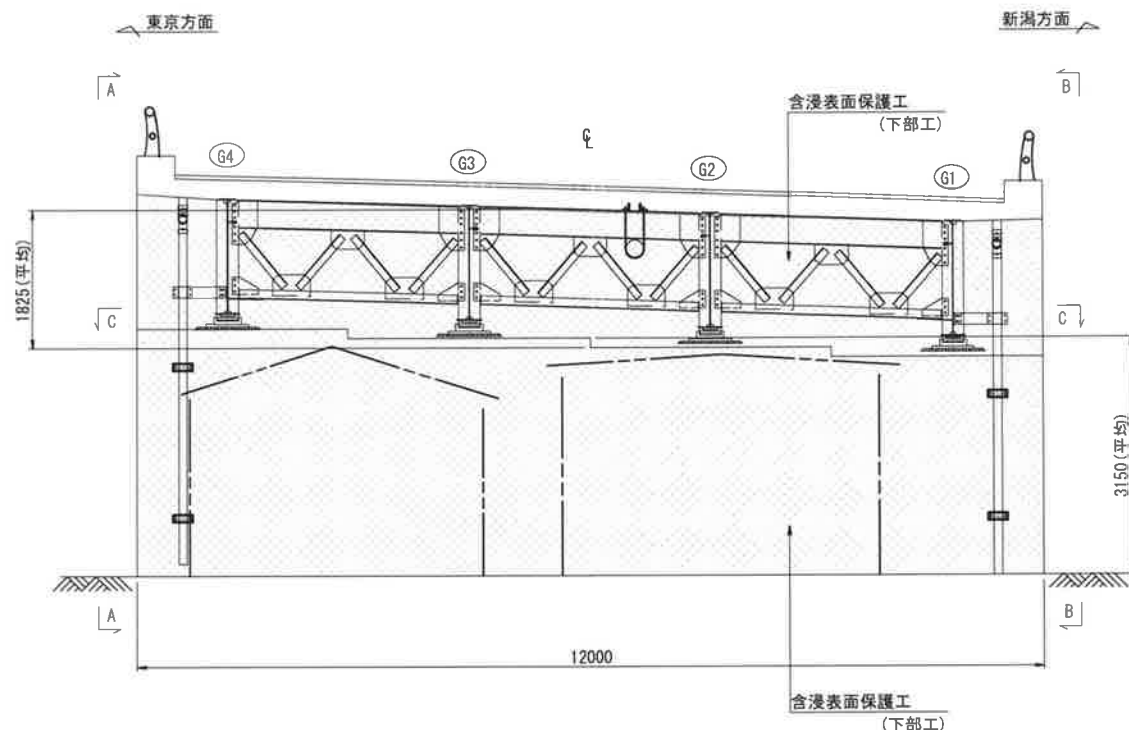
下部工 S=1/50

A1橋台

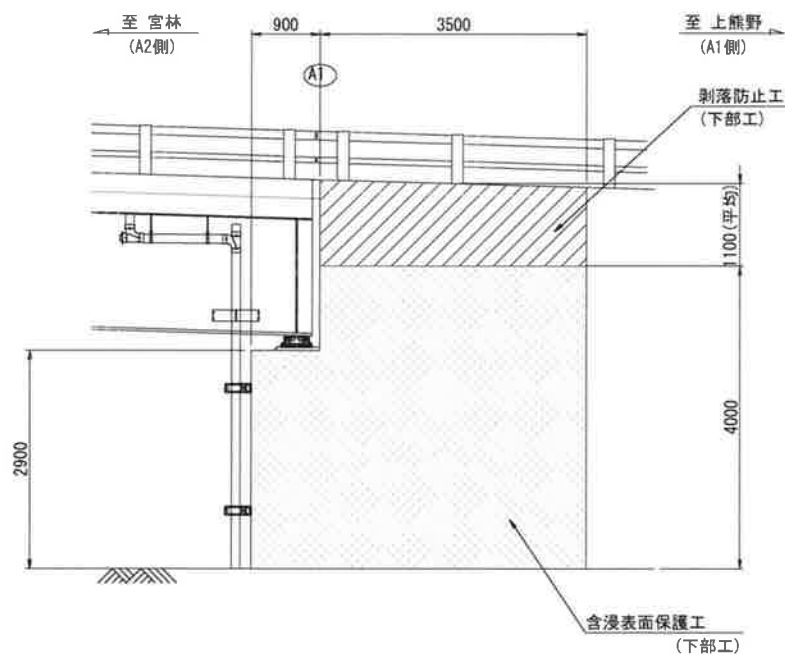
側面図
(A-A)



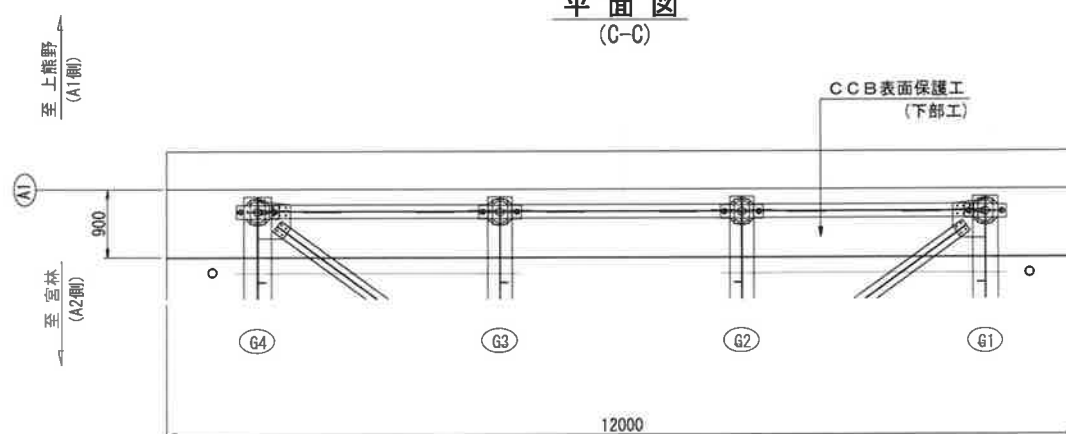
正面図



側面図
(B-B)



平面図
(C-C)



含浸表面保護工 施工面積

<A1>

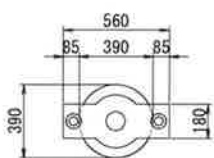
箇所	幅(m)	高さ・長さ(m)	員数	施工面積(m2)
縦壁正面	12.000	3.150 (平均)	1	37.80
側面(東京側)	3.500	4.000	1	14.00
側面(東京側)	0.900	2.700 (平均)	1	2.43
側面(新潟側)	3.500	4.000	1	14.00
側面(新潟側)	0.900	2.900	1	2.61
胸壁	12.000	1.825 (平均)	1	21.90
合計施工面積				92.74

剥落防止工 施工面積

<A1>

箇所	幅(m)	高さ・長さ(m)	員数	施工面積(m2)
側面(東京側)	3.500	0.600 (平均)	1	2.10
側面(新潟側)	3.500	1.100 (平均)	1	3.85
合計施工面積				5.95

支承平面積



1基当り平面積
 $0.390^2 \pi / 4 + 0.180 \times 0.085 \times 2 = 0.150\text{m}^2$

CCB表面保護工 施工面積

<A1>

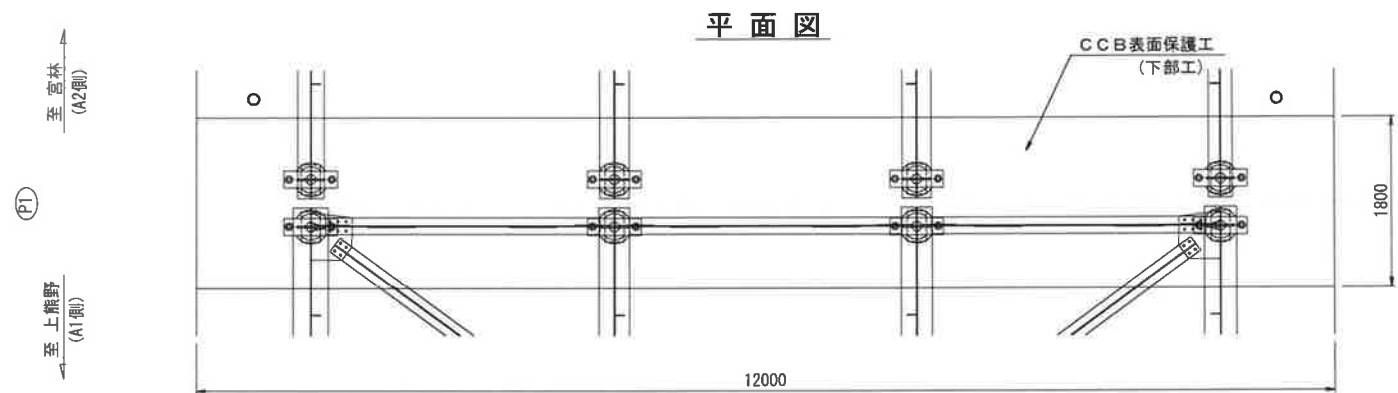
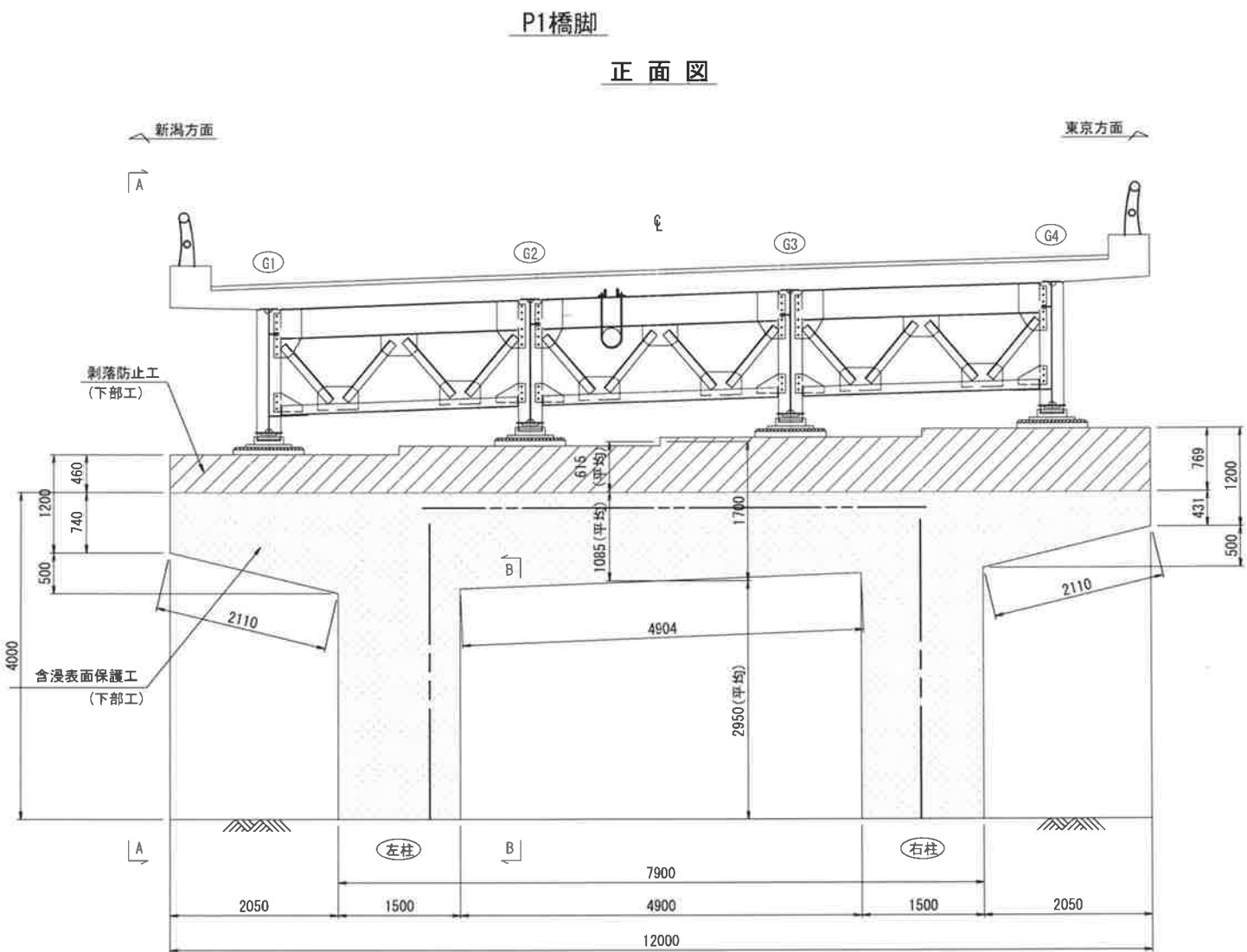
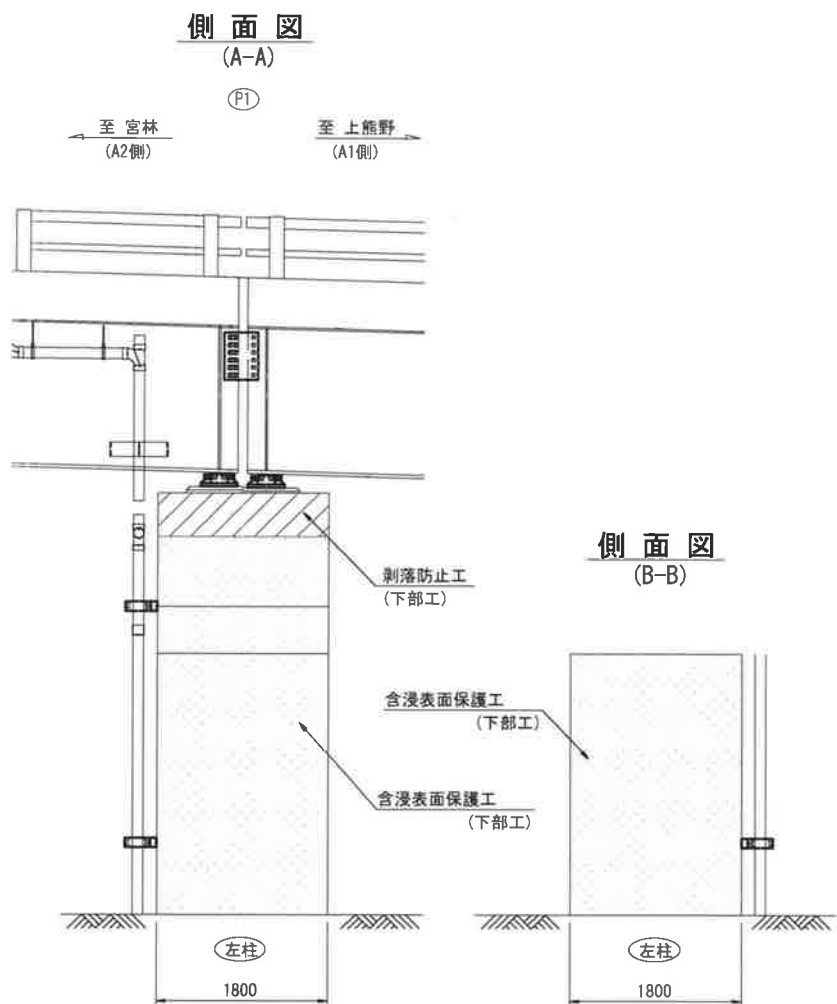
箇 所	幅 (m)	高さ・長さ (m)	員 数	施工面積 (m2)
胸壁前面	12.000	0.100	1	1.20
橋座平面	0.900	12.000	1	10.80
壁壁正面	12.000	0.100	1	1.20
側面	0.900	0.100	2	0.18
控除(支承部)	-0.150m2		4	-0.60
			合計施工面積	12.78

注記

- 補修箇所は、必ず現地確認の上で施工を行うこと。
- 施工に際しては、必ず現地にて補修箇所及び数量を確認の上で行うこと。
- 桁下に支障となりうる建物があるため、移設や撤去ができない場合には、可能な範囲で補修を行うものとする。

工事名			
図面名	城平跨線橋 下部工表面保護工・剥落防止工(その1)		
作成年月日	平成30年12月 日		
縮尺	図示	図面番号	79 / 85
会社名	株式会社 構造技研新潟		
事業者名	湯沢町地域整備部建設課		

城平跨線橋 下部工表面保護工・剥落防止工(その2) S=1/40



含浸表面保護工 施工面積

<P1>

箇所	幅(m)	高さ・長さ(m)	員数	施工面積(m2)
梁正面	1.085 (平均)	12.000	2	26.04
控除		-2.050 × 0.500 ÷ 2 × 4		-2.05
梁側面	0.740+0.431	1.800	1	2.11
梁下面	1.800	2.110	2	7.60
梁下面	1.800	4.904	1	8.83
柱正面	1.500	2.950 (平均)	4	17.70
柱側面	1.800	2.950 (平均)	4	21.24
合計施工面積				81.47

CCB表面保護工 施工面積

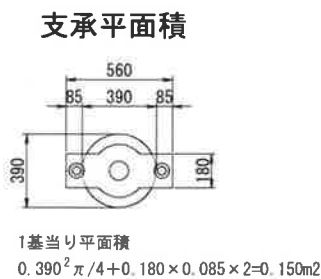
<P1>

箇所	幅(m)	高さ・長さ(m)	員数	施工面積(m2)
梁上面	1.800	12.000	1	21.60
梁正面	12.000	0.100	2	2.40
梁側面	1.800	0.100	2	0.36
控除(支承部)		-0.150m2	4	-0.60
合計施工面積				23.76

剥落防止工 施工面積

<P1>

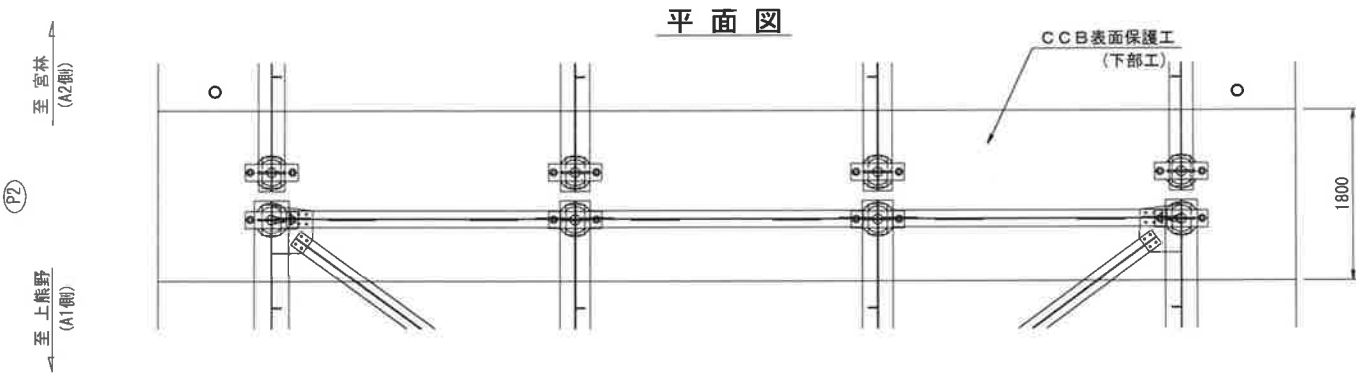
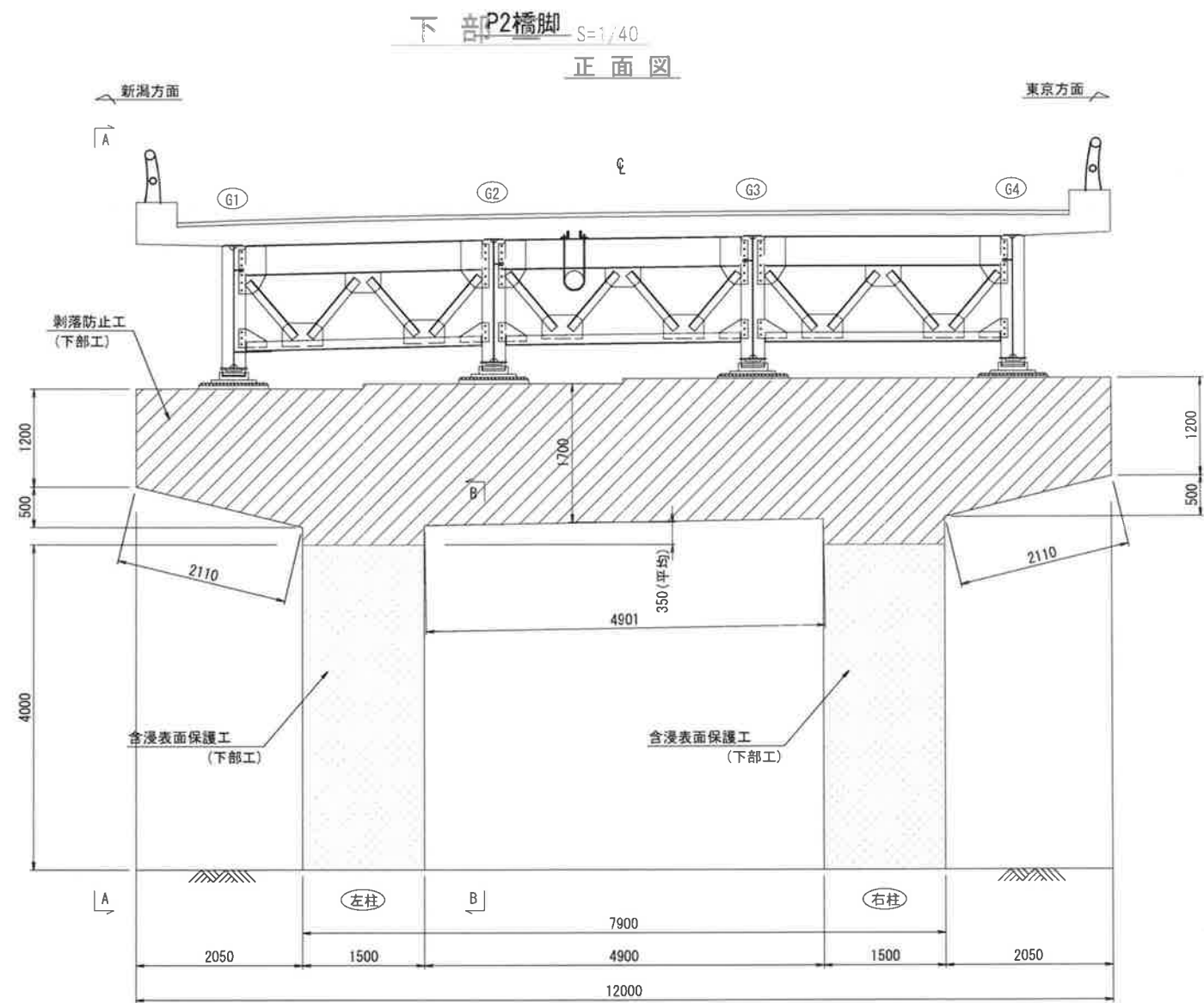
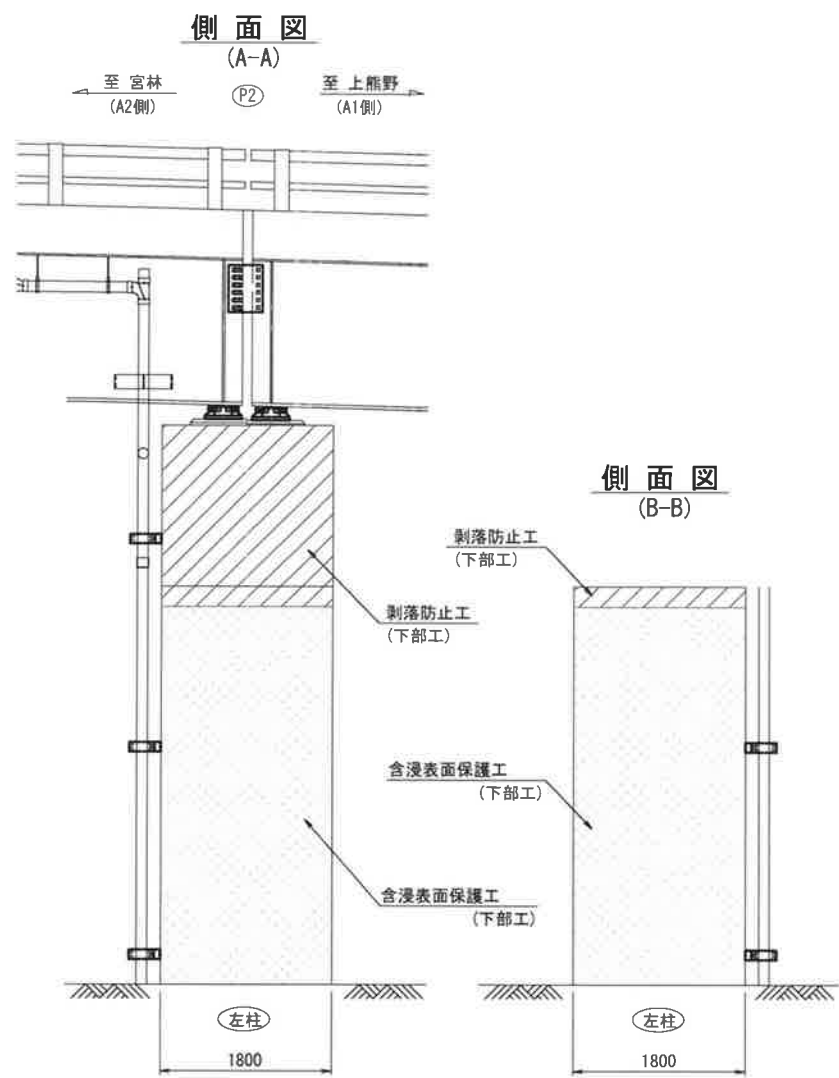
箇所	幅(m)	高さ・長さ(m)	員数	施工面積(m2)
梁正面	0.615 (平均)	12.000	2	14.76
梁側面	0.460+0.769	1.800	1	2.21
合計施工面積				16.97



- 注記)
- 補修箇所は、必ず現地確認の上で施工を行うこと。
 - 施工に際しては、必ず現地にて補修箇所及び数量を確認の上で行うこと。
 - 桁下に支障となりうる建物があるため、移設や撤去ができない場合には、可能な範囲で補修を行うものとする。

工事名			
図面名	城平跨線橋 下部工表面保護工・剥落防止工(その2)		
作成年月日	平成30年12月 日		
縮尺	図示	図面番号	80 / 85
会社名	株式会社 構造技研新潟		
事業者名	湯沢町地域整備部建設課		

城平跨線橋 下部工表面保護工・剥落防止工(その3) S=1/40



含浸表面保護工 施工面積

<P2>

箇所	幅(m)	高さ・長さ(m)	員数	施工面積(m2)
柱正面	1.500	4.000	4	24.00
柱側面	1.800	4.000	4	28.80
合計施工面積				52.80

CCB表面保護工 施工面積

<P2>

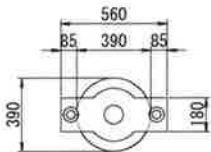
箇 所	幅 (m)	高さ・長さ (m)	員 数	施工面積 (m2)
梁上面	1. 800	12. 000	1	21. 60
梁正面	12. 000	0. 100	2	2. 40
梁側面	1. 800	0. 100	2	0. 36
控除 (支承部)	-0. 150m2		4	-0. 60
合計施工面積				23. 76

剥落防止工 施工面積

<P2>

箇所	幅(m)	高さ・長さ(m)	員数	施工面積(m2)
梁正面	1.700	12.000	2	40.80
控除	$-2.050 \times 0.500 \div 2 \times 4$			-2.05
梁側面	1.800	1.200	2	4.32
梁下面	1.800	2.110	2	7.60
梁下面	1.800	4.901	1	8.82
柱正面	1.500	0.350 (平均)	4	2.10
柱側面	1.800	0.350 (平均)	4	2.52
合計施工面積				64.11

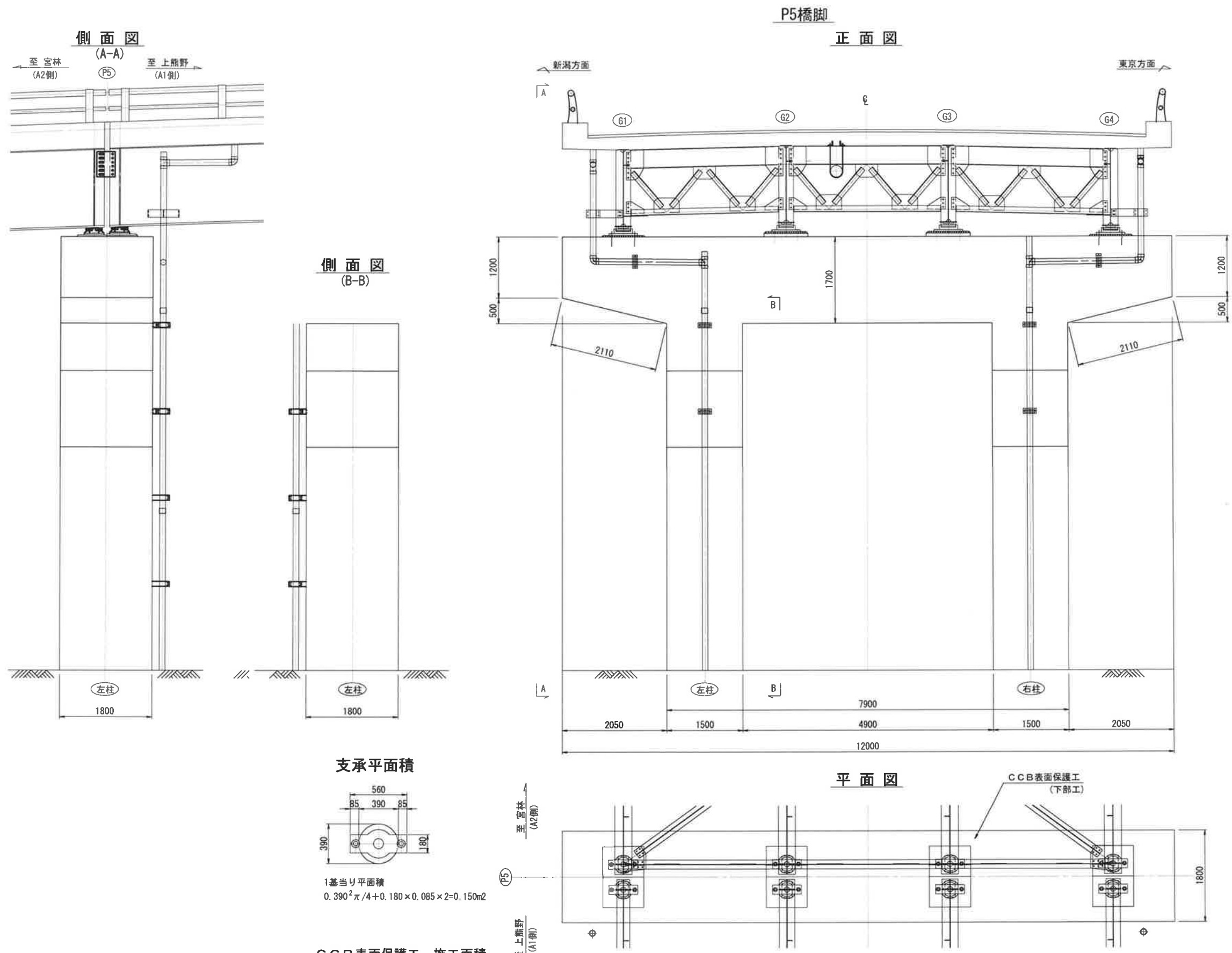
支承平面積



1基当り平面積
 $0.390^2 \pi / 4 + 0.180 \times 0.085 \times 2 = 0.150\text{m}^2$

- 注記)
- 補修箇所は、必ず現地確認の上で施工を行うこと。
 - 施工に際しては、必ず現地にて補修箇所及び数量を確認の上で行うこと。
 - 桁下に支障となりうる建物があるため、移設や撤去ができない場合には、可能な範囲で補修を行うものとする。

工事名			
図面名	城平跨線橋 下部工表面保護工・剥落防止工(その3)		
作成年月日	平成30年12月 日		
縮尺	図示	図面番号	81 / 85
会社名	株式会社 構造技研新潟		
事業者名	湯沢町地域整備部建設課		



支保平面積

1基当り平面積
 $0.390^2 \pi / 4 + 0.180 \times 0.085 \times 2 = 0.150\text{m}^2$

CCB表面保護工 施工面積
<P5>

箇所	幅(m)	高さ・長さ(m)	員数	施工面積(m2)
梁上面	1.800	12.000	1	21.60
梁正面	12.000	0.100	2	2.40
梁側面	1.800	0.100	2	0.36
控除(支保部)		-0.150m2	4	-0.60
合計施工面積				23.76

注記)

1. 補修箇所は、必ず現地確認の上で施工を行うこと。

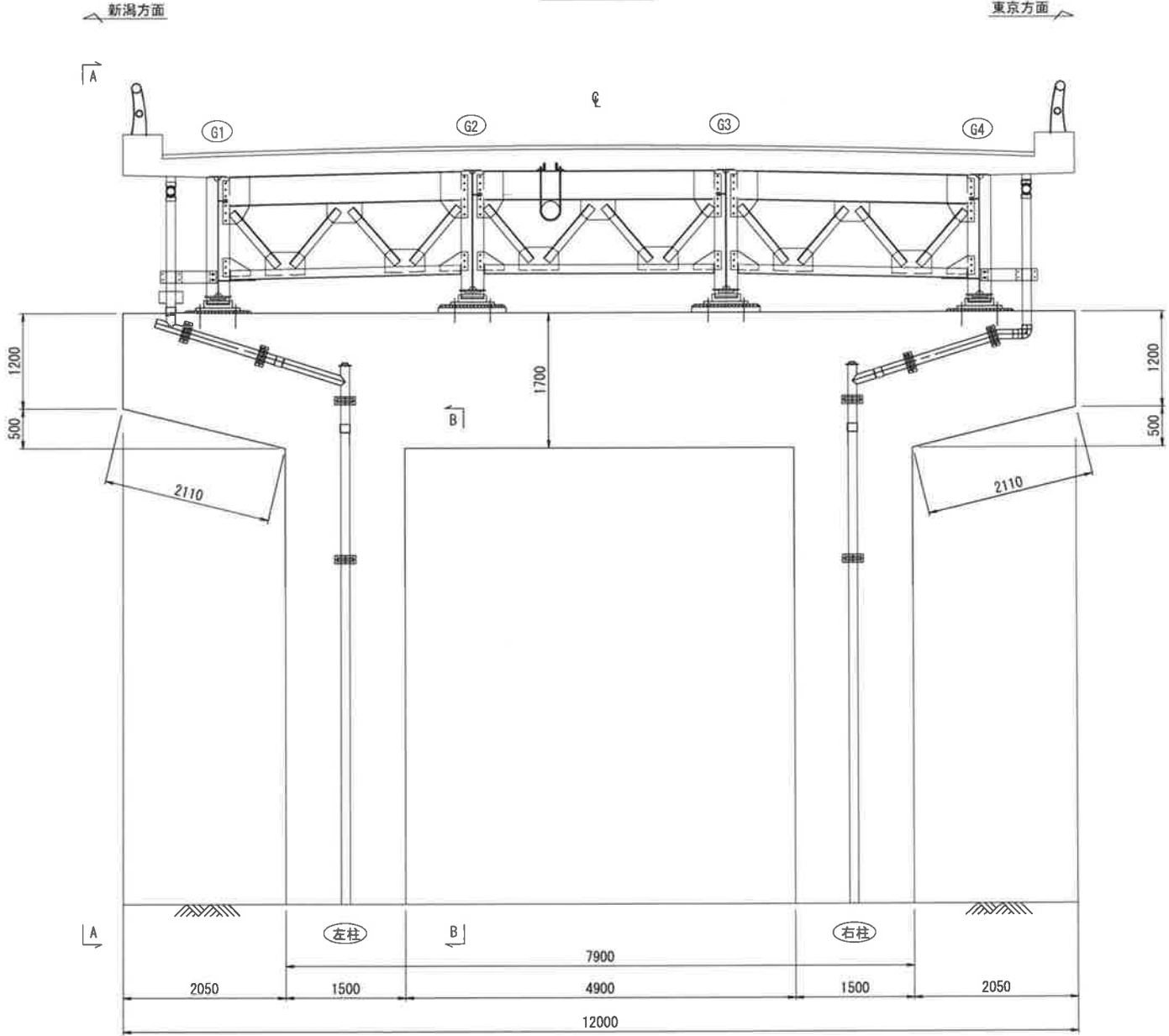
2. 施工に際しては、必ず現地にて補修箇所及び数量を確認の上で行うこと。

3. 桁下に支障となりうる建物があるため、移設や撤去ができない場合には、可能な範囲で補修を行うものとする。

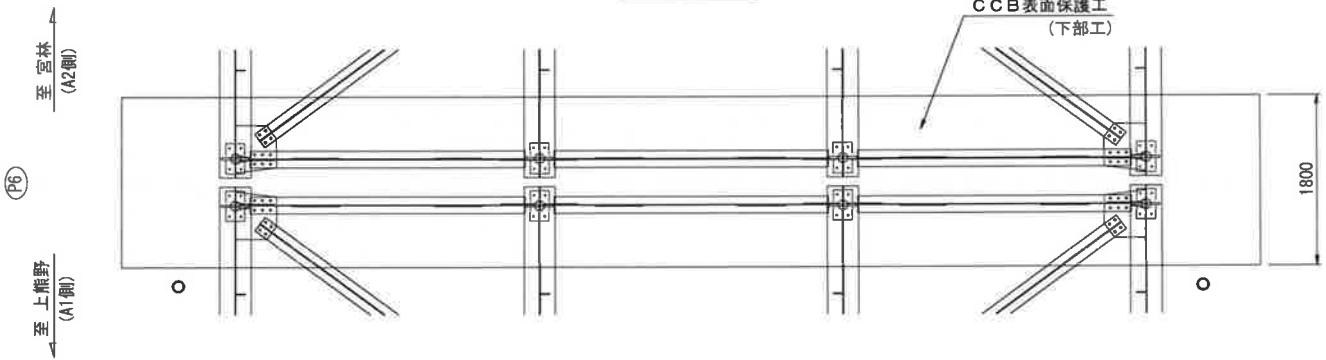
工事名	城平跨線橋 下部工表面保護工・剥落防止工(その4)		
図面名	平成30年12月 日		
作成年月日	図示	図面番号	82 / 85
縮尺			
会社名			
事業者名	湯沢町地域整備部建設課		

P6橋脚

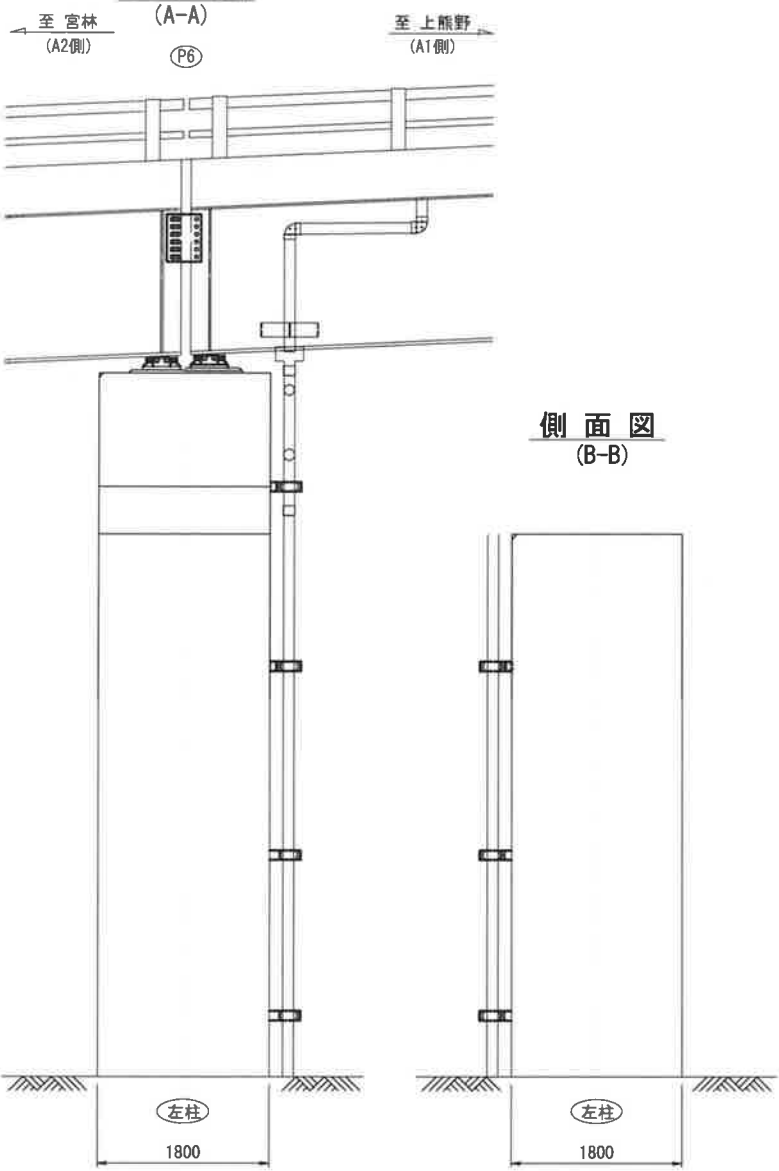
正面図



平面図



側面図



側面図

(B-B)

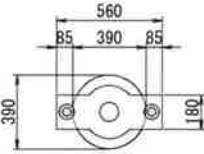


CCB表面保護工 施工面積

<P6>

箇所	幅(m)	高さ・長さ(m)	員数	施工面積(m2)
梁上面	1.800	12.000	1	21.60
梁正面	12.000	0.100	2	2.40
梁側面	1.800	0.100	2	0.36
控除(支承部)		-0.150m2	4	-0.60
合計施工面積				23.76

支承平面積



1基当り平面積

$0.390^2 \pi / 4 + 0.180 \times 0.085 \times 2 = 0.150m^2$

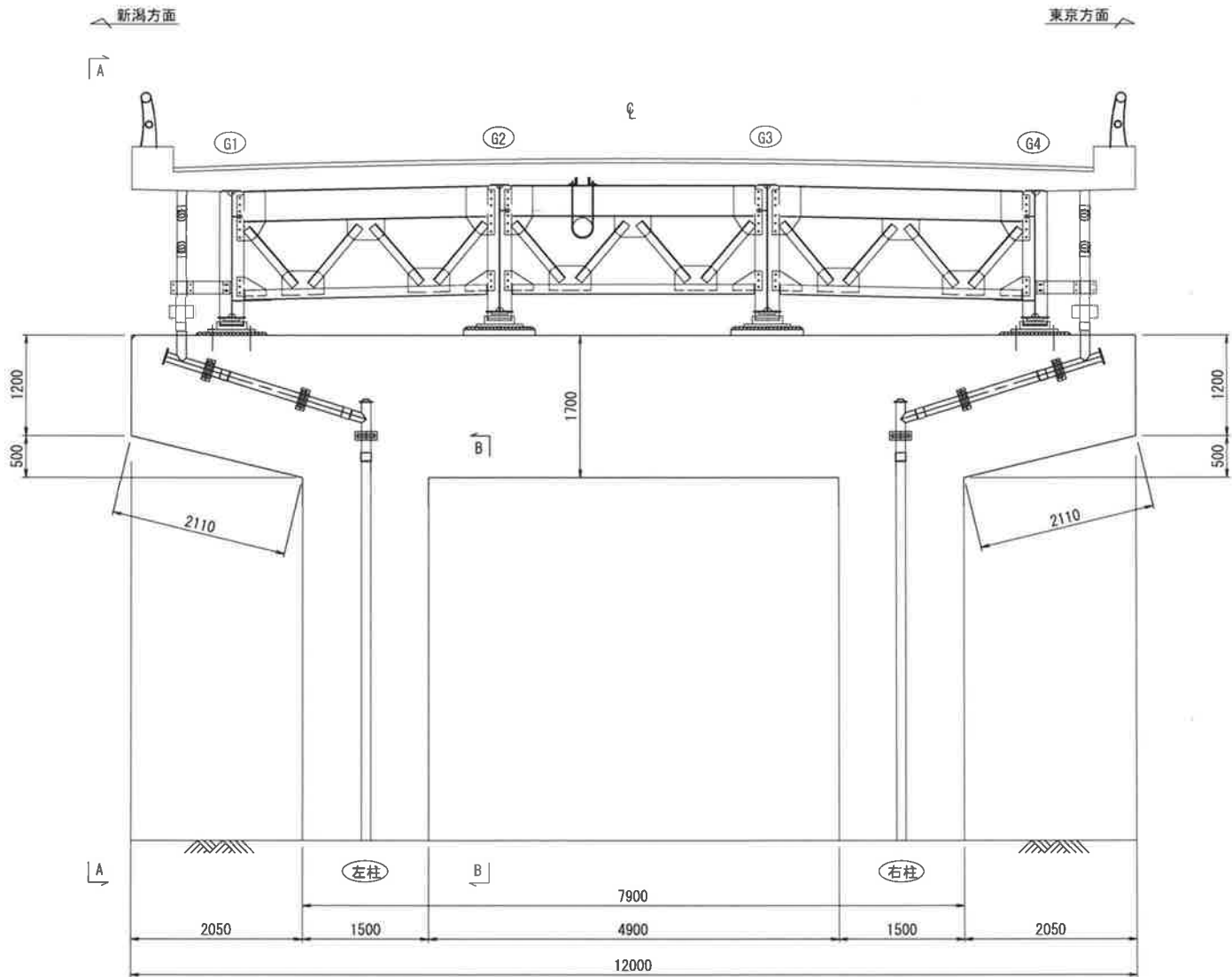
注記)

- 補修箇所は、必ず現地確認の上で施工を行うこと。
- 施工に際しては、必ず現地にて補修箇所及び数量を確認の上で行うこと。
- 桁下に支障となりうる建物があるため、移設や撤去ができない場合には、可能な範囲で補修を行うものとする。

工事名	城平跨線橋 下部工表面保護工・剥落防止工(その5)		
図面名	平成30年12月 日		
作成年月日	縮尺	図示	図面番号 83 / 85
会社名	株式会社 構造技研新潟		
事業者名	湯沢町地域整備部建設課		

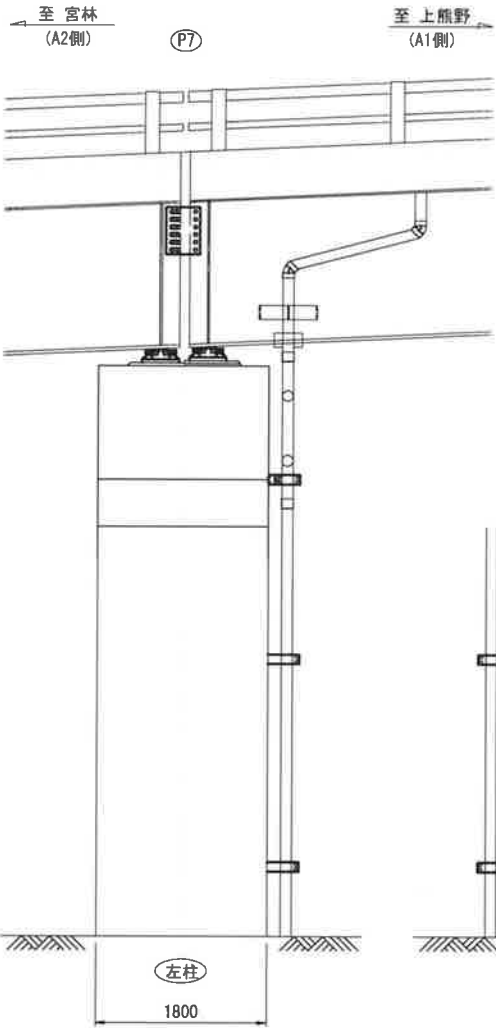
P7橋脚

正面図



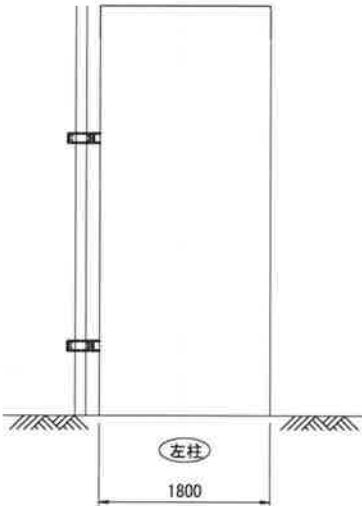
側面図

(A-A)

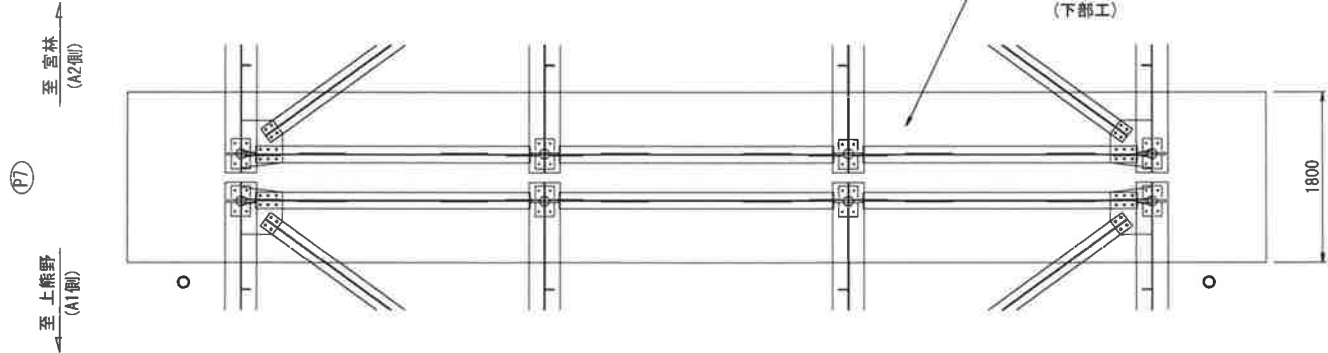


側面図

(B-B)



平面図

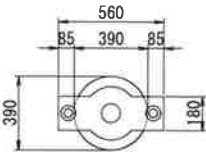


CCB表面保護工 施工面積

<P7>

箇所	幅(m)	高さ・長さ(m)	員数	施工面積(m2)
梁上面	1.800	12.000	1	21.60
梁正面	12.000	0.100	2	2.40
梁側面	1.800	0.100	2	0.36
控除(支承部)		-0.150m2	4	-0.60
合計施工面積				23.76

支承平面積



1基当り平面積

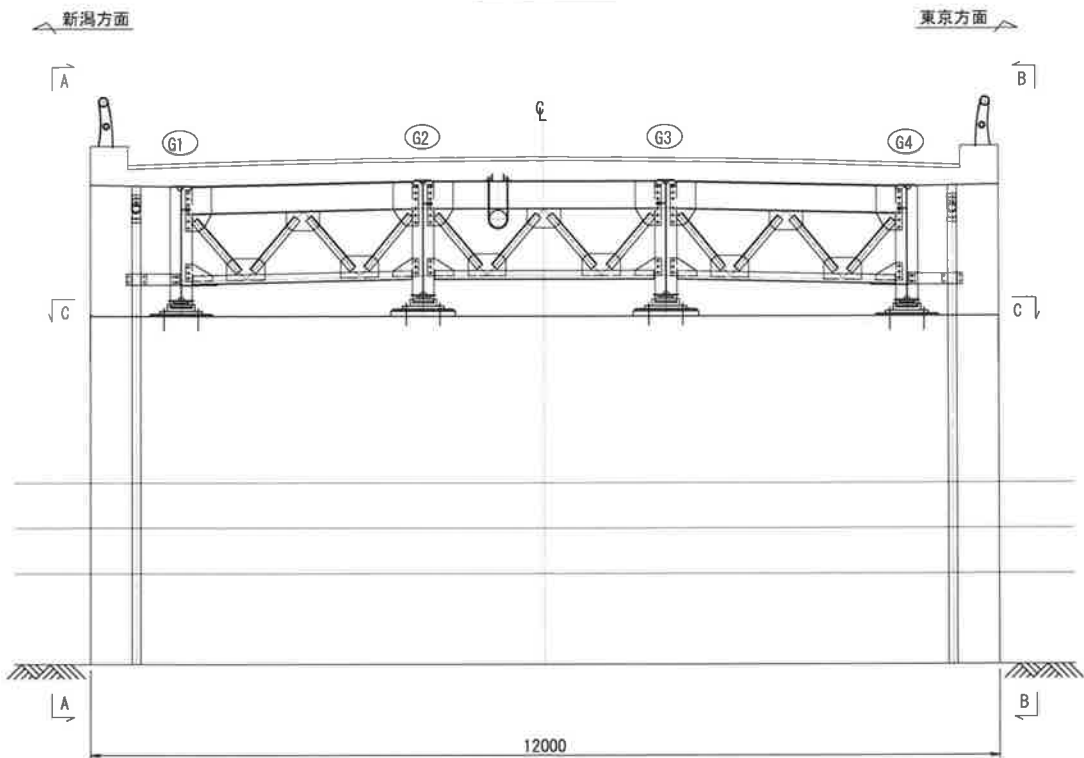
$0.390^2 \pi / 4 + 0.180 \times 0.085 \times 2 = 0.150m^2$

- 注記)
- 補修箇所は、必ず現地確認の上で施工を行うこと。
 - 施工に際しては、必ず現地にて補修箇所及び数量を確認の上で行うこと。
 - 桁下に支障となりうる建物があるため、移設や撤去ができない場合には、可能な範囲で補修を行うものとする。

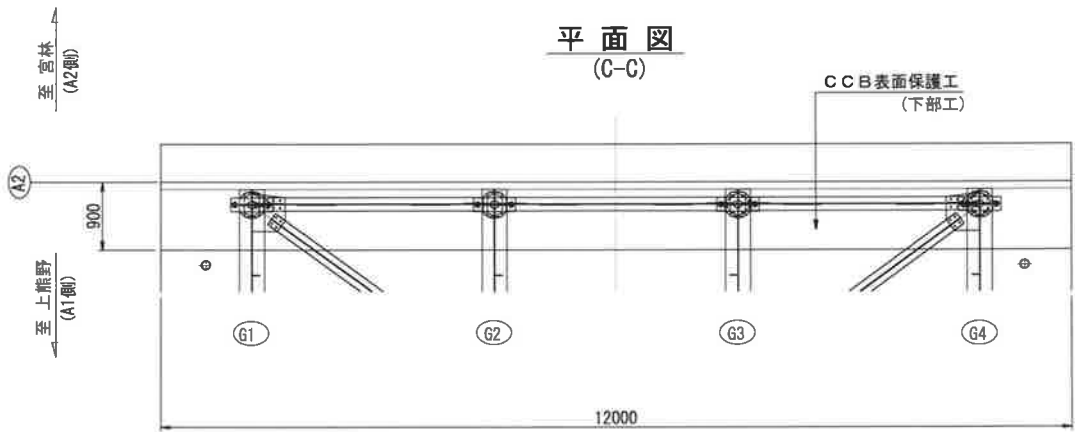
工事名			
図面名	城平跨線橋 下部工表面保護工・剥落防止工(その6)		
作成年月日	平成30年12月 日		
縮尺	図示	図面番号	84 / 85
会社名	株式会社 構造技研新潟		
事業者名	湯沢町地域整備部建設課		

A2橋台

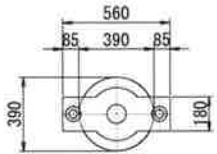
正面図



平面図 (C-C)



支承平面積



1基当り平面積
 $0.390^2 \pi / 4 + 0.180 \times 0.085 \times 2 = 0.150\text{m}^2$

CCB表面保護工 施工面積

<A1>

箇 所	幅 (m)	高さ・長さ (m)	員 数	施工面積 (m2)
胸壁前面	12.000	0.100	1	1.20
橋座平面	0.900	12.000	1	10.80
豎壁正面	12.000	0.100	1	1.20
側面	0.900	0.100	2	0.18
控除(支承部)	-0.150m2		4	-0.60
合計施工面積				12.78

注記)

- 補修箇所は、必ず現地確認の上で施工を行うこと。
- 施工に際しては、必ず現地にて補修箇所及び数量を確認の上で行うこと。
- 桁下に支障となりうる建物があるため、移設や撤去ができない場合には、可能な範囲で補修を行うものとする。

工事名			
図面名	城平跨線橋 下部工表面保護工・剥落防止工(その7)		
作成年月日	平成30年12月 日		
縮尺	図示	図面番号	85 / 85
会社名	株式会社 構造技研新潟		
事業者名	湯沢町地域整備部建設課		